

524  
415

家畜保險資料第二號 (大正十五年四月)

家畜保險論

農林省畜產局



始





大正十五年四月

緒言

アルフレッド・フラツシヤー氏著農業保險  
四年版) 第二編 家畜保險ヲ翻譯シタル  
リ

農林省畜産局



524-415

# 家畜保險論

## 目次

第一章 緒論	一頁
第二章 家畜傳染病ニ關スル立法	六
第一節 家畜傳染病ニ關スル立法ノ沿革	六
第二節 家畜傳染病ニ關スル立法ノ現狀	九
第三章 家畜生命保險	一七
第一節 家畜生命保險ノ沿革	一七
第二節 家畜生命保險ノ事業形態及其組織	二一
第一 地方家畜保險組合	二二
第二 比較的大規模ナル家畜保險會社	二五
第三 官立家畜保險所	二八



大正十五年四月

同平會ニ於テハ一編ニ於テハ家畜保險ノ研究ニ關スルモノヲ  
 一編ニ於テハ家畜傳染病ニ關スルモノヲ一編ニ於テハ家畜生命保險  
 ニ關スルモノヲ一編ニ於テハ家畜保險ノ研究ニ關スルモノヲ

編輯者 山本 實



二

第三節 家畜生命保險ノ法律の基礎……………三四

  第一 家畜生命保險ノ目的及損害填補ノ方法……………三五

  第二 家畜生命保險ノ本質……………三六

  第三 保險費用ノ徵收……………三八

  第四 保險契約有効期間ニ於ケル保險契約者ノ責任……………三九

  第五 保險事故ト其法律的效果……………四二

  第六 家畜生命保險契約ニ及ホス占有異動ノ影響……………四五

第四節 家畜生命保險ノ技術の原則……………四七

第四章 屠畜保險……………五三

  第一節 屠畜保險ノ沿革……………五三

  第二節 屠畜保險ノ企業形態及其組織……………五六

    第一 地方的屠畜保險……………五六

    第二 營業範圍ノ汎キ私營屠畜保險……………五七

    第三 官立屠畜保險所……………五八

第三節 屠畜保險ノ法律上ノ基礎……………六五

  第一 屠畜保險ノ目的及損害填補方法……………六五

  第二 屠畜保險契約ノ本質……………六七

  第三 保險費用ノ徵收……………六九

  第四 保險事故ト其法律上ノ効果……………七一

  第五 屠畜保險契約ニ及ホス占有異動ノ影響……………七二

第四節 屠畜保險ニ關スル技術上ノ原則……………七三

第五章 外國ニ於ケル家畜保險……………七七

  第一節 奧太利洪牙利ニ於ケル家畜保險……………七七

  第二節 瑞西ニ於ケル家畜保險……………八〇

  第三節 佛蘭西ニ於ケル家畜保險……………八二

  第四節 其他諸國ニ於ケル家畜保險……………八五

第六章 結論……………八七

# 家畜保險論

## 第一章 緒論

土地ノ生産物ヲ電害ニ對シテ保險スルコトガ農業ノ基礎ヲ經濟上堅實ナラシムルカ如ク凡テノ家畜ノ損害ニ對シテ保護ヲ加  
 コトノ必要ナルハ家畜ノ現飼養頭數ニ投シタル資本ノ莫大ナルヨリ觀テモ感スルノミナラス群羊ニ對スル投資ハ姑ラク論外  
 トスルモ馬ニ此ノ投資額タルヤ最近ノ調査ニ係ル家畜統計ニ依ルニ年々歲々遞増傾向ヲ帶フルモノアルヲ見ルニ至リテハ  
 益々此ノ感ヲ深クスルモノナリ、且飼羊以外ノ凡テノ畜産ハ主ニ小農、中農ニ集中セラレ居リ彼等ノ財力ハ微弱ナルカ爲ニ  
 一朝家畜損失ノ不幸ニ逢着センカ大農ニ比シ其ノ受クル打撃ハ迥ニ甚大ナリト謂フヘク此ノ點ヨリ見ルモ家畜ノ損失ヨリ生  
 スル經濟的損害ヲ除キ右ハ輕減セントスル施設ハ重大ナル社會的意義アルモノト云フヘシ

一九〇〇年及一九〇七年ノ家畜統計ニ依レハ獨逸國內ニ於ケル家畜ノ飼養頭數左ノ如シ

年次	馬	牛	豚	羊	山羊
一八八三年	三、五二二、五四五	一五、七八六、七六四	九、二〇六、一九五	一九、一八九、七一五	二、六四〇、九九四
一八九二年	三、八三六、二七三	一七、五五五、八三〇	一二、一七四、四四二	一三、五八九、六六二	三、〇九一、五〇八
一九〇〇年	四、一九五、三六一	一八、九三九、六九二	一六、八〇七、〇一四	九、六九二、五〇一	三、二六六、九九七
一九七〇年	四、三四五、〇四三	二〇、六三〇、五四四	二二、一四六、五三二	七、七〇三、七一〇	三、五三三、九七〇

此ノ價值ニ關スル統計左ノ如シ(單位百萬「マルク」)

年次	馬	牛	豚	羊	山羊	計
一八八三年	一、六七八・七	三、〇七四・三	四七六・七	三〇六・六	三九・七	五、五七六・〇
一八九二年	一、八八一・八	三、五四七・三	六八四・七	二一七・七	四八・〇	六、三三九・五
一九〇〇年	二、三五二・一	四、一八二・三	九一三・七	一九四・八	五四・六	七、六九七・五
一九〇七年	二、五二〇・一	四、七四五・〇	一、三二八・八	一五四・一	七〇・七	八、八一八・七

農業ノ規模ノ大小別ニ從ヒ家畜ノ現在總頭數ヲ區分センカ一九〇七年六月十二日ノ農業統計ニ依レハ左ノ如キ數字ヲ示セリ(但此ノ統計ニハ農業ト連絡アル家畜ノミヲ舉ケタリ)

等級	土地ノ廣袤	馬	牛	豚	羊	山羊	計
I	五「ヘクター未滿」	三二、〇〇五	八、〇四〇、八九五	三三、七四〇、五三三	三九、七	七七五、六九三	八、七一六、四三四
II	五—二〇「ヘクター」	一、三三三、二九〇	二七、九七七、〇九二	三九、四六六、三三八	三三、六	一、四四八、五三五	一、六一、二
III	二〇—一〇〇	一、二〇一、七六六	二二、三四五、〇五七	二六、五五五、一五六	一九、四	二、三六六、二六八	二、六、一
IV	一〇〇以上	六五三、五三六	一八、七二二、三三九	一一、六一一、三六六、七三三	七、三	四、三七一、〇三三	四九、〇
計		三、三二一、〇〇五	一〇〇、〇一九、九七七、一四九	一〇〇、〇一八、八六五、九一八	一〇〇、〇八九二、五九九	一〇〇、〇一、五九九	三、六三三、九〇八

註 羊ト山羊ニ關スル農業統計ノ數字ハ一般家畜統計ノ數字ヨリ多シ、之レ前者ハ一九〇七年六月、後者ハ同年十二月ノ事實ニ依リメレハナリ

家畜頭數ノ減少ヲ招ク所ノ危險從テ之カ爲メ家畜飼養者ノ蒙ムル經濟上ノ打擊ハ固ヨリ其ノ原因ノ如何ニヨリテ一様ナラス或ル場合ハ獸疫ニ原因シ或ル場合ハ其ノ他ノ疾病ニ胚胎シ或場合ハ屠殺後ニ至リテ漸ク發見セラレタル潜在の瑕疵ニ依リテ起ルコトアリト雖モ就中獸疫ノ場合ハ大概一時ニ多數ノ斃死ヲ賭ルヘク當該地方ノ經濟力之カ爲メニ多大ノ動搖ヲ受クルコト罕ナラサルヲ以テ此ノ場合ニ生スル損害ニ對シテ飼養者ヲ保護スル必要最モ多ク此ノ點ハ今モ昔モ渝ラサル所トス而シテ一面衛生警察ノ見地上ヨリ又他面多數ノ家畜カ獸疫ニ罹リタル場合ニ各家畜飼養者カ私ニ團結シテ之カ豫防策ニ腐心シテモ徹底的ニ效果ヲ擧クコト能ハサルコトヨリシテ國家ハ豫防策ヲ擬ラスト共ニ撲滅策ヲ講スル處ノ剴切ナル保護立法ヲ用ヒテテ對獸疫策ヲ採ルニ至レリ抑々斯カル施設ニ依リテ家畜飼養者ニ經濟的損害アル場合直ニ國家カ賠償スルコト、ナルトハ速斷シ難キモ世界諸國苟モ獸疫ノ害ヲ防カントスル施設ヲ爲セルモノハ凡テ飼養者ノ損害ノ全部若ハ一部ヲ公費ニテ補填スルノ道ヲ講セサルハナク就中歐洲諸國ノ大部分ハ家畜所有者ノ反對給付ナクシテ此ノ公費補填ノ舉ニ出テツツアリ只獨逸ニテハ獸疫損害ニ對スル填補給付ノ一部分ヲ國家カ負擔シ殘餘ハ強制保險ノ制度ヲ實施セシメテ關係者タル各家畜所有者ヨリ醜集スルノ方法ヲ採リ居レリ

家畜ニ對スル第二ノ脅威ハ普通ノ傷病ナリ、傷病ハ各家畜特有ナル定期的減少ヲ意味シ、之ヨリ生スル損害ハ或程度マテ定期ノ支配ヲ免カレス、此ノ減少ハ家畜ニ對スル細心ノ注意適當ナル飼料又ハ使役時間ノ相當制限等ニヨリテ多少ノ緩和ヲ見ルヘキモ、或一定限度以上ノ緩和ヲ望ムコト能ハサルモノナルヲ以テ家畜ヲ飼養スル農家ニシテ傷害發生ノ際損害ヲ少ナカラシムル爲ニハ其ノ飼養家畜總頭數ニ對シ比率ノ大ナル原資償却ヲ行ハサルヘカラス、然レトモ少數若ハ稍多數ノ家畜ヲ飼養スル者ニアリテハ僅々一頭ヲ失ヒテモ其ノ流動資本ノ全部若ハ大部分ヲ失フ事トナリ延ヒテハ其ノ經濟上ノ獨立存在ヲ多

少クトモ危殆ニ瀕セシムル虞アルヲ以テ原資償却主義ヲ採リテ好結果ヲ得ルモノハ唯多數ノ家畜ヲ飼養スル者ニ過キス、其  
他ノ者ハ家ノ損失ニ因リテ蒙ルヘキ損害ヲ防ク他ノ手段ヲ採ラサルヘカラサルナリ、而シテ之カ爲ニハ家畜生命保險制度ヲ  
實施スルヲ最モ得策ナリトナス

農業ノ大小別ニ從ヒ家畜飼養頭數カ如何ナル分布ヲ爲セルカヲ示シタル前掲一覽表ニ明カナルカ如ク畜産家ノ大部分ハ小農  
若ハ中農ニ於テ之ヲ占ムル現狀ナレハ保險ノ保護ヲ受クヘキ資本ハ何十億ヲ計フ、然レトモ家畜生命保險ノ第一ノ目的ハ決  
シテ家畜頭數ニ對スル直接ノ保全ヲ保障スルニ非ス、縱令保險契約者ノ經濟上ノ獨立力之ニ由テ鞏固ニナリ其ノ堅實ヲ増ス  
上ニ於テ多大ノ意義アルモ夫ハ全體ヨリ觀レハ寧ロ第二位ノ利益ニシテ保險ニ依リ享受スル利益ノ主ナルモノハ寧ロ他ニ在  
リ、即保險契約者ハ保險ニ依リ其ノ運轉資本ノ消滅ヲ防止スルコトヲ得ルヲ以テ比較的良畜ヲ選ンテ家畜ノ飼養改善ヲ計ル  
コトヲ得ヘク、且又保險ニ付セハ既令等ヲ衛生的ニシ飼料ニ就テモ克ク其ノ目的ニ適フモノヲ擇フコトニナリ又場合ニ依リ  
テハ病畜ニ對シ獸醫ヲシテ迅速ニ手當ヲ與ヘシムル規定ヲ設クルコト等トナルヲ以テ飼養家畜ノ保健狀態ヲ向上發展セシム  
ルニ好影響ヲ與フルモノナリ、家畜屠殺等ニ因リ損害ヲ受クル可能性ハ又檢肉ノ際ニ於ケル官憲側ノ異議ニ基ク所多シ、檢  
肉制度ノ開始普及ノ結果官憲側ノ販賣差止命令ニ基キテ受クヘキ損害ヲ或ル方法ニ依リ填補スヘシトノ要求モ發生シ漸次其  
ノ度ヲ強ムルニ至リ、檢肉制度ノ爲ニ或ル價值アルモノモ無價值ト爲リ損害ヲ被ムル場合アルヘキヲ以テ此ノ損害ヲ補填ス  
ルハ國家ノ義務ナリト主張スル者サヘ生スルニ至レリ、然レトモ國家カ肉ヲ檢査シタレハトテ故ラ價值アルモノヲ無價值ニ  
スルカ如キ暴舉ヲ行フニハ非ス寧ロ初メヨリ世人カ有價值ナリト誤認シ居タリシモノヲ國家カ檢肉ニ依リテ事實上無價值ナ  
リト確認シタルニ過キサルモノナルヲ以テ國家ニ賠償義務アリトノ說ハ問題ニスヘキニ非ス、檢肉ノ爲ニ損害ヲ蒙ルニ至

リタル者ヲシテ結局損害ナカラシメントスルニハ須ラク他ノ方法ニ依ルヘク、屠殺損害保險即所謂屠畜保險制度ノ設立ハ此  
ノ問題ヲ最モ適切ニ解決スルモノト云フヘシ

檢肉上ノ異議ニ基ケル損害額ハ要スルニ無價值トナリタル家畜ノ全部又ハ一部ノ價額及家畜ノ減少價額ヲ填補スル額ヨリ成  
リ獨逸全國ヲ通シ毎年四千萬「マルク」ヲ算ヘ此内約三千萬「マルク」ハ牛、約二百萬「マルク」ハ犏、約八百萬「マルク」  
ハ豚、約五十萬「マルク」ハ羊ト山羊ニ關スルモノナリ、而シテ屠殺當時異議ノ目的トナリタル家畜ノ所有者カ先ツ第一ニ  
此ノ損害ヲ負擔スルモノナレトモ屠畜ノ賣買ニ際シ保證ヲ爲スノ規定ニ基キ後日確認サレタル瑕疵缺陷ニ對シ責任ヲ負擔ス  
ヘキ者モ亦間接ニ之カ損害ヲ蒙ルコトトナルナリ、即屠畜保險ハ一面ニハ肉販賣業者ニ對シ直接生スル損害ヲ補填シ他面  
ニハ屠畜ニ潜在スル瑕疵ニ基キ或ル請求ヲ受クルコトアルヘキ脅威ニ就キ農業者ヲ保護スルコトトナル  
家畜ノ損失ニ依リ蒙ルムルヘキ損害ヲ防止スル爲保險制度ヲ設立スルコトハ能ク損害防止ノ目的ニ適ヘルモノト云フヘシ、即  
損害ヲ齎ラスヘキ事實ノ發生ハ何レノ場合ニ於テモ可能性アリト雖モ未確定ニシテ且多數保險契約ノ集合スルコトニ依リ損  
害額多額ニ達スルモ各人ニ多額ノ負擔ヲ課セスシテ當初期待ノ調節作用即危險分擔ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ家畜生命保險  
ニアリテハ保險事故即損害發生ノ場合ニ保險契約者ノ干與スル可能性アルコトヲ豫想セサルヘカラス從テ保險契約有效期間  
中、間斷ナク監視ヲ行ヒ又損害發生ノ場合ニハ慎重精密ナル檢査ヲ行フトイフ事情ヲ特ニ念頭ニ置クコトハ家畜生命保險ノ  
營業上極メテ重視スヘキコトナリ、損害ヲ徹底的ニ防止シ減少シ並ニ保險需要ヲ當然向上スルコトヲ期待センニハ唯此ノ一  
途アルノミナリ

抑々公益ヲ眼中ニ置クコトハ家畜保險モ電害保險ニ異ナラサルヲ以テ結局保險ヲシテ克ク其ノ目的ニ副ハシメ料金モ低廉ニ

ナラシムヘキナリ、然レドモ此ノ兩特性ハ唯或ル場合ニ限り相提携シテ現ハレ然モ是ニ由テ家畜保險ヲシテ其ノ國民經濟上ノ任務ヲ盡クサシムル可能性ヲ生スルモノナリ、即、保險ニ附シタル家畜ヲ恒久的ニ克ク監督シ得ル様ニシ而カモ之カ爲ニ保險契約者ニ特ニ負擔ヲ課セズシテ此ノ目的ヲ達シ得ル様ニ其ノ保險業ヲ經營スル場合ニ限り行ハルルモノナリ

## 第二章 家畜傳染病ニ關スル立法

### 第一節 家畜傳染病ニ關スル立法ノ沿革

家畜傳染病ニ關スル立法ハ蓋シ「フリードリッヒ」大王ノ時代「ジュレージン」州ニ行ハレタル牛疫豫防ニ關スルモノ其ノ濫觴ナルヘシ

一七六五年十一月二十九日附公達ニ基キ同州全般ニ亘リ幾多ノ保險組合カ設立セラタレタリ、此ノ組合ノ目的ハ加入者ヲシテ其ノ飼養スル牛ヲ保險ニ附セシメ而テ獸疫ノ爲ニ受クル損害ヲ悉皆共同ニ分擔セシメントスルニアリタリ、一八〇三年四月二日ノ規定ニ依リ此ノ施設ノ範圍ハ擴大セラレ牛疫ノ外尙肺結核炭疽及狂犬病ヲモ同一ニ取扱フニ至レリ、然レトモ牛疫ハ他ノ獸疫ニ比シ一層峻嚴ナル取扱ヲ受ケ即他ノ獸疫ニ付テハ其ノ流行中ハ獸疫ニ罹レル家畜ノ既合等ヲ閉鎖シ交通遮斷ヲ行ヘハ足ルモ牛疫發生ノ場合ニハ飼養頭數十頭以下ナラハ其ノ全部ヲ屠殺スル規定ヲ設ケタリ、而シテ此ノ屠殺ニ依リテ賠償セララルル所謂補填額ハ既ニ疾病ニ罹レル家畜ニ在リテハ其ノ價額ノ三分ノ一單ニ傳染豫防ノ爲ニ撲殺セラレタル健全ナル家畜ニ在リテハ其ノ價額ノ全部ニ相當スルモノトセリ、尙其ノ他ノ傳染病ニアリテハ賠償金ヲ交付シタルコトナク、一八三五年八月八日附ノ追加規定モ國家ニ賠償義務ヲ生スル程ノ擴張規定ヲ設ケサリキ

交通狀態及家畜賣買ノ發展ニ伴ヒ内面的ニモ地域のニモ規模小ナル此ノ獸疫立法ハ忽チ不完全ノモノト認メラレタリ、就中家畜所有者ハ損害填補ノ途ナキ獸疫ナルトキハ之ヲ官憲ニ届出ツルモ何等ノ利益ナキ爲届出ヲナサリシ結果遂ニ獸疫ニ侵サレタル群畜ヲ隔離スヘキ適當ナル措置ヲ施シ難キ場合ヲ生シ之カ爲メ十九世紀ノ六、七十年代ニ於テハ牛ノ肺結核ハブロイセンノ東部諸州ニ於ケル常態トナリ毎年莫大ノ價額ヲ徒ラニ失セ而カモ飼養者ハ之カ填補ヲ得ルノ途ナキニ至レリ南獨逸ノ諸邦ニ於テハ事情殆トニ類スルモノアリ即特定獸疫ヲ撲滅セントスル規定(特ニ肺結核及炭疽ニ就テ)ハ設ケラレタルモ殆ト到ル所徒ラニ空文徒法ノ觀ヲ呈シ結局其ノ立法ノ目的ヲ達セサリキ

是ニ於テ獸疫ノ蔓延ヲ防カントスル對策ノ統一の規定ヲ設ケル必要ハ益々増大シ遂ニ最モ危險性ニ富メル獸疫ヲ防止スル爲ニ一八六九年四月七日北獨逸聯邦ノ領内ニ對シ「牛疫取締法」ヲ設ケ其後一八七八年五月二十一日法律ヲ以テ此ノ適用地域ヲ擴張シ獨逸全國ニ及ホセリ、縱令獨逸ノ新憲法第四條第十五號ニ於テ獸疫警察ニ關スル立法ハ獨逸國ニ留保セラレタリトハイヘ爾後數年間ハ一般的ノ獨逸獸疫法ノ實現ヲ期待スル望アラサリシヲ以テ「ブロイセン」ニテハ止ムヲ得ス地方立法ニ依リ組織的ノ獸疫豫防ヲ行フコト、ナリ一八七五年六月二十五日法律「獸疫防止及撲滅ニ關スル件」ヲ制定セリ、此ノ法律ハ鼻疽、肺結核、炭疽、流行性鵝口瘡、痘瘡、疥癬、恐水病ノ豫防ヲ目的トスルモノニシテ申告義務及所要取締ニ關スル規定ヲ悉ク網羅シタルハ之ヲ以テ嚆矢トス、損害填補ノ程度ニ就テハ鼻疽ハ實價ノ四分ノ一、(但最高ハ實價ノ半額)肺結核ハ實價ノ半額(最高ハ實價ノ五分ノ四)ナリ、填補給付ヲ爲スヘキ義務者ハ州ナル聯合體タルヲ原則トシ所要費用ハ其ノ州ニ於テ飼養頭數ノ多寡ニ應シ牛馬所有者ヨリ掛金ヲ強制的ニ拂込マシメテ之ニ充ツルモノトス

此ノ法律ハ實施後頗ル實際ニ適應セルモノタルヲ認メラレ實施後數年ナラスシテ鼻疽、肺結核等ノ傳染病ハ著シク其ノ數ヲ



減少セリ之レ畢竟該法律實施以來ハ獸疫發生後直チニ之カ對策ヲ講シ得タルヲ以テナリ、然レドモ傳染病減少ノ事實ハ一般  
的ノ獨逸獸疫法制定ノ必要ヲ裏書シ遂ニ獨逸農會及獨逸獸醫會ト交渉ヲ重ネタル結果一八八〇年六月二十六日附ノ「獸疫豫  
防及撲滅ニ關スル件」法律發布ヲ見ルニ至レリ

此ノ新定法律ハ大體ニ於テ一八七五年六月二十五日ノ「プロイセン」邦法律ニ立脚シタルモノナレトモ聯邦毎ニ行政官廳ノ  
異ナル爲獸疫豫防手續又ハ損害填補ニ要スル費用徵收方法ニ關シ獨逸國一般ニ適用セラレヘキ法規ヲ制定スルニ際シ幾多ノ  
難關ニ逢著シ、結局唯根本ノミニ觸ルル規定ヲ設クルコトトナリ鼻疽ニ對スル填補ヲ一般價額ノ四分ノ三、肺結核ニ對スル  
填補ヲ同五分ノ四ト定メ尙此ノ立法ノ運用ヲ各邦ニ一任シタリ

翌年ニ至リ「プロイセン」ニ於テ發布シタル施行規則ニ依レハ鼻疽、肺結核ニ對スル損害填補額ノ徵收及拂渡ノ場合ハ州ナ  
ル聯合體ニ於テ其ノ他一切ノ場合ハ當該聯邦ノ國庫ニ於テ此ノ事務ヲ取扱ハシメ、且國、州ノ負擔セサル賠償ハ牛馬所有者  
ノ強制掛金ニ依リ拂渡當局者タル公金庫ニ送金スルモノトス、炭疽又ハ氣腫疽ノ爲ニ斃死シ若ハ此等獸疫カ原因トナリテ撲  
殺セラレタル家畜ニアリテモ州ノ決議アリタル場合ハ鼻疽若ハ肺結核ノ場合ト同一ノ原則ニ依リ賠償金ヲ交付セラルルモノ  
トス、其ノ後久シカラスシテ他ノ聯邦ニテモ之ニ類スル施行規則ヲ法律ヲ以テ制定シタリ、即「ウユルテンベルヒ」ニテハ  
一八九三年ヨリ流行性鵝口瘡ニ因ル損害ヲ「バーデン」ニテハ一八九八年ヨリ豚「ペスト」其ノ他豚疫ニ依ル損害ヲ填補ス  
ルコトトナリ又「サククセン」王國ニテハ一九〇〇年ヨリ流行性鵝口瘡並ニ馬ノ腦脊髓膜炎ニ基因スル損害ヲ「ヘツセン」  
大公國ニテハ一九〇一年ヨリ豚丹毒ニ基ケル損害ヲ賠償スルコトトナレリ  
豫防注射カ奇效ヲ奏セシ例並ニ注射シタル家畜カ注射ノ爲ニ斃死シタル例ノ幾多ノ獸疫中極メテ罕ニ存スルコトハ爾來歲ヲ

經ルニ從ヒ實驗上明白トナレルヲ以テ遂ニ一八九四年五月一日附ヲ以テ獸疫法ナル獨逸法律ノ改正法カ發布セラレタリ、此  
ノ改正法ニ依レハ特ニ肺結核ニ對シスカル豫防注射ヲ行フコトニ付キ聯邦ノ立法ヲ以テ規定シ得ルコトトナリ同時ニ又注射  
ニ因リテ死亡シタル家畜ニ對スル賠償ハ獸疫ノ場合ニ準シ同一ノ程度ノ額ヲ支給セラルルコトトナレリ

獨逸獸疫法ノ改正ノ結果防疫並獸疫ニ因ル損害ノ填補ニ關スル運用ノ基礎ハ獨逸全土ニ亘リテ設ケラレ此ノ法律並ニ聯邦ノ  
定ムル施行規則ニ依リ設ケラレタル施設對策カ好果ヲ齎シタルハ疑ヲ容レサル事實ニシテ、曾テハ莫大ナル損害ノ原因トナ  
リタル幾多獸疫ニ對シ今ヤ獨逸ノ家畜ハ其ノ脅威ヲ全然若ハ多少免カレ得ルニ至レリ例ヘハ牛ノ肺結核ノ如キ今日ハ全ク其  
ノ痕跡ヲ絶テリト看做シ得ヘク又羊痘等ハ極メテ罕ニ睹ル所トナリ竟ニ數年後ニハ全ク終熄スヘク、馬ノ鼻疽モ亦統計上著  
シク減少シタリ、然レトモ亦他ノ一面ニハ全然好果ヲ認メサル若ハ微弱ナル效果ヲ見ルニ過キサリシ獸疫モナキニアラス、  
例ヘハ炭疽、羊ノ疥癬、流行性鵝口瘡、豚疫及豚「ペスト」ノ如シ

從來ノ對策ニハ畜産方面ノ農業界カ獸疫立法ニ關シテ爲セル要求ニ尙副ハサリシモノアリ從テ當時施行セラレタル法規ニハ  
尙内容ノ改善追補ヲ要スルモノアリ、加之法律上ノ規定ヲ猶缺如セル而カモ益々熾烈ヲ極メントスル牛疫ニ對シテモ國家側  
ノ干涉ハ必要避クヘカラサルノ事情アリタルヲ以テ獸疫警察ニ關スル法規ノ改造ハ避ケ難キコトトナリ、遂ニ一九〇九年六  
月二十六日附獨逸國法律ヲ以テ獸疫法ヲ制定シ一九一二年五月一日ヨリ之ヲ施行シタリ

### 第二節 家畜傳染病ニ關スル立法ノ現狀

一九〇九年六月二十六日附法律ハ牛疫ヲ除キ凡テ傳染性ヲ帯ヘル獸疫ノ防疫手續ヲ詳細ニ規定シタルモノニシテ牛疫ヲ除外

シタルハ既ニ獨逸國法律ヲ以テ牛疫ニ關スル防疫其他ヲ規定シタルニ依ル、防疫策ノ制定並運用ニ關スル當該官憲ノ權限ニ關スル件及此ノ手續費用ノ支辨ニ關スル件ニ就テハ孰モ聯邦政府ニ於テ當該施行規則ヲ定メ夫々規定スルコトナレリ。

此ノ規定ニ基ツキ對外關係トシテ傳染性ノ獸疫ニ侵サレ若ハ之カ爲ニ斃死シタル家畜並傳染ノ疑アル家畜ハ勿論性質上傳染病菌保有者タリ得ル物ノ國內輸入ヲ禁止シ且防疫上ヨリシテ生死ノ如何ニ拘ラス、家畜ノ輸入又ハ動物性ノ生産物ノ輸入ヲ一般的若ハ特定ノ國境地方ニ限リ禁止シ又ハ限定スルコトアルヘク、防疫ノ目的ヲ達センカ爲ニ國境地方ニ於ケル家畜トノ交通ニモ亦特ニ干涉ヲ加ヘ得ルコトナリ、更ニ又現ニ獸疫ニ罹レル又ハ其ノ疑アル家畜ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ獨逸國內ヲ通過セシムルコトヲ防遏スル爲ニ陸運又ハ海運ニテ輸入セル總テノ單蹄動物、反芻動物及豚ノ健康診斷ヲ國境若ハ輸入港ニ於テ防疫獸醫官ヲシテ爲サシメ獸疫ニ罹レルモノ若ハ其ノ疑アリト診定サレタル家畜ハ其輸入ヲ禁止シ海路輸入セラレ獸醫タル防疫官ニ依リ上陸差支ナシト認メラレタル反芻動物及豚ハ一旦特設ノ檢疫所ニ收容ノ上概テ四週間ノ檢疫期間ヲ通過シタル後初メテ輸入若ハ國內通過ヲ承認サルコトナレリ。

内地ニ於ケル獸疫豫防ニ關スル法規ハ一層内容ノ充實セルモノアリ、防疫ノ有效ヲ期スル爲傳染病發生ノ場合又ハ其ノ疑似症ノ症狀ヲ呈シタル場合ニ遲滞ナク所轄警察官署ニ届出テシムルコトナセリ、申告義務ヲ伴フヘキ獸疫左ノ如シ

- 一、炭疽、氣腫疽、野獸疫
- 二、恐 水 病
- 三、鼻 疽
- 四、流行性鵝口瘡

- 五、牛ノ肺結核
- 六、羊 痘
- 七、馬ノ痘疫、馬ノ痘疹及牛ノ傳染性顆粒性腺炎
- 八、單蹄動物及羊ノ疥癬
- 九、急性豚疫及豚「ペスト」
- 一〇、豚丹毒及豚ノ蕁麻疹熱
- 一一、家禽「コレラ」及鶏「ペスト」
- 一二、牛ノ結核ニシテ一見明瞭ナルモノ但肺結核ニシテ第二期以後ニ病勢昂進スル場合又ハ乳房、子宮若ハ腸ヲ侵シタル場合ニ限ル

申告義務者トシテハ病畜所有者ヲ第一位、家畜ノ監督ヲ恒久的ニ又ハ契約上委任セラレタル其ノ代理者ヲ第二位トシ警察側ノ干涉アル以前ニ於テ、申告義務ヲ發生スル獸疫ノ發生若ハ其ノ疑似症狀ヲ呈シタルコトヲ知レル獸醫若ハ之ニ準スヘキ者、檢肉者、屠殺者及剥皮業者ハ即時申告ヲ爲スヘキ義務者トシテ第三位ヲ占ム、申告後警察官ハ直チニ獸醫官ヲ招キ而テ病畜若ハ其ノ疑アル家畜ヲ隔離スルコトニ全力ヲ傾注スルヲ要ス

防疫ヲ目的トスル警察上ノ取締ニハ豫防的ノモノト事後ニ屬スルモノトノ二種アリ例ヘハ家畜ノ輸送ニ當ル獸醫ヲシテ健康診斷ヲ爲サシメ、家畜市場又ハ家畜博覽會ノ開催ヲ制限若ハ禁止シ、獸疫病菌ト接觸スル場合ニ對スル規定ヲ設クル如キハ豫防的ノ例ニシテ斯カル豫防的取締ハ常ニ或ル獸疫ノ發生トハ液交渉ニ間斷ナク行ハルルモノナリ然ルニ撲滅的取締ハ或傳

染病ノ發生シタルトキ其ノ流行期間タケ行ハルモノニシテ例ヘハ病畜又ハ疫病疑似ノ家畜ヲ隔離シ警察側ニテ監視シ、惡疫ニ侵サレタル農舍又ハ其ノ部落全體ヲ閉鎖シテ一般家畜ノ交通ヲ遮斷シ、病畜又ハ疫病ノ疑アル家畜ニ血清注射ヲ施シ又ハ之ヲ撲殺シ、或ハ獸疫ノ發生、終熄ヲ公告スルカ如キハ撲滅的取締ナリ、既ニ發生シタル又ハ發生スル疑アル獸疫ヲ抑壓スヘキ此ノ一般的對策ハ如何ナル場合ニモ行ハレ易キモノナルガ申告義務ヲ伴フヘキ獸疫ニ就テハ尙撲殺、注射、利用等ニ關スル種々ノ特別規定ヲモ設ケタリ、

獸疫ノ撲滅ヲ期シ一般的及特別的ノ取締ヲ爲ス必要上多クノ場合警察官ニ病畜又ハ其ノ疑アルモノヲ撲殺スル權限ヲ附與シタル爲又ハ正當ノ時期ニ申告ヲナシタルニ拘ラス獸疫發生シタル爲或ハ警察命令ヲ以テ施行シタル注射ニ依リ偶々家畜ノ斃死スル爲等ニヨリ當該飼養者ハ往々多大ノ損害ヲ蒙ルコトアリ、而シテ民間ノ金ニ依リ填補セラレサル一定ノ直接ナル獸疫損害並ニ獸疫防止ノ爲メ國家カ命令ヲ發シタル結果生スル損害ニ對シ公費ヲ以テ賠償金ヲ交付スルハ正義人道ノ大則ニ副フモノナルヲ以テ獨逸家畜傳染病法ハ斯カル賠償給付ヲ爲スヘキコトヲ定メタリ、其ノ内容大略左ノ如シ

- 一、警察ノ命令ニ依リ撲殺セラレ若ハ此ノ命令ヲ發スル動機トナリタル疾病ノ爲ニ斃死シタル家畜ニ對シ
- 二、正當時期ニ爲シタル申告ノ後鼻疽又ハ肺結核ノ爲ニ斃レタル家畜ニ對シ（但シ此ノ場合ハ警察側ノ撲殺命令ヲ發スヘキ各條件ヲ具備シタルトキニ限ル）
- 三、警察側ノ命令ニ出ツル血清注射ニ依リテ斃死シタルニ相違ナシト認定サルヘキ家畜ニ對シ
- 四、炭疽又ハ氣腫疽ノ爲ニ斃死シタル又ハ死後ニ至リテ此ノ疾病カ死因タルコトヲ確認サレタル牛馬ニ對シテ賠償金ヲ附與ス

與ス

賠償程度ハ家畜ノ普通價額ヲ基礎トシテ査定セララルモノ申告義務アル結核ハ除外セラレ且凡家畜カ疫病ニ罹リタル爲又ハ注射ノ爲ニ受ケタル價額減損ノ點ハ問題トナラス

賠償金ノ程度ハ鼻疽ニ罹レル家畜ニアリテハ普通價額ノ四分ノ三、炭疽、氣腫疽、肺結核及結核ニ侵サレタル家畜ニアリテハ普通價額ノ五分ノ四トシ其ノ他ノ場合例ヘハ流行性鵝口瘡ニ罹レルトキ、注射カ死因トナリタルトキ等ハ普通價額ノ全額ヲ交付ス、家畜飼養者ニ對シテハ此クノ如クシテ査定セラレタル賠償金中ヨリ賣上金額並ニ民間ニ行ハルル契約ニ依リテ支拂ハルヘキ保險額ヲ控除シテ一般價額ノ賠償額ヲ決定ス、國有又ハ各聯邦用ニ供セララルル家畜、獨逸領土内ニ輸入スヘカラストノ禁止アルニ拘ラス輸入シタル家畜並ニ其ノ輸入後一定期間内ニ疫病ニ襲ハレタル家畜ニ對シテハ此ノ賠償ヲ爲サス、但シ輸入後ニ至リテ感染シタルコトヲ證明シタル場合ハ此ノ限ニ非ス、病畜ノ飼養者又ハ其ノ代理人カ故意又ハ過失ニヨリ獸疫申告ニ對スル法規ヲ侵シ又ハ警察官署ノ定メタル取締ニ違反シテ其ノ責ヲ免レ難キ時ハ賠償請求權ハ失效ス

賠償者ハ何人ナルカ、賠償金ハ如何ニシテ交付サルカ、實際ニ臨ンテ如何ニ賠償ヲ調査シ確認スルカ之等ノ規定ハ各邦ノ立法權内ニ屬スルモノナルモ警察ノ命令ニヨリ殺サレタル家畜ニ對スル賠償ハ之ヲ國庫支辨ト爲ササルヘカラス、此ノ場合ニ若シ家畜カ屠殺原因タルヘキ疫病ニアラザリシトキハ査定額ノ全部、流行性鵝口瘡ニ侵サレタルトキハ其ノ半額、申告義務ヲ發生スル結核ニ罹リタルトキハ査定額三分ノ一以上ヲ支給スルモコハ唯標準ナルヲ以テ各邦政府ノ定メタル法則ハ毫モ之カ爲ニ妨ケラルルコトナク、之ト同一ノ制限ヲ附シ且此聯邦規定ニ抵觸セサル限り各邦政府ハ「賠償ハ特ニ別段ノ規定ノ設ケラルル迄ハ當該種屬ノ家畜ノ所有者ヲシテ其邦ノ政府ノ定ムル規則ニ從ヒ掛金ヲ拂込マシムル方法ニ依リ之ヲ爲ス」トイフカ如キ規定ヲモ設ケ得ルモノトス、「プロイセン」邦ニテハ一九一一年七月二十五日附法律施行規則ニ依リ左記ノ場合ニ賠償

償定額ヲ州ヨリ交付ス

- 一、恐水病、鼻疽又ハ肺結核ニ因リ警察ノ命令ヲ以テ屠殺シタル家畜及此等ノ傳染病ノ何レカニ侵サレ居リ又ハ此命令ヲ受ケタル後此等傳染病ノ何レカニ侵サレタル爲ニ斃死シタル家畜
- 二、正當時期ニ届出ヲ爲シタル後、鼻疽又ハ肺結核ノ爲斃死シタル家畜（但撲殺命令ヲ警察ヨリ發セサルヲ得サル要件ヲ具備シタリシトキニ限ル）並ニ恐水病、炭疽、氣腫病、野獸疫、牛疫ノ爲ニ斃死シタル牛及單蹄動物又ハ死後此等ノ疾病ノ何レカガ確認セラレタル牛及單蹄動物
- 三、流行性鵝口瘡ニ依リ警察ノ命令ヲ以テ撲殺シタル牛此獸疫ニ罹リタル牛及警察ノ命令後此ノ獸疫ニ因リ斃死スルニ至リタル牛
- 四、申告義務ヲ發生スル結核ニ罹レル爲、警察ノ命令ニ依リ撲殺セラレタル牛此ノ病ニ罹リタル牛及警察ノ命令後此病ノ爲ニ斃死スルニ至リタル牛

此ノ第一號及第二號ニ掲ケル場合ニハ州聯合ハ賠償査定額ノ全部ヲ單獨ニテ負擔スルヲ要シ第三號及第四號ノ場合ニハ州聯合ガ此ノ賠償額ノ全部ヲ關係者ニ交付スルヲ要スルモ第三號ノ場合ニハ半額、第四號ノ場合ニハ三分ノ一ヲ國庫ヨリ拂戻サル、而シテ賠償給付ノ行ハルル其ノ他一切ノ場合ニハ國庫ヨリ支拂ハルルモノトス、賠償程度ニ關シテハ獨逸國法律ノ範圍ヲ超越シ牛及單蹄動物ノ普通價額ノ五分ノ四ニ相當スル額ヲ交付スル制度モ定メラレタリ但此牛及單蹄動物ハ炭疽氣腫病又ハ野獸疫ノ爲ニ斃死シタルモノカ或ハ死後ニ至リ此等疾病ノ孰レカニ因リ斃死シタルコトヲ確認セラレタルモノニ限り此等ノ場合ニ個人契約ニ基ケル保險金ノ通算ハ之ト同一ノ割合ニテ行ハル、其ノ他ノ獸疫ニモ賠償制度ヲ擴張スルコトニ關シテ

ハ州聯合ニ一任シタリ牛結核豫防ヲ期スル特ニ重要ナル改善ハ「プロイセン」ノ各州中大部分ニ於テ行ハレタル任意の銷却方法ナルヘシ、此方式ヲ自己ノ飼養家畜ニ應用セント欲スル牛ノ所有者ハ此ノ家畜ヲシテ毎年齡クトモ一回行ハルル獸醫ノ檢診ヲ受ケシムル義務アリ、此ノ監督期間内ニ結核即申告義務ヲ發生スヘキ疾病タルコトガ確認セラレルトキハ當該家畜ノ撲殺及賠償金ノ交付ハ前記第四號ニ掲ケタル規定ニ從ヒテ行ハルルモノトス

防疫ニ關スルコト並獸疫ニ因ル賠償ニ關スルコトハ「プロイセン」ニ於ケルト同様其他ノ獨逸諸邦ニテモ規定セラレタリ、獨逸國ノ法律ニ依リテ國家自身ガ賠償義務ヲ負ハサル限リ「バイエルン」及「エルザース、ロートリンゲン」ノ兩地ヲ除ケハ（此兩地ニテハ國庫ノミガ賠償給付ヲ爲ス制度ナリ）到ル處當該地方ニ於ケル總ヘテノ牛馬所有者ニ所要費用ヲ轉嫁シテ此ノ財源トナス、故ニ獸疫ニ因ル損害ヲ賠償スルニ就テ爲セル國家的施設ハ一種ノ強制保險ヲ意味シ賠償ハ價額ヲ標準トシテ行ハルルモ掛金ノ徵收ハ脅威ヲ受ケル飼養家畜ノ頭數ニ應シテ爲サル、價額ヲ基準トスル賠償ハ正義ノ要求ニ適スルモノニシテ頭數ノ多寡ニ應シテ掛金ヲ徵收スルコトハ「運用上ノ簡便」ナル大特長ヲ有スベシ、又獸疫賠償ノ爲ニ徵收シタル強制掛金ハ飼養家畜現在總頭數ニ對スル被賠償家畜數ノ割合少キ爲メ數年間ハ著シキ異動アリタレトモ一般ニ非常ニ少額ナリシカハ結局各當事者ノ身ニトリテ格別重キ負擔トハ思ハレサリシナリ、獨逸ノ改正獸疫法ノ行ハルル今日掛金ハ賠償範圍ノ擴大ニ因リ増徴ヲ免カレ難キモ然モ獨逸ノ家畜傳染病法規ノ組織ガ徹頭徹尾實用向キノモノニシテ幾多ノ惠ヲ垂ルル美法タルニ依リ増徴ノ結果、家畜飼養方面ニ於ケル農界ニ對スル此ノ恩惠ヲ裏切ル程ノ甚シキ増徴ヲ爲スコトハ斷シテ起ラサルヘシ獨逸國改正獸疫法ノ實施セラレル迄ハ鼻疽及肺結核ニ關スル獨逸國法律ノ規定並炭疽、氣腫病、鵝口瘡、馬ノ腦脊髓膜炎並豚丹毒ニ關スル各邦ノ法律規定ニ基キ賠償ヲ給付シタリ

損害件数及賠償金拂渡高ハ一九〇七年ヨリ一九一一年ニ至ル五箇年間ニ於テ獸疫ノ種別ニ從ヒ左表ノ示ス數字ノ如シ

年次	鼻疽		肺結核		炭疽	
	件数	賠償額	件数	賠償額	件数	賠償額
一九〇七年	五六七	二二四、一五〇	一二四	二二、四九〇	六、二四九	一、七二、九九〇
一九〇八年	五三九	二五三、五二一	九九〇	二〇一、八八三	五、六六九	一、四六一、六九六
一九〇九年	四一一	一六八、二五一	二七	六、〇四〇	六、七二四	一、六八〇、四二九
一九一〇年	三三四	一四七、二〇九	七	一、七九八	六、八二一	一、八八〇、七〇四
一九一一年	二九三	一四〇、三三八	一	二九九	七、四八八	二、一七九、一一八

年次	口瘡		腸脊髄膜炎		丹毒	
	件数	賠償額	件数	賠償額	件数	賠償額
一九〇七年	二一	八、四四九	一、〇四三	四九二、八一七	五二八	二四、三四九
一九〇八年	八	一、四二〇	六二八	三三三、三三三	四八二	二一、九四四
一九〇九年			三三七	一八三、〇六五	二八二	一四、一三四
一九一〇年	六四	一五、九一一	二四六	一二九、八七九	二二〇	一〇、七九七
一九一一年	五、一六三	七二五、五〇七	四八二	二七五、九五三	一八五	九、五八二

### 第三章 家畜生命保険

#### 第一節 家畜生命保険ノ沿革

家畜生命保険ハ各種保險中最モ古キモノノ一ニ屬シ既ニ中古ノ頃、傷病ニ因ル家畜損害ニ對シ共同ニ之ヲ分擔スル爲多數ノ家畜所有者團結シタルノ考證歴然タルモノアリ、此種組合ノ成立ガ小資本家ノ多キ地方ニ特ニ顯著ナリシコトハ固ヨリ當然ニシテ斯カル地方ニ於テハ畜群ニ投下セル資本ノ安定ヲ要スルコト他ノ地方ヨリ緊切ナルモノアリシナリ、此ノ組合ノ組織ハ當初頗ル單純ニシテ定款ヲ設ケサリシモノモ屢々アリ、各自ノ蒙ムレル損害ハ或方法即所謂「緊急屠殺」ヲ行ハレタル家畜ノ肉ヲ組合員タル各家畜飼養者ニ一定標準ニ依リ分配スルコトニ依リ緩和セラレタリ

天然物ノ交換經濟ヨリ貨幣經濟ニ漸次移行クト共ニ肉ノ引渡ヲ爲ス代リニ相當額ノ通貨ヲ以テ賠償スルコトナリ、此ノ賠償額ハ組合員タル家畜所有者ヨリ其ノ都度飼畜頭數ノ多寡ニ應ジテ徵收シタリ、然ルニ其ノ後漸次賠償金ノ交付並費用轉嫁ニ關スル一定原則ガ生スルニ至リ定款ヲ設ケタルコトナレリ、組合制ノ發達延ヒテハ農村ニ於ケル資本ノ集中及分配ノ行ハルルト共ニ地域的ニ管轄ヲ異ニスル幾多ノ家畜保險組合ガ益々發達シ、遂ニ一定ノ掛金ヲ豫メ徵收シ收支償ヒテ尙余剩ヲ生シタル場合ニハ非常ニ損失ヲ受ケタル際ニ於ケル準備金トシテ積立ツル方法ヲ採ルニ至レリ、結束ノ比較的固キ最古ノ地方家畜保險組合ハ十八世紀ノ末葉ヨリ十九世紀ノ初頭ニ亘リ「シユレスウキツヒ、ホルシユタイン」地方ニ其ノ端ヲ發シ「家畜組合」又ハ「牝牛組合」ナル名稱ノ下ニ漸次西北獨逸ノ全部ニ普及スルニ至レリ、南獨逸ニテハ小規模ナル畜産カ旺ニ行ハレ組合勃興ノ要素ヲ具ヘタリシカハ此處ニテモ亦前世紀ノ初メヨリ此ノ種組合ノ續出ヲ見タリ然レトモ東部ニテハ畜

産業ノ規模大ナルモノ多カリシ爲メ組合組織ハ余リ歓迎サレザリキ

地方的ナル家畜保險組合ハ其ノ本來ノ性質上唯或部落ノミテ區域トシ場合ニ依リテ多數ノ隣接市町村ヲ其ノ管轄區域ニナシタルコトアレトモ要スルニ概シテ唯牛或ハ豚ノ保險ノミニ限ラレタルモノニシテ工業上ノ保險物並高價ナル種用家畜等ノ保險ヲ引受ケサルヲ例トセリ、故ニ家畜保險ノ必要ヲ感シタリシ多數飼畜者モ此ノ保險ノ恩澤ニ浴スル機會ヲ有セス事業範圍ヲ益々擴張シテ一切ノ家畜保險ヲ引受クル民營家畜保險會社ノ創立ヲ期スル理想ガ益々熾盛ニナルニ至レリ

一八三三年「獨逸家畜保險所」ナル家畜保險會社ガ初メテ「ライプチヒ」市ニ設立セラレタリ、創立者ハ「エー、アー、マジウス」ニシテ相互組織ヨリ成リ營業區域ハ獨逸全國ニ亘リ且牛馬共ニ保險スルモ其ノ計算上ノ等級ハ異ナリ賠償高ハ馬價額ノ三分ノ二、牛全額ナリキ、然ルニ危險率ノ高キ獸疫ヲ保險シタルタメ保險料ノ收支常ニ償ハス年々損失續キタル爲最初ノ數年間ハ追納ニテ缺損ヲ補ヒ其後ハ賠償額ヲ減小シテ之ガ調節ヲ圖リ遂ニ保險契約高ノ激減トナリ一八三九年ニハ保險所解散ノ余儀ナキニ至レリ、其後間モナク設立セラレタル同種ノ會社モ亦概ネ短命ナラサルハナク且其ノ大部分ハ危險率ノ見積ヲ誤リタル爲メ多額ノ追納金ヲ拂込マシムルコト殆ト年中行事ノ如カリシヲ以テ保險契約者ヲシテ永ク此等ノ會社ニ關係セシムルコト頗ル困難ナルニ至レリ

十九世紀ノ中葉ニ至リ漸ク堅實ナル會社設立セラレタリ、此ノ會社ハ今日モ尙其ノ營業續ケツツアル一八四九年創立ニ係ル「バルツ家畜保險會」(スハイエルニ本社アリ)及一八五二年ノ創立ニ係ル「ブラウンシュワイヒ家畜保險會社」(「ブラウンシュワイヒ」ニ本社アリ)ニシテ兩社ノ營業方針ヲ見ルニ最初ヨリ其ノ營業上ニ周到ナル注意ヲ拂ヒ監督ヲ嚴ニシ事務上ニ於テモ被保險者ニ對シテ不斷ノ注意ヲ拂ヒ特ニ保險契約ヲ結フトキニ充分考慮ヲナセルモノニシテ之レ兩社カ其ノ生命ヲ長

ク保テル主因ナルヘシ

其後設立セラレタル幾多ノ會社中此ノ兩社ノ例ニ倣ヒタルモノハ極メテ少ク大部分ハ創立當時既ニ没落ノ運命ニ近ケル兆ヲ示シ社内ノ紊亂甚タシク清算モ株主等ニ多大ノ損害ヲ加ヘサレバ行ヒ得サル程ニシテ一八六七年ニ創立セラレ一八七一年ニ解散シタル「パン家畜保險會社」(柏林ニ本社アリ)ノ如キハ清算ニ三十年以上ヲ要シタリ、家畜保險會社設立ノ目的ハ保險契約者ヲ利セントスルニ非スシテ寧ロ會社ノ創立發起人及將來ノ社長ヲ益セントスルニアリ、長期契約ト加入者ノ無限ナル掛金追納義務トヲ奇貨トシテ發起人等ハ多年ニ亘リテ保險金ヲ自己ノ生活費ニ充當セルモノ尠カラズ這般ノ不良會社ハ特ニ「メツクレンブルヒ」地方ニ於テ陸續相踵ヒテ起リタル爲政府ハ九十年代ノ末ニ至リ嚴重ニ取締リ其ノ結果幾多ノ家畜保險會社ハ解散スルカ若ハ其ノ本社所在地ヲ他ニ移スノ余儀ナキニ至レリ、思フニ家畜保險ヲ保險界ニ於ケル最モ微力ナルモノニシタルハ其ノ原因多アルヘキモ如上ノ事情カ其ノ主因タルコトニ就テハ毫モ疑ヲ容レサルヘシ

二流以上ノ家畜保險會社ノ發達ハ遅々トシテ進マス其ノ原因ハ家畜保險ノ特性ニモ依ルモ又各會社カ保險加入者ヲ増加スル爲保險料ヲ極度ニ引下ケ且新加入者勸誘ノ容易ナラサリシ爲事務費ノ要用多ク會社ノ調査充分ナラサリシ爲高キ危險率ノ潜在セシ結果ニ依ル所モ多シ

以上各般ノ事情ハ相待ツテ頻繁ニ追徴金ヲ徴スルニ至リ保險契約者側ノ不平ヲ招致シ二三會社ニシテ追徴策ニ出ツルヲ避ケ賠償請求ヲ斥クル方針ヲ採リタルモノアリ賠償問題ノ調査ハ峻烈苛酷ニ流レタリ之ニ就テ會社ハ其頃政府ノ審査認可モ要セサル「一般保險約款」ヲ唯一ノ手段ニ用ヒ之カ爲メ農界ノ保險契約者ハ其ノ運轉資本ヲ確立、保障スルノ恩澤ニ浴スルコトヲ得ス個々ノ會社ノ態度ニ依リ小農ノ生存上ニ多大ノ打擊ヲ加ヘタル實例亦尠カラサリキ

各社ヲ通シ最モ多ク行ハルル營業方針並營業方法ニ隨伴スル諸般ノ缺陷ヲ除カンカ爲メ「獨逸農會」ハ一八九三年ニ各社ト直接交渉シテ自己ニ責任ナキ缺損ニ對シ適當ナル補填ノ道ヲ確保シテ保險契約者ニ安心ヲ與フル目的ヲ以テ先ツ第一ニ會社ノ定款及一般保險約款ヲ根本的ニ改正セントシ會社ト交渉ノ結果標準定款及標準約款ヲ制定スルコトトナレリ而シテ此等ノモノハ各社ニ採用セララルル様推稱セラレ又實際其ノ大多數ハ之ヲ容レテ其ノ事業上ノ基準トナセリ

會社自身モ亦在來ノ營業主義ヲ不適當ノモノトシテ自覺セルコトハ一八八六年創立ノ「ベルレーベルゲル家畜保險會社」ガ地方組合ノ例ニ倣ヒ所謂集團及聯合保險ヲ實現シテ管理上ノ利益ヲ得ント試ミタルニ微シテモ炳焉タリ一八九六年ニ初メテ加入者總員ヲ若干ノ地方集團(Ortsgruppen)ニ區分シ之ヲ更ニ地方若ハ州聯合體ニ集成(Landes-oder Provinzialverband)シ一ノ地方集團ノ内部ニテ行ハルル相互監視ニ依リ損害ノ減退ヲ期シ又聯合會ノ内部ニテ期待サルル保險料ノ調節ニ依リ個々ノ危險率ニ對シテ適當ナル負擔ヲ爲スヘク豫期シタリ、然ルニ實際ニ於テハ理想ノ程度迄實現セス、保診料ノ補足及追納ノ程度常ニ高キタメ一旦加入シタル者モ漸次會社ヲ離ルルニ至リ斯クシテ脫退者ハ益々多大トナレリ、然レハ之カ爲メ地方集團モ僅ニ數名ヲ殘スニ過サリシ程凋落シテ經濟的意義ヲ存セサルコトトナリ爰ニ再ヒ昔ノ如キ亂雜狀態ヲ現出シ遂ニ一九〇六年ヨリハ理論上正當ナル集團及聯合主義カ全然顧ミラレサルニ至レリ

北獨逸ニ於テ「獨逸農會」ガ各會社ノ基礎ヲ刷新シテ以テ家畜保險ノ改善ヲ期セントシタル如ク南獨逸ノ各地政府ハ夥シク存在スル地方的家畜保險組合ノ組織改造ニ依リテ此ノ目的ヲ達成スヘク努メタリ、抑モ家畜保險ハ政府ノ干渉ナクハ到底其ノ進展ヲ望ミ難ク又此ノ目的ヲ達スルニハ補助金ヲ國庫等ヨリ交付スルコトカ絶好ノ手段タルコトハ世ノ定説ナルヲ以テ家畜保險ノ國有說ヲ生シ此ノ國有ノ理想種々ノ形式ニ於テ實現シタル聯邦聯邦カラス且此ノ方面ニ於ケル國家的施設ヲ可トスル論者モ年々益々増加スルニ至レリ

之ニ關スル國家的施設ヲ最早ク試ミタルモノハ「バーデン」大公國ナリ、同國ニテハ一八九〇年六月二十六日附法律ニ依リ畜牛者ヲ一定條件ノ下ニ糾合セシメテ地方家畜保險所ヲ作ラシメ此ノ地方家畜保險所ヲシテ再保險ヲ爲サシムル爲ニ互ニ結合シテ家畜保險聯合會ヲ構成セシメタリ、「バイエルン」王國ニ於テモ一八九六年五月十一日附法律ニ依リ之ト同様ノ基礎ノ上ニ地方家畜保險所ヲ、一九〇〇年四月十五日附法律ニ依リ地方馬匹保險所ヲ設置シ、「エルザース、ロートリンゲン」ニ於テハ一八九六年ニ國立家畜保險組合會ヲ創立シ之ヲ政府ノ保險ノ下ニ置ケリ、而シテ此等ノ諸施設ノ成績良好ナルニ刺戟セラレテ中部獨逸ノ諸邦モ亦家畜保險界ニ向ツテ立法的干渉ヲ爲スニ至リ「コーブルヒ」公國ニテハ一八九九年ニ地方家畜保險所ヲ一ヶ所又「サツクセン」王國ニテハ一九〇九年一月二十九日附公達(一九一三年ヨリ實施)ヲ以テ國立馬匹保險所ヲ一ヶ所設置セリ、最近ニ至リ「プロイセン」王國ニ於テモ家畜保險ノ間接國有運動起レリ而シテ其組織ハ前記ノ場合ト同様ニ地方組合ヲ結合シテ聯合會タラシムルヲ基礎トスルモノナリ、又農林及官有財産ノ主管大臣ノ發意ニ依リ「ブランデンブルヒ」及「シュレージーン」ノ州會ハ此ノ程聯合會ヲ州立トシテ設置スルノ決議ヲ爲シ「東プロイセン」ニテハ去ル一九〇八年以來「サツクセン」州ニ行ハレタル先例ニ倣ヒ農業會議所ト提携シテ聯合會ヲ新設スヘク目下計畫中ナリ、而シテ政府ハ聯合會ノ活動スル時期ト同時ニ之ニ對シ準備積立金ヲ設クルニ必要ナル補助金ヲ一回限り交付シ且又時宜ニ依リテハ創立後數年間限リ此ノ外ニ別ニ補助金ヲ交付スル見込ナリト云フ

## 第二節 家畜生命保險ノ事業形態及其組織

第一 地方家畜保險組合

地方的組織ハ家畜保險ノ形態トシテ最モ多ク普及セルモノナリ地方組合ノ事業成績ニ關スル統一の統計ハ大部分ノ組合ノ事業形態一聯邦ノ領土内ノミニ限定セラレ其ノ邦ノ監督ヲ受クルニ過キササル爲存セス從テ獨逸國內ニ於ケル其ノ數並其保險セラル價額ノ實數ヲ知ルニ由ナキモ彼等ハ概ネ唯一種ノ家畜ノミヲ保險シ罕ニハ又計算上ノ等級ヲ異ニスル種々ノ家畜ヲ保險スルコトアリ就中最モ多キモノハ牛及豚ノ保險組合ニシテ之ニ亞クモノハ馬、最少キハ山羊ノ保險組合ナリ、獨逸國內ニ於ケル其組合總數ハ約三十三トシ最高一萬四千ニ達ス又其ノ保險契約總額ハ大約八億馬克以上九億馬克ニ及ヘリ  
「プロイセン」王國ノ分ニ就キ最近發表セラレタル家畜生命保險ヲ扱フ地方的家畜保險組合ノ統計調査ニ依レハ一九二二年ニ關スル事業左ノ如シ

番號順	州 別	組合數	保險ニ附シタル家畜ノ頭數					保險契約額	掛 金	損 害	積立金
			馬	牛	豚	山 羊	計				
一	東プロイセン	1011	—	1,357,000	—	—	—	38,434,100	40,100	26,496	
二	西プロイセン	111	—	2,279	6,766	—	—	25,051	40,114	21,966	
三	ブランデンブルグ	441	—	1,955,111	17,422	1,311	—	535,286	498,133	754,843	
四	ポ ン メ ル ン	166	—	10,507	40,977	—	—	152,080	153,875	185,337	
五	ボ ー ー	2	—	191	—	—	—	326	111	100	
六	シュレツトーン	33	—	8,624	1,633	—	—	17,594	19,711	33,429	
七	ザツクゼシ	443	—	47,358	218,637	9,705	—	1,180,304	1,238,931	1,344,271	
合計	プロイセン國	2,794	—	1,839,941	1,336,100	496,338	—	9,984,666	10,333,833	6,717,533	

八	シュレスウキヒホルシユダイ	752	74,306	53,905	175,336	1,106	304,633	70,367,634	1,754,686	1,782,783	245,834
九	ハ ン ノ バ ー	1,947	37,983	176,143	408,884	6,955	629,665	96,992,190	1,988,170	2,039,239	930,833
一〇	ウエストフアレン	1,311	10,310	140,003	188,850	8,299	307,462	56,874,616	1,234,847	1,274,670	1,003,126
一一	ハツセンナツサウ	1,033	11,803	172,293	73,811	1,957	269,864	44,485,501	1,158,238	1,194,934	954,906
一二	ラ イ ン 州	1,526	37,571	195,556	69,843	9,995	302,964	85,926,503	1,838,755	2,071,219	1,186,233

保險ノ必要アル家畜ヲ地方組合ニ於テ保險ニ附シタル割合ハ頗ル多カリシニヨリ地方組合ハ家畜保險ニ對シ大ニ意義深キモノトナレリ地方組合ノ組織ハ家畜保險ノ目的ヲ實際酌考慮シタルモノ多ク地方組合ハ全然相互主義ニ立脚シ保險金及營業費ヲ支辨スル爲並相當準備金ヲ積立ツル爲ニ必要ナル掛金ヲ組合員ヨリ徴收シ且小組合ナラハ管理方法ヲ簡單ニセリ、而シテ事務ハ概シテ名譽職若ハ極メテ少額ノ手當ヲ得ルニ過キササル理事者ニ依リテ執行セラレ理事者ハ組合員中ヨリ互選セララルヲ以テ(一)被保險家畜ヲ監視シ(二)組合員カ故意ニ組合ヘ損害ヲ加フルヲ豫防シ(三)病畜ニ對シ獸醫ノ診斷ヲ受クル機ニ迅速其ノ手配ヲ爲シ(四)保險金ヲ得タル家畜ノ利用ヲ最モ巧妙ニ行フコトハ孰モ有效ニ實行シ得ヘク之カ爲ノ保險金ノ支出ヲ減退セシムルハ賭易キ事理ニシテ從テ最モ少資本ナル家畜所有者モ此ノ組合ニ就キ其ノ家畜ヲ保險ニ附スル傾向ヲ生スルニ至レリ、保險金支出額ノ財源ニ二種アリ一ハ保險料ヲ前納スルモ後日更ニ必要ニ應シ追納スル義務アルコトヲ留保スル方法ニシテ他ハ支出所要額ニ應シ轉稼スル方法ナリ、掛金査定ノ基準トナルモノハ大概ノ場合ハ被保險家畜ノ價值ナリ、此ノ價值ハ毎年定期検査ニ依リ其ノ實情ニ應シテ定メラルルモノニシテ稀ニハ被保險家畜ノ頭數ヲ基準トスルコトアリ、定期



保險料ノ外ニ往々加入金ヲ徵スルコトアリ、而シテ加入金ハ新加入者ノミヨリ徵收スルコトアリ又ハ新タニ保險ニ附スル家畜一頭毎ニ間斷ナク徵收スルコトアリ、又非常ノ損失ニ備フル爲、準備金ヲ積立ツルヲ常トスルモ保險契約總額ノ百分ノ二ヲ超過スルハ罕ナリ、保險金ハ損害確定額ノ七十五%又ハ八十%タルヲ原則トス

然ルニ地方組合ノ組織ニモ一ノ短所アルヲ免カレス、此ノ短所ハ組合ノ有スル種々ノ長所ノ淵源タル「業務區域ヲ地方的ニ限定スルコト」ニ歸スヘキナリ、即組合員全部ニ分擔シテ損害ヲ調節スルコトハ多大ノ損害ヲ發生シタル場合ニ組合員ニ大々的負擔ヲ課スルニ非レハ之ヲ期スルコト能ハス、若シ短時日内ニ夥シキ損害件數突發スルトキハ地方組合ハ到底之ニ應スルノ力ナキニヨリ此ノ缺陷ヲ除キ地方的組織ノ特長ヲ存センカ爲各地方組合ニ損害分擔上必要ナル事業擴張ヲ行ハントスル再保險聯合會ヲ組織セシメントセリ

聯合會ヲ組織シテ地方家畜保險組合ニ對シ再保險ヲ營ムコトハ二様ノ方法ニ依テ行ハルヘシ、一ハ聯合會カ加盟者タル組合ノ損害ノ一部分ヲ填補スルコトヲ引受クル方法ニシテ之ヲ「定率再保險」ト云ヒ、第二ノ方法ハ聯合會カ損害填補ノ給付ヲ一定ノ程度マテ各組合ニ一任シ此ノ程度ヲ超過スルトキ聯合會カ初メテ其全額ヲ支辨スル方法ニシテ所謂「超過再保險」之ナリ、兩種トモ既ニ實行セラレ就中超過再保險ハ後述スヘキ「バーデン」及「バイエルン」兩邦ニ於ケル官立保險所並「トリール」地方農民組合ノ家畜保險聯合會ニ於テ行ハレタリ

聯合會カ損害高ノ一部ヲ引受ケス、且一定程度ヲ超過スル損害ヲ全部負擔スルニモ非ス、唯後者ノ場合ニ其ノ或一部分ノモ擔當スル所謂折衷主義ハ前記「プロイセン」ノ州聯合會ニテ行ハルル筈ナリト云フ、此ノ主義ニ依レハ定率再保險ニ伴フ弊害即地方組合ノ歳出高二大異動アルコトハ除ガルヘク超過再保險ニ伴フ弊害即組合ノ最高限到達後ニ生スル損害ヲ避クルコ

トニ最早意ヲ注カサルカ如キコトモ除去セラルヘシ

## 第二 比較的大規模ナル家畜保險會社

地方組合ヨリモ大規模ナル家畜保險會社ノ外部ノ特徴ハ概シテ事業範圍ノ比較的大ナルコトヲ除ケハ有給理事者ヲ置クコトニシテ有給理事者ハ本業トシテ其ノ職ニ在リ必スシモ社員タルヲ要セサルモノトス、且保險監督法第三十五條ト關聯アル商法第二百四十三條ノ規定ニ相當スル監査役ヲ置キ代理店ノ網ヲ各地ニ分布スルコトモ保險會社ノ特徴ナリ、而シテ這般保險會社ニ對シ立法者ハ商業台帳ニ登記スル義務ヲ課シタルコト(商法第九十五條、保險監督法第三十條參照)及該會社カ相互組織タル以上、保險監督法第二十一條第二項ニ依リ保險契約者カ社員トナラスシテ一定保險料ヲ納メ保險契約ヲ締結シ得ルコトハ孰モ這般會社ト之ヨリ比較的小規模ナル組合トヲ區別スル好箇ノ標徴ナリ

家畜生命保險ノ範圍ヲ大觀スルニ大會社ノ分ハ地方組合ノ分ヨリモ遙ニ小ニシテ一九一一年ニハ獨逸民營保險監督局ノ監督内ニ在リタル此ノ會社數二十二アリ(其事業成績中、家畜生命保險ニ關スル分ハ別表ヲ參照スヘシ)、別表中各社ノ管理費ハ個々ノ保險種目毎ニ分割シ難キ事情アリシニヨリ保險料收入ヲ標準トシテ家畜生命保險ニ關スル分ヲ計出シタリ又別表中ニ掲ケサル會社ハ約四十アリ、コレハ孰モ二邦以上ノ聯邦ニ亘リテ活動スルモノナレトモ地方的組合ノ特性ヲ帶フルモノニシテ從ツテ保險監督法第五十三條ノ意義ニ於ケル「小組合」ト看做サレタルモノナリ

此ノ二十二社ノ内、株式會社ハ唯「ベルレベルゲル保險株式會社」一社アルノミ、同社ハ保險料追納制ヲ捨テ其ノ代リニ一定保險料ヲ徵シ家畜生命保險ヲ營ムニヨリ缺損ヲ生シタル場合ニハ積立金ヲ以テ之ヲ補ヒ尙足ラサルトキハ資本金ニテ之ヲ支辨ス此ノ制度ハ商法第一七八條ノ規定ニ依ルモノニシテ資本金ハ一百萬「マルク」、四分ノ一拂込其ノ未拂込ノ分ハ商法第

二二一條及第二二八條ノ規定ニ依リ他日拂込義務アルモノトス

其ノ他ノ會社ハ相互組織ニ立脚シ、此内ノ二社即「サクセン家畜保險銀行」及「愛國家畜保險會社」ハ孰モ保險料追納制ヲ採ラス、其ノ爲メ掛金積立金ニテ足ラサル場合ニハ保險金ヲ相當減額ス、支出額ヲ轉嫁主義ニ依リテ振替ヘルモノニハ唯「ユルツエナー家畜保險銀行」アリ其ノ轉嫁方法タルヤ三ヶ月毎ニ所要經費ヲ保險契約高ニ比例シテ被保險家畜ニ轉嫁シ徵收上ノ便ヲ圖リ各種家畜毎ニ危險等級ヲ設ケ之ニ一定ノ賦課率ヲ附スルモノトス、其ノ他十八社ハ孰モ一旦保險料ヲ徵スルモ缺損等ニ因リ必要ヲ生スル場合ニハ更ニ保險料ヲ追納セシムル權利ヲ留保シ居レリ

家畜保險ニテハ保險料徵收主義ハ會社形態ヲ區別スル特徵ニハナリタレトモ電害保險等ニ於ケルト同一程度ノモノニハアラス、即家畜保險ニテハ一部ノ相互會社モ亦定款ヲ設ケテ追納金ヲ徵收スルカ如キ制度ヲ採ラス又一部ノ相互會社ハ「前納保險料」ヲ充分ニ査定シテ唯稀ニ追納金ヲ徵收スルモノアリ、然レトモ一面ニ於テ若干ノ相互會社ニテハ營業競争ノ關係ヨリ前納保險料ヲ餘リニ低ク査定シタル結果、追納金ノ徵收カ寧ロ原則トナルノ現象ヲ呈セリ、想フニ斯カル方式ハ家畜保險ニ於テハ收穫後ニ於ケル農家ノ支拂力ノ向上ニ注意ヲ拂フ要ナキヲ以テ到底避ケルコト不可能ナルヘク此ノ點ハ電害保險ト全然其ノ事情ヲ異ニスルモノアリ

大會社ノ組織ニ伴フ缺點ノ種々アルニ拘ハラズ、大會社モ亦家畜生命保險ニ關シ全然無用ノ長物ニハ非ス就中地方組合ニテハ保險ニ應セサルヲ常トスル工業及價值多キ保險物カ保險ヲ要スルコト尠カラサルノミナラス寧ロ農業上ノ保險物ノ上位ニ在リ、且相互組織ニ立脚スル大會社ニ於テハ所謂短期保險ノ營業ハ組合員ノ相互保險ニ適セサルニ依リ之ヲ非組合員保險トシテ取扱ヒ其ノ缺陷ヲ免ル得ルモ比較的小規模ナル組合ハ保險監督法第五十三條第一項後段ノ規定ニ依リ之ヲ行ヒ得サルカ

損害填補額 管理費 管理費(掛) 積立金 積立金(掛) 保險料(掛) 積立金(掛) 保險料(掛) 積立金(掛) 保險料(掛)

ルツエナ一、家畜保險銀行」アリ其ノ轉嫁方法タルヤ三月毎ニ所要經費ヲ保險契約高ニ比例シ  
ノ便ヲ圖リ各種家畜毎ニ危險等級ヲ設ケ之ニ一定ノ賦課率ヲ附スルモノトス、其ノ他十八社ハ  
損等ニ因リ必要ヲ生スル場合ニハ更ニ保險料ヲ追納セシムル權利ヲ留保シ居レリ  
家畜保險ニテハ保險料徵收主義ハ會社形態ヲ區別スル特徴ニハナリタレトモ電害保險等ニ於ケ  
ス、即家畜保險ニテハ一部ノ相互會社モ亦定款ヲ設ケテ追納金ヲ徵收スルカ如キ制度ヲ採ラス  
險料」ヲ充分ニ査定シテ唯稀ニ追納金ヲ徵收スルモノアリ、然レトモ一面ニ於テ若干ノ相互會社  
前納保險料ヲ餘リニ低ク査定シタル結果、追納金ノ徵收カ寧ロ原則トナルノ現象ヲ呈セリ、想  
於テハ收穫後ニ於ケル農家ノ支拂力ノ向上ニ注意ヲ拂フ要ナキヲ以テ到底避ケルコト不可能ナル  
然共ノ事情ヲ異ニスルモノアリ

大會社ノ組織ニ伴フ缺點ノ種々アルニ拘ハラズ、大會社モ亦家畜生命保險ニ關シ全然無用ノ長物  
ハ保險ニ應セサルヲ常トスル工業及價値多キ保險物カ保險ヲ要スルコト尠カラサルノミナラス寧  
在リ、且相互組織ニ立脚スル大會社ニ於テハ所謂短期保險ノ營業ハ組合員ノ相互保險ニ適セサル  
シテ取扱ヒ共ノ缺陷ヲ免ル得ルモ比較的小規模ナル組合ハ保險監督法第五十三條第一項後段ノ規

順位	會社ノ名稱ト所在他	保險ニ附サ レタル家畜 頭數	保險契約高 マール	保險料 (掛金) マール	保險料對 百分率 %	利用サレタ 賣上代金 マール	損害填補額 マール	管理費 マール	管理 金
一	アルテンアルガー家畜保險會社	一一、七四三	六、四〇六、九三〇	二二六、四三三	三、七	五三、四四六	二六、〇〇六、六九	一九、三九九	
二	一般獨逸 (柏林)	一六、四四三	九、一一一、六六〇	四七五、五六一	五、二	六八、三三〇	三五、一、六〇〇	一四、七、九〇八	
三	中央家畜保險協會 (柏林)	一一、〇七九	六、〇七四、一七三	六九、七三三	一、一	一六、六四〇	九、三、五二〇	一六、二九一	
四	フエリマタス (柏林)	一六、八九九	八、六三四、三五八	三五四、三三六	四、一	四三、九三八	一九九、一〇七	一七五、四〇八	
五	ブラウンシュワイヒ家畜保險會社	三三、三〇八	一、八五四、五五五	二五六、五六一	二、二	六八、八六七	三〇一、九八九	六〇、二五六	
六	ライニツシエー (キヨロン)	一、〇五八	五〇五、一四五	一七、九八九	三、六	四、二九五	一五、九六六	五、八三五	
七	アンハルチツシエー (コエーテン)	二六、五五一	一、九四一、六三三	七二六、九二四	三、七	一三四、六七三	七六八、二五五	九九、三二六	
八	サツクセン家畜保險銀行 (ドレスデン)	三、三八三	一、四二一、三三三	六〇、五二七	四、三	一八、八九八	六七、六五三	九、一、二七	
九	愛國家畜保險會社 ( )	二四、六〇六	一、八五二、一〇七	六九一、六四四	三、七	一一一、七七九	六七六、二九九	二二、三八四	
一〇	エルフルト家畜保險協會 (ハレー)	一三、二九五	二、一六三、七〇七	四四一、〇〇八	三、五	一〇三、三九八	四四、八二五	九四、九三三	
一一	北獨逸家畜保險會社 (ハンブルヒ)	一〇、九〇七	九、九九〇、二七五	二九四、五三三	三、〇	四一、五二四	三三八、五二〇	三九、六二七	
一二	パーデン馬保險會社 (カールスルーヘ)	一〇、一四九	三、八〇三、〇四一	一七一、四三三	四、五	五、七〇一	六〇、二四四	七五、六八五	
一三	ハルレーベルゲル保險株式會社	一五、五五八	二、三七一、五〇九	九三、一、八二三	四、一	一七〇、四二八	九〇、五六七	一八一、六一	
一四	シユウエーリン ( )	一八、九二八	八、〇〇八、三三五	二五〇、二九一	三、一	五四、四三三	二四、四二七	四六、八二四	
一五	パルツ家畜保險協會 (スパイエル)	四、九六二	四、一四八、三三三	一〇三、四〇五	四、九	九、二七一	一六二、二八五	六一、八九八	
一六	エー、ウエルテンベルグ (スツットガルト)	三、二二四	二、四三〇、〇五五	一〇九、二八八	四、五	三、八八八	一一五、三三七	二九、〇二〇	
一七	シエー家畜保險會社 (スツットガルト)	二、二二五	一、七三三、七〇九	六〇、五二九	三、五	一、八九六	五〇、九九六	一三、九三二	
一八	スツットガルト馬保險會社	八、七二六	八、七七四、〇三〇	三六八、七一九	四、二	—	三五四、一七三	四八、五五四	
一九	ユルツエナー家畜保險銀行	二四、一三六	一、五八三、三六〇	八三九、二九三	五、三	一三、七〇三	八〇、八、五三七	一七三、六八九	
二〇	ブリグニツツアー家畜保險會社 (ウキツテンベルグ)	二、三三三	一、〇〇一、一八〇	四六、五六九	四、七	七、五二六	四七、二九三	八、七七八	
(各社)	總計	三三、五六二	二〇四、一四〇、五七四	七、六三三、四六六	三、八	一一、九二八、五五九	三〇、八〇一、〇八〇	一、八〇九、三三三	

備考 一、中央家畜保險協會ノ保險契約件數ハ頗ル多ク之ニ對シ支出ヲ要スル額ハ僅ニ保險料ノ四分ノ一若ハ二分ノ一二過キス  
二、ブラウンシュワイヒ家畜保險會社ニテハ唯斃死ト緊急屠殺ノ場合ヲ保險スルニ過キサルノミ

ラス 欠損ノ算入掛金積立金ニテ足ラサル場合ニハ保險金ヲ相當減額ス、支出額ヲ轉嫁主義ニ依リテ振替ヘルモノニハ唯「ユ  
 ルツエナ」家畜保險銀行」アリ其ノ轉嫁方法タルヤ三ヶ月毎ニ所要經費ヲ保險契約高ニ比例シテ被保險家畜ニ轉嫁シ徵收上  
 ノ便ヲ圖リ各種家畜毎ニ危險等級ヲ設ケ之ニ一定ノ賦課率ヲ附スルモノトス、其ノ他十八社ハ孰モ一旦保險料ヲ徵スルモ缺  
 損等ニ因リ必要ヲ生スル場合ニハ更ニ保險料ヲ追納セシムル權利ヲ留保シ居レリ

家畜保險ニテハ保險料徵收主義ハ會社形態ヲ區別スル特徴ニハナリタレトモ電害保險等ニ於ケルト同一程度ノモノニハアラ  
 ス、即家畜保險ニテハ一部ノ相互會社モ亦定款ヲ設ケテ追納金ヲ徵收スルカ如キ制度ヲ採ラス又一部ノ相互會社ハ「前納保  
 險料」ヲ充分ニ査定シテ唯稀ニ追納金ヲ徵收スルモノアリ、然レトモ一面ニ於テ若干ノ相互會社ニテハ營業競争ノ關係ヨリ  
 前納保險料ヲ餘リニ低ク査定シタル結果、追納金ノ徵收カ寧ろ原則トナルノ現象ヲ呈セリ、想フニ斯カル方式ハ家畜保險ニ  
 於テハ收穫後ニ於ケル農家ノ支拂力ノ向上ニ注意ヲ拂フ要ナキヲ以テ到底避ケルコト不可能ナルヘク此ノ點ハ電害保險ト全  
 然其ノ事情ヲ異ニスルモノアリ

大會社ノ組織ニ伴フ缺點ノ種々アルニ拘ハラズ、大會社モ亦家畜生命保險ニ關シ全然無用ノ長物ニハ非ス就中地方組合ニテ  
 ハ保險ニ應セサルヲ常トスル工業及價値多キ保險物カ保險ヲ要スルコト尠カラサルノミナラス寧ろ農業上ノ保險物ノ上位ニ  
 在リ、且相互組織ニ立脚スル大會社ニ於テハ所謂短期保險ノ營業ハ組合員ノ相互保險ニ適セサルニ依リ之ヲ非組合員保險ト  
 シテ取扱ヒ其ノ缺陷ヲ免ル得ルモ比較的小規模ナル組合ハ保險監督法第五十三條第一項後段ノ規定ニ依リ之ヲ行ヒ得サルカ

社ノ名稱ト所在地	保險ニ附サ レタル家畜 ノ頭數	保險契約高	保險料 (掛金)	保險料 百分率	利用サレタ 上代金	損害填補額	管理費	管理費 (掛料)百分率	積立金	積立金 百分率
テンプルガ―家畜保險會社	11,743	6,406,930	234,433	3.7	53,446	26,206	19,399	0.8	161,503	2.5
獨逸 (伯林)	16,433	9,111,600	475,561	5.2	68,310	35,163	47,908	3.1	33,193	0.4
家畜保險協會 (伯林)	11,079	6,007,173	69,733	1.2	16,640	9,510	16,291	2.3	64,759	1.1
エリタ (伯林)	16,899	8,634,588	353,336	4.1	43,938	19,107	17,548	4.9	50,596	0.6
ンシユロイヒ家畜保險會社	33,308	11,854,555	256,561	2.2	68,867	30,199	60,566	3.3	157,775	1.3
ニツシエー (キヨロン)	26,551	19,446,733	726,924	3.7	134,673	76,825	99,326	1.3	95,134	0.5
ルチツシエー (コエーテン)	3,383	1,421,553	60,517	4.3	18,898	6,653	9,127	1.5	15,052	1.1
ン家畜保險銀行 (ドレステン)	2,406	1,851,077	69,644	3.8	11,779	6,762	11,237	2.5	15,052	1.1
家畜保險會社 ( )	1,315	1,237,077	40,800	3.3	10,328	4,010	9,934	3.1	3,381	0.3
フルト家畜保險協會	10,907	9,990,275	299,531	3.0	41,514	38,530	39,617	1.3	3,075	0.0
ン (ハンレー)	10,144	3,801,041	171,433	4.5	5,710	6,014	7,565	4.1	5,123	1.6
逸家畜保險會社 (ハンブルヒ)	19,491	9,164,777	397,233	4.3	34,337	36,035	49,540	3.6	77,749	0.8
ン馬保險會社 (カールスルーヘ)	15,558	23,719,509	931,833	4.1	120,458	96,567	181,161	1.9	138,725	0.6
レーベルゲル保險株式會社	18,928	8,083,385	202,291	2.5	44,433	23,217	46,824	1.8	111,440	1.4
ンエル家畜保險會社 (プラウ)	4,962	4,148,355	103,445	2.5	9,271	16,215	18,898	2.0	9,950	1.0
ーリン	45,549	21,894,609	679,687	3.1	57,275	40,750	183,748	2.7	210,541	1.0
ン家畜保險協會 (スパイエル)	3,214	2,430,055	101,288	4.2	36,888	11,327	29,010	3.6	78,711	3.3
ン家畜保險會社 (スツットガルト)	2,215	1,733,777	60,517	3.5	1,896	5,996	13,911	3.0	26,625	1.5
ツトガルテル馬保險會社	8,776	8,777,000	368,779	4.2	—	35,417	48,544	3.1	111,351	1.3
ツエナ―家畜保險銀行	24,216	15,833,610	839,292	5.3	137,034	80,853	173,619	4.7	107,075	0.7
ツツア―家畜保險會社 (ウキツテンベルグ)	2,383	1,100,100	46,569	4.2	7,526	47,293	87,778	3.3	11,339	0.1
各社	333,561	10,410,574	7,683,446	3.8	1,123,559	7,081,088	1,609,911	2.3	2,809,785	1.0

一、中央家畜保險協會ノ保險契約件數ハ頗ル多ク之ニ對シ支出ヲ要スル額ハ僅ニ保險料ノ四分ノ一若ハ二分ノ一ニ過キス  
 二、プラウシエロイヒ家畜保險會社ニテハ唯斃死ト緊急屠殺ノ場合ヲ保險スルニ過キサルノミ

如キ事情アリ、短期家畜生命保険ノ營業ハ概近大概ノ二流以上ノ家畜保險會社ニ於テ急激ナル發展ヲ睹ルニ至レリ、而シテ其ノ原因ハ二アリ即(一)是ニ由テ生スル利益ハ組合員保險ノ積立金ノ充實ヲ招キ(二)會社ハ此ノ聯絡アルニヨリ新加入者ヲ募集スルノ難關ヲ容易ニ突破シ得ルコト是ナリ

短期家畜生命保険トハ保險保護期間カ短期即原則トシテハ六ヶ月以内ニシテ且保險保護カ唯或狹キ危險範圍ニノミ限ララルル如キ家畜生命保險ヲ云ヒ此ノ事業ヲ營ノル總テノ相互會社ニ於テ保險監督法第二一條第二項ニ依リ一定保險料ヲ徴シ保險契約者ハ會社ノ一員トナルコトナシ、故ニ此ノ制度ニアリテハ純然タル營利保險ニシテ保險契約者ハ利益配當ヲ求ムル權利ナキト同時ニ缺損ヲ生シテモ追納金ヲ出タスノ要ナキモノトス、短期ノ家畜生命保險ハ一般保險業務中ノ特別勘定ニ屬シ此ノ特別勘定ヨリ生スル利益若ハ損失ハ一般ノ準備積立金ノ計算ニ屬スルモノトス

短期家畜生命保險ニ種々アリ、牧場保險ト運送及博覽會保險、種用家畜保險、外科手術保險、軍事演習保險等ハ其ノ主ナルモノナリ、牧場保險ハ一定牧場地ニ居ル間ニ於ケル家畜ノ死亡又ハ緊急屠殺ニ因ル損害ヲ填補スルヲ目的トス、就中盜難保險ト連絡ヲ有シ保險保護ノ範圍擴張セラレタルニヨリ放牧家畜ノ紛失ニ基ツケル損害モ填補セララルコトトナル、運送保險ノ目的ハ輸送中又ハ輸送後或ル一定期間内ニ死亡シ若ハ屠殺セララルルノ餘儀ナキニ至レル家畜ニ對シ保險金ヲ交付スルニ在リ、運送保險ト關聯ンテ往々博覽會保險ヲ營ムモノアリ、此ノ保險ハ家畜博覽會開催中ニ生スル損害モ補填スルナリ、手術保險ハ專ラ去勢術其ノ他ノ手術ヲ施シタル爲メ死ヲ招キ若ハ緊急屠殺ヲ行フニ因リテ生スル損害ヲ填補スルニ過キササルノミ、種用家畜保險ト稱スルモノハ牡ナル種畜カ種付中偶々或ル災厄ノ爲ニ落命スルカ若ハ屠殺セララルルノ已ムナキニ至レルトキ或ハ牝ナラハ妊娠若ハ分娩ノ爲ニ死亡シ若ハ緊急屠殺ヲ行ハルルノ余儀ナキニ至レルトキニ之カ損害ヲ填補スルヲ目的

トスルモノナリ、最後ノ場合ニハ胎兒モ亦割増保險料ヲ納メテ親ト共ニ保險ニ附セララルコトアルヘシ、軍事演習保險ハ機  
 動演習又ハ其ノ他ノ軍事演習中ニ軍馬ノ死亡又ハ緊急屠殺ニ因リ生スル損害ヲ保險スルモノナリ  
 短期ノ家畜生命保險ハ一九一一年ニ於テ種々ノ會社カ之ヲ營メリ、其ノ社數ハ前述ノ如ク十七ニ達セリ、同年中ニ於ケル被  
 保險家畜ノ總頭數ハ五十六萬八千四百頭ニシテ其ノ保險契約高ハ總計一億五千九百九十二萬七千五百五十九「マルク」ニ及ヘリ、之  
 ニ對スル拂込濟保險料ハ九十九萬九千六百二十八「マルク」、利用ノ爲ニ賣却シタル結果得タル金額ハ九萬七千四百七十七「マ  
 ルク」ニシテ又保險金トシテ支出シタル分ハ四十九萬四千九百三十七「マルク」ニ達セリ

第三 官立家畜保險所

一八九〇年六月二十六日附法律ニ依リ創設セラレタル「バーデン家畜保險聯合會」ハ獨逸ニ於ケル官立家畜保險所ノ嚆矢ニ  
 シテ地方的ナル畜牛保險組合ヲ糾合シタル相互主義ノ再保險聯合ナリ、此ノ法律ハ一八九八年七月十二日ノ法律ニ依リ改正  
 セラレ現行法規ニ依レハ牛ノ飼養者ハ牛ヲ保險スル爲一市町村ニ付一ノ地方家畜保險所ヲ設ケサルヲ得サルナリ但之ニ就テ  
 ハ牛ノ飼養者三分ノ二以上ノ同意アルヲ要シ若シ或公共團體ニ於テ此所要三分ノ二ヲ得ル能ハサルトキハ、尠クトモ牛ノ飼養  
 者ノ三分ノ一カ任意加入ヲ原則トスル一ノ地方組合ヲ設立シテ聯合會ニ參加シ得ルモノトセリ、地方保險所モ聯合會モ皆公  
 法上ノ保險業者ナリ

地方保險所ノ管理ハ市町村行政ト密接ノ關係アリ、當局者タル理事者ハ市町村長一名、家畜飼養者中ヨリ互選セラレタル理  
 事二名ヲ定員トス、斃死シタル家畜ニ對スル保險金ハ評價額ノ七割緊急屠殺ヲ行ハレタル家畜ニ對シテハ同八割トス、保險  
 所ハ其ノ經費ヲ年度末ニ至リ保險契約額ニ照シ各加入者ニ振替ヘ轉嫁シ且聯合會ニ於テ再保險ノ事業ヲ營ム聯合會ノ經費ヲ  
 サルモノニシテ聯合會ハ一九〇三年ヨリ一九一二年マテニ左ノ如キ發達ヲ爲セリ

支辨スル爲ニ地方保險所ハ轉嫁額ヲ徵スルヲ要ス、然レトモ轉嫁額ハ保險契約高百「マルク」ニ付〇・二〇「マルク」ヲ超過シ  
 得サルモノトシ、聯合會ノ轉嫁ニ依ルモ尙經費ヲ償フニ足ラサルトキハ聯合會ノ準備積立金中ヨリ支辨シ、之ニテモ尙足ラ  
 サルトキハ國庫ニテ不足ノ全部ヲ負擔ス、聯合會ノ轉嫁額ヲ非常ニ尠ク査定シタル時ハ此ノ國庫補助ハ常ニ必要缺クヘカラ  
 サルモノニシテ聯合會ハ一九〇三年ヨリ一九一二年マテニ左ノ如キ發達ヲ爲セリ

年次	地方保險所ノ數	被保險家畜ノ頭數	保險契約高	被保險家畜ノ損害百分率	損害填補額	保險契約高ニ對スル平均掛金	國庫補助金
一九〇三年	二八一	九一、五八四	二九、九四五、五六五	二、二七	五三三、二八三	一、〇三	一〇一、〇〇〇
一九〇四年	三一八	一〇七、八一	三五、八六五、六二〇	二、三二	六七七、七三二	一、二二	一三四、〇〇〇
一九〇五年	三四一	一一八、二八二	四一、〇四九、〇〇〇	二、四五	七九五、〇〇四	一、一〇	一五七、〇〇〇
一九〇六年	三六三	一二三、三九六	四四、八五五、六三〇	二、五四	八八三、四一六	一、〇九	一七二、八〇〇
一九〇七年	三八〇	一三二、五九一	五〇、六二六、八一〇	二、五九	一、〇三四、二六五	一、一四	二〇七、五〇〇
一九〇八年	四〇〇	一三九、六〇五	五二、七七三、一八〇	二、六七	一一〇五、三〇〇	一、二〇	二三七、五〇〇
一九〇九年	四一七	一四四、四七七	五四、八四八、四六〇	二、七六	一一八三、〇〇五	一、二二	二四六、八〇〇
一九一〇年	四二六	一四三、五七〇	五六、八三四、七九〇	二、七二	一一九九、〇九八	一、二二	二三八、三〇〇
一九一一年	四三六	一四八、〇四五	六二、八四三、八七五	三、〇八	一、四九九、六三三	一、三〇	三二二、一〇〇
一九一二年	四四三	一四九、四〇五	六五、四四〇、二一五	二、六七	一、三五九、九三一	一、一九	二三八、三〇〇

「バーデン」邦家畜保險聯合會ノ事業開始後、幾千ナラスシテ「バイエルン」邦ニテモ之ニ類スル施設計畫ヲナセリ、一八

九六年五月十一日法律ニ依リ「バイエルン」邦立家畜保險所ノ新設ヲ見ルニ至リタルガ其ノ後數年間ニ此ノ法律ハ屢々改正セラレ遂ニ保險契約法ノ施行ニ伴ヒ一九一〇年四月二十三日附法律ヲ發布セララルルニ至レリ

「バイエルン」邦立家畜保險所ハ相互主義ニシテ要スルニ地方的ノ牛及山羊保險組合ノ聯合會ニ外ナラス、「バーデン」邦ニ於テ行ハルル條件付強制主義ト異ナリ「バイエルン」邦ニテハ地方組合ノ創設並地方組合ノ聯合會加入モ任意ニシテ此ノ官立保險所ノ公表セル模範定款ニ從ツテ定款ヲ設ケタルモノノミカ此ノ保險所ニ加入シ得ルモノトス、而シテ地方組合ノ管理ト市町村行政トハ全然引離シテ整理スルモ之カ爲ニ地方組合ハ決シテ公法人タル權利ヲ失フモノニアラス、地方組合ノ管理ハ理事會ニ依リテ行ハル、理事會ハ組合員中ヨリ互選セラレタル名譽職ニシテ其ノ任期ハ三ケ年、定員ハ六名トス、此ノ官立保險所ノ管理ハ火災保險所ノ管理ト共同ニ行ハレ政府ノ選任セル理事者ヲシテ此ノ事務ヲ主管セシム、管理費トシテ家畜保險所ハ火災保險所ニ毎年一ケ年分ノ概算額ヲ交付シ其ノ額ハ保險契約高一萬分ノ二ニ相當スル額トス、理事會ノ外ニ尙委員會ヲ置ク、此ノ委員會ハ五名ノ委員ヲ以テ組織セラレ委員中ノ三名ハ縣毎ニ被保險者中ヨリ一名ハ農會ヨリ互選セラレ其ノ他ノ一名ハ政府ヲ代表スルモノトス、委員會ニ於テ互選シタル三名ノ委員ヲ以テ「保險所裁判所」ヲ構成ス、各地方家畜保險組合ノ交付スル保險金ハ斃死家畜一頭ニ付價額ノ七割トシ緊急屠殺セラレタル家畜一頭ニ付テハ同八割トス、組合費ハ年度末ニ至リ保險契約高ニ比例シテ各組合員ニ分擔シ（轉嫁方法）其ノ半額ハ邦立保險所ノ支辨トナス、邦立保險所費ニ充ツル爲地方組合ハ保險所ニ聯合會轉嫁額ヲ拂込ムヲ要ス、然レトモ拂込額ハ「バーデン」ニ於ケル如ク最高限ノ設ケナク寧ろ無限ニ徵收セララルルナリ、保險所ハ其ノ代リ毎年四萬馬克ノ國庫補助並五十萬馬克ノ基金ヨリ生スル利子ノ收入アリ、此ノ利子及新加入者ノ納ムル加入金ハ孰モ準備積立金ニ繰入レラルルモノトス

一九〇三年乃至一九一二年ノ十年間ニ於ケル「バイエルン」邦立家畜保險所ノ發達ハ左記統計ニ示ス如シ

年次	地方組 合ノ數	被保險家 畜ノ頭數	保險契約高 マルク	被保險家 畜ノ損害 百分率	損害填補額 マルク	保險契約高 ニ對スル 平均掛金	準備積立金 マルク
一九〇三年	一、五三七	二九二、五四五	六七、二一七、六三〇	三、〇四	九〇九、二二五	一、二二	三二〇、五五五
一九〇四年	一、五三〇	二九七、八五五	七〇、一六四、六六五	三、〇九	一、〇二二、二七一	一、三二	三四六、一九八
一九〇五年	一、五五三	三〇七、七五一	七四、七九四、八九〇	三、三八	一、一七三、三四八	一、四五	三七一、七七六
一九〇六年	一、五七二	三〇五、七六九	八〇、一二五、五〇五	三、四三	一、一八四、九五六	一、四〇	三九六、六六六
一九〇七年	一、六一四	三二〇、七七六	八五、四八九、五六五	三、二二	一、三一四、一九五	一、四三	四二四、〇五三
一九〇八年	一、六四六	三三二、四三二	八六、七四一、七九〇	三、六三	一、五八九、七四五	一、七二	四四九、六八二
一九〇九年	一、六八九	三二九、七七四	八五、四二六、六九〇	三、八一	一、六四〇、一五〇	一、七九	四七四、五一九
一九一〇年	一、六九二	三〇六、八五一	八四、四三六、二四五	四、〇一	一、五一八、二九九	一、七〇	四九七、六六五
一九一一年	一、六六一	二九四、二四六	八三、八一三、九五五	四、三八	一、六五一、九三五	一、八三	五二一、五〇八
一九一二年	一、六三八	二九一、七四六	八九、三六〇、三三五	四、二四	一、六七一、七四四	一、七七	五四三、五〇〇

一九〇〇年四月十五日附法律ニ依リ設置シタル邦立馬匹保險所ハ前記保險所ト基礎ヲ同フスルモノニシテ要スルニ自己ハ再保險聯合會ノ地位ニ居リ各地方ノ馬匹保險組合ヲ糾合シタルモノナリ、國庫ヨリ補助金ヲ受クル點ハ前記保險所ニ異ナラス、一九〇三年ヨリ一九一二年ニ至ル間ニ於ケル其ノ發達ハ左表ニ示ス如シ

年次	地方組合ノ數	被保險家ノ頭數	保險契約高	被保險家ノ損害百分率	損害填補額	保險契約高ニ對スル平均掛金	準備積立金
一九〇三年	四〇一	六〇、〇二一	三五、四三二、六四〇	三、九七	八七五、〇四七	二、二四	一八六、〇七四
一九〇四年	四一四	六六、〇二八	三九、四八七、三一〇	四、二〇	一、〇三九、二〇一	二、三八	二二一、八五七
一九〇五年	四二八	七〇、〇一六	四二、六七一、八四〇	四、四三	一、一六三、六七六	二、四八	二五五、七二六
一九〇六年	四三六	七一、六一二	四四、九九九、一九〇	四、七二	一、二九〇、二二九	二、五七	二八七、五九八
一九〇七年	四五〇	七三、五四一	四七、九三一、五六〇	五、〇九	一、四五〇、三六八	二、七一	三一九、五一〇
一九〇八年	四六二	七七、二九四	五一、八二八、七一〇	四、九一	一、四五九、八五八	二、五六	三五四、二七五
一九〇九年	四七七	八〇、八一	五五、四四〇、〇九〇	五、一三	一、六七一、四四一	二、六九	三八八、三六一
一九一〇年	四八〇	八四、七五三	五九、九九六、四六〇	五、五七	一、九四〇、一八九	二、九二	四二二、九七八
一九一一年	四八七	八九、〇六八	六五、九〇八、〇六〇	六、〇九	二、三〇〇、九五五	三、一九	四五九、七八七
一九一二年	四九六	九二、七六四	七〇、六六六、二二〇	五、七一	二、三二四、四二一	二、九九	四九三、四二二

「エルザース、ロートリンゲン」ニ於ケル地方的家畜保險制度ハ「バーデン」及「バイエルン」ニ於ケル制度トハ聊カ異ナリ  
 一八九六年ニ設立セラレタル「公立家畜保險組合ノ聯合會」ノ目的ハ此ノ聯合會ニ加入セル各組合ヲ後援スル爲ニ前貸ヲ爲シ且若干ノ補助金ヲ交付シ、各組合ノ會計上及事務上ニ關シテハ統一の原則ヲ定メテ業務上ノ發展ヲ圖リ地方家畜保險組合ノ増設ヲ促進セントスルニアリ、聯合會ニ加入セル組合ハ孰モ聯合會ノ要求ニ副フヘキ定款ヲ設ケ保險金ノ百分ノ二ニ相當スル均一保險料ヲ徴收セサルヲ得ス

年次	地方組合ノ數	被保險家ノ頭數	保險契約高	被保險家ノ損害百分率	損害填補額	準備積立金
一九〇三年	二八	一三、三三一	三、九三七、九一七	二、四五	七九、二九四	一四二、五七八
一九〇四年	三五	一五、二二一	四、五三〇、五〇〇	二、二八	八八、二〇八	一五六、四〇一
一九〇五年	四〇	一六、〇〇〇	四、七九一、四四〇	二、六七	一一二、四六八	一六九、七〇七
一九〇六年	四六	一七、四九四	五、四五八、二二〇	二、〇六	九六、五〇九	一五〇、九八三
一九〇七年	五八	一八、六〇九	五、八七九、八二〇	一、七〇	九一、二六〇	一五三、六七二
一九〇八年	六四	一九、九八〇	六、三三三、四六〇	二、五三	一四〇、七二五	一四三、六二八
一九〇九年	七〇	二〇、四一五	六、四二三、二七〇	三、〇一	一七〇、六五六	一三四、〇七四
一九一〇年	七九	二〇、一三二	六、七一四、二六〇	二、七一	一五五、五六三	一二四、〇八六
一九一一年	一〇四	二二、三〇〇	七、五四八、七五〇	三、三九	一八五、八七四	一〇七、三三七
一九一二年	一一一	二三、八〇八	八、四九六、八〇〇	二、一〇	一六四、一九一	九五、七三五

聯合會ノ管理ハ五名ノ理事ヨリ成レル理事會ニ於テ之ヲ行ヒ理事長ハ獨逸國主務省ニ於テ選任シ殘餘ノ理事ハ農會ニ於テ互選シ其ノ任期ヲ三ケ年トス、聯合會ハ其ノ聯邦ノ國庫ヨリ年額一萬「マルク」ノ補助ヲ受ク、加入組合ヲ補助スル方法ニ二種アリ一ハ還納條件付ノ假出金ヲ交付シ（前貸ノ形式ニテ）一ハ返納ヲ要セサル補助金ヲ交付スルナリ、前貸金及補助金ノ査定ニ關シテハ一定ノ標準トスヘキモノナク其ノ額ハ寧ロ事實問題トシ實際ノ事情ニ照ラシテ定ムルノ外ナシ  
 一九〇三年ヨリ一九一二年ニ至ル十年間ニ於ケル聯合會ノ發達ハ左表ヲ參照スヘシ



一八九九年以來「コープブルグ」公國ニ設置サレタル國立家畜保險所ハ「バイエルン」邦立保險所ヲ模倣シタルモノニシテ、年額二千馬克ノ國庫補助金ヲ受ケ其ノ特別部ニ於テハ屠畜保險ヲ營メリ、其ノ包括スル組合ハ三十一ニシテ之等組合ノ被保險家畜ハ五千八百三十頭、保險金總額ハ一、八五六、二九〇馬克ナリ

「サツクセン」王國ニ於ケル「官營家畜保險所」モ「バイエルン」邦ノ範例ニ倣ヒテ設置サレタルモノナリ、同保險所ハ一九一三年一月一日ヨリ馬匹保險ニ關スル事務ヲ開始セリ、一九一三年七月一日現在調ニ依レハ此ノ保險所ニ加入セル馬匹保險組合ハ總ヘテ八組合ニシテ此ノ八組合ニ於ケル被保險家畜ノ頭數ハ約二千三百頭之カ保險契約高ハ約二百萬馬克ニ達セリト云フ

### 第三節 家畜生命保險ノ法律的基礎

家畜保險ハ一九〇一年五月十二日附法律「保險監督法」及一九〇八年五月三十日附法律「保險契約法」ノ適用ヲ受ク、前者ハ公法ニ屬シ後者ハ私法ニ屬ス、保險監督法ハ家畜保險ニ關シテ特ニ細密ナル規定ヲ設ケス、物ヲ對象トスル其ノ他ノ諸般ノ保險科目ニ對スル規定ト殆ト異ナラス、而シテ同法第六條第二項ヲ見ルニ相互保險組合ヲ除キ凡テ株式組織ノ保險會社ニ限リ其ノ營業ノ認可ヲ與ヘラルル如キ保險科目中ニ家畜保險ヲ編入セラルルヲ以テ相互主義ニ依テ經營セラレサル場合ニハ家畜保險ハ有限責任會社又ハ商法上ノ合名會社ノ如キ營利會社ノ形態ニテモ之ヲ營ミ得ルナリ、然レトモ家畜生命保險ノ制度トシテ從來未タ此ノ方法ニ依リテ營業シタル實例ナシ

又保險契約法第一一六條乃至一二八條ニハ強制的規定モ任意的規定モアリ、此等ノ規定ハ一般法規及各事業ノ「一般保險約款」ト關聯シテ家畜生命保險契約ニ對スル法律の基礎トナルモノトス、此ノ法律的基礎ナルモノハ概ネ這般ノ事業形態ニ特有ノ事情ヨリ其ノ源ヲ發シタルモノナレハ此ノ基礎ハ第一ニ比較的大會社ノ取扱ヘル保險ニ適用セラル、地方的組合ニアリテハ斯カル規定中任意的性質ヲ帶フルモノハ全然適用セラレス、適用セラルルニシテモ簡單ナル形式ニ依ツテ適用セララルニ過キス、強制的規定タル保險契約法第三十八條及第三十九條ハ同第八十九條等ニ於テ比較的小規模ナル組合ニ之ヲ適用セストノ除外例ヲ明ラカニ設ケタリ

#### 第一 家畜生命保險ノ目的及損害填補ノ方法

保險契約法第一一六條ノ規定ニ依レハ家畜生命保險ノ目的即客體ハ被保險家畜ノ死亡ヨリ生スル損害並ニ死亡スルニ至ラストモ病疾又ハ災厄ニ因リテ生スル損害(恒久的廢用保險)ナリ、此ノ損害ハ唯生命アル家畜ノミニ起リ得ル現象ナルカ故ニ保險契約法上ヨリ觀タル家畜保險ハ單ニ家畜生命保險ノ意味ニ外ナラス、其ノ第一一六條ニハ唯家畜生命保險ノ私法的關係ヲ規定スルニ過キスシテ屠畜保險ハ同法ノ意義ニ於ケル家畜保險ト看做スヘキモノニ非サルモノトス

生命アル家畜ノ受クル損害ハ必スシモ皆家畜生命保險ノ目的ニ非ス、保險ノ保護ハ法規ノ定ムル所ニ依リ保險契約者カ公費支辨ニ屬スル賠償ヲ求メ得ルトキ若ハ防疫警察上ノ規定ヲ犯シタル爲ニ此ノ請求權ノ失效ヲ來シタルトキニ於テ、獸疫ノ爲ニ生シタル損害ニマテ及ホサス、又被保險家畜ノ老齡、廢用ニ因リ又ハ火災、電氣、爆發、洪水、埋沒、地震ニ因リ或ハ競走、戰時、内亂等ノ場合ニ於ケル公ケノ措置ニ因リ發生スル損害ハ孰モ家畜生命保險ノ關セサルモノトス、實際ニ臨ンテ如何ナル種屬ノ家畜ヲ保險ニ附シ得ルカハ一般保險約款ニ規定スル所ナリ

疾病又ハ災害ノ發生スル直前ニ家畜ノ有シタル價值ヲ家畜保險ニ於テハ損害ノ額或ハ賠償額(填補額)ト云フ、保險契約法

第五十七條ノ意義ニ於ケル保險證券ニモ往々之ニ類スルモノアルヲ以テ損害填補ハ保險契約額ヲ標準トス、此ノ場合損害保險ノ本旨即保險ヲ營利ニ陥ラシメサルコトハ破壊セララルコトアルヘキモ一面此ノ破壊ヲ阻止スル道ナキニアラス、即阻止ノ方法ハ相當ノ時日ヲ經過セハ更ニ保險契約高ヲ改定スルコトナリ、保險契約者ヲシテ此ノ阻止ニ利害關係ヲ有セシムル爲ニ損害ノ全部ヲ填補セスシテ唯賠償價額又ハ保險契約高ノ一部分(概シテ七十五%又ハ八十%)ノミ填補スルコトハ家畜生命保險ノ特性ナリ、恒久的廢用換言スレハ痼疾ヲ對象トスル保險ニアリテハ保險金ハ概シテ賠償價額又ハ保險契約高ノ五十乃至六十%ナリトス

第二 家畜生命保險ノ本質

保險契約ヲ締結セントスルニハ先ツ保險申込者ヨリ會社ニ宛テ家畜ニ關スル事項ヲ詳細ニ示シタル保險申込書ヲ提出スルヲ要ス、此ノ場合馬及各種ノ種用家畜ニ付テハ一頭毎ニ詳細ニ記述スルヲ原則トスルモ其ノ他ノ種類ニ屬スル家畜ハ其ノ平均價額ヲ擧ケ敢テ明細ニ記述セスシテ保險ノ申込ヲ爲シ、然カモ後者ニ於テハ各種家畜ノ保險契約高ノ總額ヲ掲ケ之ヲ申込ミタル家畜ノ頭數ニテ除シ其ノ額ヲ各一頭當ノ保險契約額ト爲スモノトス、馬其ノ他種用家畜モ亦平均價額ニ依リ而シテ其ノ他ノ家畜ハ明細ナル記述ニ依テ保險セララルコトアルモ、ソハ全然異例ニ屬スルモノト云フヘキナリ  
 明細書ニ依リテ保險セララルヘキ家畜ハ保險ニ附スル前獸醫ノ健康診斷ヲ受クルモノトス、獸醫ニ依ラサル場合經驗者二名ヲ獸醫ノ代リニスルコトアルモ斯カルコトハ無論異例ナルコトトス、申込人ハ此ノ診斷費ヲ負擔スルヲ要シ、會社側ニテ此ノ保險申込ニ應セサル場合ト雖亦同シコトナリ、健康狀態ニ全ク異狀ナキコトハ勿論ナルカ尙家畜保險ヲ保險者カ引受クルニハ其ノ家畜カ一定ノ幼齡ニ達セルコト並ニ一定ノ老齡ヲ超過セサルコトヲ前提スルモノトス、他日ノ錯誤ヲ避クル爲申込者

ハ此ノ意味ニ於テ保險資格ナキ家畜並ニ自己ノ權限ニアルモ尙自己ノ所有ニ非ル家畜タルコトヲ併セテ申込書ニ記入スヘキ義務アリ、申込人ハ同一種類ニ於ケル或一部ノ家畜ヲ保險ヨリ除外スルコトヲ得ス、申込人ハ又會社ノ承諾ナクシテ被保險種類ノ家畜ニ付同一危險ニ對スル保險ヲ附スル爲他會社ト契約シ得サルモノトス、若シ之ニ依リ違法ニ財産上ノ利益ヲ獲得セントスル意思ニ出テ二重保險ヲ爲シタルコトカ發覺シタルトキハ此ノ意思ニ於テ締結セル契約ハ全部無効トス  
 申込人ハ申込後二週間其ノ申込ニ拘束セラレ會社ハ此ノ期間經過前ニ決定ヲ與フルヲ要ス、決定ハ申込ニ應スル意思ノ有無ヲ決スルニ外ナラス、申込ニ應スル場合ニハ會社ノ理事者カ署名シタル承諾書即保險證券ヲ申込人ニ送附シ且豫メ當事者間ニ特別條件ノ合意アリタルトキハ其ノ旨ヲ保險證券中ニ明示スルモノトス、保險證券中ニ明示セル第一回保險料並其ノ他費用ヲ拂込ミタルトキハ保險申込人ニ保險證券ヲ交付シ、保險契約ハ之ト同時ニ成立シタルモノトス

保險契約者此ノ證券ヲ受取リタル後、一ヶ月以内ニ文書ニテ會社ノ理事者ニ對シ異議アル旨ヲ通知セサルトキハ保險證券ノ内容ヲ承認シタルモノト看做サル、且保險證券中ニ記載シタル期間ハ保險契約有効期間ト看做サル、保險契約有効期間ハ唯此ノ期間ニ限ル旨ヲ明ラカニ契約セザリシ時ハ契約有効期間ノ經過後毎年更ニ一年間從來ノ條件ニテ之ヲ延長スルモノトス但其ノ期間滿了前遅クトモ一ヶ月以前ニ當事者ノ一方カ書面ニテ契約解除ノ豫告ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニアラス、保險契約締結ノ際不實ノ申告ヲ爲シタルトキハ會社ハ保險事件發生後ト雖契約ヲ解除シ得ルモノトス、但會社カ不實タルコトヲ知レル場合又ハ不實ナルコトニ就テ保險契約者ニ責任ナキ場合ハ此ノ限ニアラス、會社カ危險ヲ引受クルニ當リ明ラカニ質問シタル重大ナル事情ヲ保險契約者カ故ラ惡意ヨリシテ隱蔽シタルトキハ會社ハ解約ノ權利ヲ有ス、被保險家畜ノ買入價額ヲ隱蔽シ又ハ之ニ就テ虚偽ノ申告ヲ爲スモ解約ノ原因トナラス、而シテ解約ハ唯會社カ此ノ缺點ヲ知り得タル時ヨリ一ヶ月以

内ニ限り之ヲ爲シ得ヘク然カモコノ場合ニ保險契約者ハ現在ノ保險期間ノ最終迄保險料ヲ支拂ハサルヘカラサルモノトス、保險事故發生後解約スル場合ニハ會社ハ保險金支出ノ義務ナシ、然レトモ解約權ノ發生原因タル事情カ保險事故ノ發生上ニモ保險金支給高ノ上ニモ些ノ影響ヲ及ホササリシトキハ固ヨリ此ノ限ニアラス

保險締結ノ場合ニハ保險代理人カ干與スルテ原則トス、他ノ大概ノ保險科目ニアリテハ保險代理人ニ契約代理人ト仲介代理人トノ別アレトモ家畜保險會社ハ孰モ單ニ仲介代理人ヲ置クニ過キス、家畜保險代理人ノ權限ハ之カ爲ノ頗ル限定のニナリ就中保險契約ニ關シ法律上有效ナル意思表示ヲ爲シ若ハ法律上有效ニ他ノ意思ヲ受クル權限ナキモノトス

第三 保險費用ノ徴收

會社カ保險ヲ引受ケタルニ對シ保險契約者ハ會社ニ保險料ヲ拂込ムヲ要ス、保險料ハ年額トス、若シ部分拂ヲスルトキハ相當ノ利子ヲ附スルモノトス、附屬費トシテハ保險契約高ノ二百分ノ一若ハ百分ノ一ヲ通常トスル加入金保險證券料印税及郵便料等アリ、定款ニ從ヒ準備積立金中ヨリ補助スル金額モ加ヘテ凡テ一切ノ收支カ年度末ニ決セラルル支出(但準備金ニ積立ツヘキ定款上ノ控除額モ加ヘタル總支出)ヲ償フニ足ラサルトキハ「前納保險料及追徴金併用主義」ヲ採用シツツアル會社ニアリテハ保險料ヲ追徴シテ缺損ヲ填補ス、此ノ追徴ハ前納保險料ノ割合ニ應ジテ取立テラルルモノニシテ然カモ其ノ年度内ニ加入若ハ脱退セル者ニ付其ノ在社時日ノ長短ニ應ジテ追徴ノ多寡ヲ決スヘキモノトス、保險料ハ契約期間内會社側ニテ増額スルコトヲ得、然カモ此ノ更正ノ翌日ヨリ當該保險期間ノ終了迄有效ナルヲ以テ保險料値上ノ場合ニ保險契約者ハ現在ノ保險期間ノ終了ヲ待タスシテ契約解除ヲ豫告スル權利アリトス、保險契約者ニ此ノ解約豫告權アルコトヲ示シツツ週クトモ此ノ期日ヨリ二週間前ニ書面ニテ保險契約者ニ値上ノ旨ヲ通告ヲ爲シタル場合ニ限り値上ハ有效トセラレ

保險期間ノ開始前ニ納入スヘキ保險料其ノ他附帶費用ヲ契約締結後ニモ保險證券交付後ニモ拂込マサルトキハ會社ハ拂込前ニ保險事故發生シタルトキト雖保險金支拂ノ義務ナキモノトス、正當時期ニ拂込ナキトキハ會社ハ其ノ保險期間ニ相當スル保險料及附帶費用ニ利子ヲ附シテ請求ノ訴訟ヲ提起スルカ或ハ一ヶ月ノ期間ヲ附シテ保險關係ノ解除ヲ豫告スルコトヲ得ルモノトス、而シテ後者ノ場合ニハ保險料及附帶費用ノ代リトシテ概テ保險契約高ノ百分ノ一ニ相當スル手数料ヲ求ムルモ差支ナシ、分割保險料ノ毎回ノ保險料、追徴金若ハ轉嫁額即振替額ノ拂込ヲ正當時期ニ爲ササルトキハ未拂額ヲ明示シテ尠クトモ二週間ニ渉ル支拂期間ヲ定メ保險契約者ニ書面ヲ以テ通知スルモノトス、而シテ此ノ通信費ハ後者ノ負擔トス、此ノ期間經過後ニ保險事故發生シ其ノ際保險契約者カ尙滞納スルトキハ會社ハ保險金ヲ支拂ノ義務ナシ、保險契約者ノ滞納中ハ會社ハ當該保險期間ニ關スル保險料及附帶諸費ニ利子及雜費ヲ附シテ請求スルコトヲ得ヘク又ハ解約豫告期間ヲ附セスシテ保險關係解除ノ通知ヲ發シ得ヘシ、後者ノ場合ニ於テハ會社ハ保險料ヲ徴シ得ルモ當該保險期間ヲ超過スル能ハス

第四 保險契約有效期間ニ於ケル保險契約者ノ責任

同一種類ノ家畜ナラハ保險契約者ニ屬スル一切ノ保險資格アルモノヲ悉ク保險ニ附セサルヘカラストハ之レ家畜生命保險ノ原則ニシテ之ヨリ生シタル避クヘカラサル結果ハ保險契約者カ會社ニ對シ被保險家畜ノ異動ヲ報告スヘキ義務アルコト並ニ場合ニ依リテハ新規一加ハルル家畜ノ追加保險ヲ申込ムヘキ義務アルコトナリ、明細書ニ依リテ保險ニ附シタル家畜ノ外ニ尙保險種類ノ家畜ニシテ保險契約者ニ屬シ未タ保險ニ附セサルモノ現ハルルトキ又ハ從來保險資格ナクシテ保險契約者ノ所有スル當該種類ノ家畜カ保險資格アル年齢ニ達スルトキハ保險契約者ハ第一ノ場合ニハ出現後十日以内ニ、第二ノ場合ニハ最低年齢ニ到達後一ヶ月以内ニ於テ會社ノ理事者ニ申告書ヲ發シ追加保險ヲ申込ムヲ要ス、當該家畜カ前掲期間内ニ他ヘ搬

出サレタルトキハ此ノ申告義務モ追加保險義務モナク、又十日以上ニ亘リ家畜ヲ飼養シ而カモ保險契約者ノ所有ニ非ルトキハ會社ニ其ノ旨ヲ届出ツルモノトス、之レ損害事故ノ發生シタル場合ニ行違ヒテ避ケル爲メト且會社ヲ欺瞞スル原因ヲ除カシカ爲メナリ

保險契約者カ此ノ規定ニ違反シタルトキハ會社ハ前掲期間ノ經過後ニ發生スル保險事故ニ對シ保險金支拂ノ義務ヲ免カル但此ノ犯則行爲ニ就テ本人ニ其ノ責任ナシト認メラルル場合ハ此ノ限ニアラス、申告又ハ追加保險ノ申込ヲ後日ニ至リテ爲スニ至レルトキ又ハ會社カ他ノ方法ニ依テ保險物ニ異動ヲ生シタルコトヲ知リタルトキハ之ヲ知リタル時期ヨリ其ノ他家畜ニ關スル賠償義務ヲ復活ス、平均價額ニ依レル保險ナルトキハ變更若ハ増加ハ之ヲ申告スルノ要ナシ、保險契約者カ個々ノ家畜ニ付保險契約額ノ減少ヲ防止セント欲ストキハ保險物ニ於ケル増加ヲ申告シ且總保險契約高ノ相當増額ヲ正當時期ニ申込マサルヘカラス

保險契約締結後ニ至リ糞ニ引受ケタル危險ノ程度カ著シク向上シタルトキ例ヘハ被保險家畜ノ使用方法、收容若ハ飼料ニ關シテ變化ヲ生シタルトキハ會社ハ解約豫告期間ヲ附セスシテ保險關係ヲ解除スル告知ヲ爲スコトヲ得ルナリ、然レトモ這般危險増加カ保險契約者ノ意思ト關係ナク現ハレタルトキハ此告知ハ一ヶ月ノ經過後ニ其ノ効力ヲ發生シ會社カ危險増加ノ事實ヲ知レル時期ヨリ一箇月以内ニ解約告知ノ權利ヲ行使セザルトキ又ハ此ノ期間内ニ從來ノ状態ニ復シタルトキハ此ノ告知權ハ消滅ス

保險契約者カ危險増加ノ甚シキコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ會社ノ理事者ニ申告スルヲ要シ若シ此ノ申告ヲ怠ルトキハ會社ハ損害事故發生ノ場合ニ保險金給付ノ義務ナキモノトス、然レトモ保險契約者ノ意思ニ關聯セスシテ發生シタル危險増加ノ場合ニハ保險金給付義務ハ會社ニ申告スヘカリシ時期ヨリ一ヶ月以上經テ保險事故ノ發生スルトキニ初メテ消滅シ若シ保險契約者カ申告ノ懈怠若ハ遲滞ニ對スル責任ヲ負フノ要ナキトキ危險増加カ保險事故發生上及保險金給付ノ程度上ニ毫モ影響セザリシトキ或ハ保險事故發生當時會社ニ利アル解約告知期間カ既ニ經過シ此ノ告知ノ實行セラレザリシトキ等ニ於テハ消滅セサルモノトス、又危險増加カ保險契約者ノ意思ト關係ナク發生シ會社ニ危險増加ノ事實カ申告ヲ爲スヘカリシ時期ニ知レタリシ場合ニ於テモ保險金給付義務ハ消滅セサルモノトス、但以上ノ規定ハ輕微ナル危險増加ニ適用セザルモノトス

保險契約者ハ被保險家畜ノ重大ナル傷病ヲ悉ク會社ノ理事者ニ遲滞ナク書面若ハ電報ニテ通知シ又ハ遲滞ナク獸醫ノ來診ヲ求ムル等極力保險事故ノ防遏及損害ノ輕減ニ努ムヘキ責任アリ、而シテ例外ニ屬スル場合ニハ獸醫ノ代リニ二名ノ専門家ヲ招クコトヲ得保險契約法第二百二十二條ニ依レハ會社ノ要求スル専門家一名ノ立會ニテ是ルト規定シアルモ元來同條ハ強制的法文ニ非ルヲ以テ成ルヘク完全ナル意見ヲ求ムル爲メニ二名ノ専門家ノ立會ヲ原則トスヘキナリ、獸醫ノ診療ニ原因スル諸費ニ就テハ保險契約法第二百二十三條第二項ニ規定アリ即被保險家畜ノ罹病ニ當リ獸醫ノ初診費ハ保險契約者ト會社トカ之ヲ平等ニ分擔スヘシトアリ、然ルニ此點ニ於テモ會社ハ其ノ一般保險約款中ニ於テ全然此ノ法律上ノ見解ヲ排斥シ在來ノ慣例ニ倣ヒ如上費用ノ負擔ヲ全部保險契約者ニ課シタリ

保險契約者ハ獸醫又ハ専門家ノ指圖ニ從ヒ誠實ニ行動シ且所定ノ用紙ニ依リ一定期間内ニ獸醫若ハ専門家ノ作成シタル疾病報告書ヲ會社ニ送付スヘキモノトス、保險契約者カ此ノ規定ニ違反スルトキハ會社ハ保險金給付義務ヲ免カルモ若シ其ノ犯則行爲カ保險契約者ノ過失ニ出テサルトキ又ハ會社カ他ノ方法ニ依リ疾病又ハ災害ノ事實ヲ正當時期ニ知り得タルトキ此

ノ限ニ非ス

病勢ノ經過早キ疾病ナルトキ又ハ骨折其ノ他重キ傷痕ナルトキハ遲滞ナク獸醫若ハ二名ノ専門家ニ依頼シ緊急屠殺ヲ行フメ  
可否ニ關スル意見ヲ徵スルモノトシ、其ノ他一切ノ場合ニ於テハ唯會社ノ理事者ノ承認ヲ得タルトキニ限り緊急屠殺ヲ斷行  
シ得ヘキモノトス、而シテ之ニ反スル場合ニハ會社ハ保險金給付義務ナク只理事者ノ承認ヲ待テ得ザリシトキ若ハ官憲ノ命  
ヲ以テ屠殺ヲ行ヒタルトキニ給付義務アリトス、緊急屠殺ノ定義ハ保險契約法ニモ一般保險約款ニモ無シ、故ニ緊急屠殺ノ  
場合ニハ會社ニ對シテ其ノ必要ナリシトノ獸醫又ハ専門家ノ確認ヲ主張セサルヲ得サルコトナルヘシ、要スルニ緊急屠殺  
ハ濫リニ行ハルルモノニ非ルコトヲ念頭ニ置クヘキナリ、即家畜ヲ從來ノ用途ニ再ヒ充テ難キコトカ豫想シ得ルトキニ於  
テモ又家畜ノ落命近キトキニ於テモ緊急屠殺ヲ行フ原因トナラス、寧ロ人道上ヨリ觀テ屠殺ノ必要アリト認ムルトキ又  
ハ屠殺ニ依リテ家畜利用ノ最善ヲ盡クスモノト認メラルルトキニ初メテ緊急屠殺ヲ行フヘキ場合ヲ生スルモノト云フヘキナ  
リ

#### 第五 保險事故ト其ノ法律的效果

保險事故ハ死亡又ハ緊急屠殺ニ對スル保險ナラハ家畜ノ死亡若ハ緊急屠殺ノ時期ト同時ニ、又永續的廢用即廢疾ニ對スル保  
險ナラハ家畜カ保險證券中ニ明示セル用途ニ將來永久供セラレ難クナレル時期ト同時ニ發生スルモノナリ、抑々永續的廢用  
ナルモノハ會社カ早ク此ノ事實ノ存在ヲ認メサル場合ニ於テモ遅クトモ一定ノ時期マテニハ此ノ事實ノ存在ヲ認ムヘク、而  
シテ一定ノ時期トハ二ヶ月ニ渉ル獸醫ノ診療後、保險證券ニ明示セル用途ニ該家畜ヲ再ヒ使用シ難キニ至レルトキ或ハ既ニ  
發生シタル診療費及飼養費カ保險契約高ノ或一定部分(概テ四分ノ一又五分ノ一)ニ達シタルトキ云フナリ、保險事故發

生ニ關スル舉證ノ責ハ保險契約者ニアリ

保險金ヲ給付スヘキ會社ノ義務ハ家畜生命保險ニ於テモ其ノ他ノ對物保險ノ大多數ニ於ケルト同シク保險料拂込ト同時ニ發  
生スルモノニアラスシテ寧ロ一週間ニ渉ル期間ノ經過後ニ發生スルヲ通常トス、被保險家畜カ此ノ期間内ニ罹病ストキハ會  
社ハ此ノ家畜ニ關スル保險關係ノ解除ヲ告知スル權利アリ此ノ告知ハ即時解除ノ效力ヲ有スルモノトス、而シテ此ノ場合  
ニ拂込済ノ掛金アルトキハ拂戻スヘク、會社カ其ノ罹病ノ事實ヲ知りタル時ヨリ一週間以内ニ此ノ解除告知權ヲ行使セサ  
ルトキハ此ノ權利ハ消滅ス、會社ノ保險金支拂義務ハ追加保險ノ場合ニハ追加保險承認ノ日ヨリ起算シ或期間ノ滿了後ニ  
發生シ、追加保險ニ附シタル家畜ニ對シ比較的高率ノ保險料ヲ納ムヘキトキハ、期間ハ保險料拂込ノ日ヨリ起算スルモノト  
ス

保險契約者ハ保險事故發生シタルトキ會社ノ理事者ニ即時書面又ハ電報ニテ此ノ旨ヲ通知スヘク、被保險家畜ノ死亡ニ因リ  
保險事故ノ誘致セラレタルトキハ會社ヨリ送付セル用紙ノ受領後普通三日ノ期間内ニ損害報告、獸醫ノ作成スル疾病報告及  
剖檢報告ヲ提出スルヲ要ス、但小家畜ニ係ル剖檢報告ハ會社側ヨリ明カニ之ヲ請求シタルトキニ限り又大家畜ニ係ル剖檢報  
告ハ家畜カ罹病中ニ獸醫ノ診療ヲ一回モ受ケザリシトキ或ハ解剖セサレハ確實ニ死因ヲ究メ難シトノ意味ヲ疾病報告中ニ揭  
ケタルトキニ限り提出スヘキモノトス、解剖費ハ保險契約者ノ負擔トス、但會社側ヨリ特ニ解剖ヲ請求シタル場合ノ解剖費  
ハ此限ニアラス、保險契約者カ保險事故發生ノ申告ヲ爲サス又ハ遲延スルトキ或ハ要求セラレタル損害關係報告ノ提出ヲ爲  
サス又ハ遲延スルトキハ會社ハ保險金給付義務ヲ免カル然レトモ此ノ懈怠若ハ遲延カ故意又ハ重大過失ノ結果ニ非サルトキ  
又ハ會社カ他ノ方法ニ依ツテ保險事故ノ發生ヲ既ニ知り得タルトキハ此ノ限ニアラス

會社ハ左記各號ノ一ニ該當スルトキモ亦保險金給付ノ義務ヲ免ル

四四

- 一、保險契約者又ハ之ト同一世帯内ニ生活スル家族又ハ家畜ノ管理ヲ委托セラレタル雇人カ保險事故ヲ故意（但人道上一リ觀テ斷行シタル屠殺ハ例外トス）又ハ重大過失ニ因リ誘致シタルトキ
- 二、保險契約者又ハ前記ノ家族又ハ雇人カ家畜ヲ甚シク虐待シ又ハ等閑ニ附シタルトキ且之ト保險事故ト因果關係アルトキ但等閑ニ附シタルコトニ就テ其ノ人ニ責ナキ場合ハ此ノ限ニアラス
- 三、保險契約者カ損害査定ヲ爲ス場合ニ不實ノ申告ヲ爲ストキ但此ノ不實ノ申告カ保險契約者ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ラサルトキハ此ノ限ニアラス

保險契約者ハ保險事故ノ査定並損害測定上ニ必要ナル一切ノ調査報告ヲ會社又ハ其ノ代理人ニ爲スヘク此ノ際請求アルトキハ之ニ要スル一切ノ證據書類ヲ添付スルヲ要ス、而シテ證據書類ノ蒐集ニ就テハ保險契約者ノ常識ニ依ルノ外ナク保險契約者カ此ノ規定ニ從ハサルトキハ保險金ノ請求ヲ爲スコト能ハサルモノトス、但獸醫若ハ會社ノ代理人カ家畜ヲ視察シタル後ハ保險契約者ハ斃死セル家畜ノ皮ヲ剥キ又ハ其ノ肉體ニ變化ヲ加ヘテ真相ヲ確認シ難キニ至ラシメ或ハ死體ヲ取捨ツルコトヲ得ヘシ但既ニ警察ノ令規ニ基キ道般行動ニ出テサルヲ得サリシ場合ハ此ノ限ニアラス

被保險家畜ノ賠償價額ヲ査定シタル後、一定ノ率ニ依リ保險金額ヲ算出ス、而シテ賠償セラレタル家畜ノ利用ヨリ生スル賣上代金ハ保險金ノ中ヨリ控除スルモノトス、此ノ際會社自ラ利用ヲ爲スカ又ハ保險契約者ニ委任スルカハ會社ノ自由ニシテ保險契約者ハ此ノ場合ニ利用ヲ最善ノ方法ニテ行ヒ且賣上代金ヲ會社ニ報告スルヲ要ス、賣上代金一毫モ無キコト又ハ極メテ少額ニ過キサルトコトヲ會社ニ充分證明セス且此ノ證明セサルコトカ保險契約者ノ責ニ歸スヘカラサル場合ニ於テハ會社ハ

賣上代金ノ最低額ヲ控除ス、此ノ最低額ノ率ハ各種家畜毎ニ一般保險約款ニ依リ定メラルルモノトス  
會社ハ保險契約者ニ拂渡サルヘキ保險金即賠償額ノ算出方法ニ就キ保險契約者ニ書面ニテ通知スヘク、保險金ノ支拂ヲ拒絶セントスルトキモ亦書面ニテ通知セサルヘカラス、保險契約者カ之ニ對シ六ヶ月以内ニ請求權ヲ行使スル爲メ出訴セザルトキハ會社ハ保險金給付ノ義務ナク、會社カ保險契約者ニ對シ出訴期間經過ニ伴フヘキ法律上ノ效果ヲ示シツツ其ノ請求ヲ拒ミタルトキヨリ期間ハ進行スルモノトス

#### 第六 家畜生命保險契約ニ及ホス占有異動ノ影響

所有者ニ異動ヲ生シタル場合保險契約ニ對シテ如何ナル效果ヲ及ホスカノ問題ニ就キ立法者ハ家畜生命保險ノ特別ナル事情ヲ考慮シ他ノ對物保險ニ於ケル當該規定トハ聊カ異ナル規定ヲ設ケタリ、保險契約法第一二八條ヲ見ルニ此ノ點ニ付被保險家畜ノ集團中若干頭ヲ讓渡スル場合ト土地ノ讓渡ニ關聯シテ被保險家畜ノ集團モ併セテ讓渡スル場合トノ二種ヲ區別シタリ、而シテ或ル一頭ノ家畜ヲ讓渡スル場合ニハ保險契約者個人ニ存スル異動ノ爲メ會社ノ責任ハ往々多大ノ變化ヲ受クルコトアリトノ見地ヨリシテ保險ハ讓受人ニ移轉セス、又家畜ノ現在頭數ヲ悉皆讓渡スル場合ニハ其ノ經營ハ從來通りノ方針ニ依リテ繼續セララルルモノト推定シ得ヘキニヨリ結局保險契約法第六九條ノ規定ニ對スル除外例ヲ設クルノ必要アラサルモノノ如シ

故ニ或被保險家畜ヲ讓渡賃貸又ハ交換スルトキ或ハ其ノ他ノ方法ニ依リ被保險家畜ノ總集團中ヨリ離脱スルトキハ此ノ家畜ニ關スル保險關係ハ此ノ家畜カ保險契約者ノ從來ノ占有權内ヨリ離脱スルト同時ニ終了ス、但保險關係終了後二週間以内ニ或ル重大ナル瑕疵ニ因リ家畜カ死亡シ保險契約者カ讓受人ニ對シ法律上保證義務アルトキハ會社ハ保險契約者ニ對シ尙或程

四五

度迄責任ヲ免カレス、保險契約者ハ家畜ノ脱退ニ就キ遲滞ナク會社ニ申告書ヲ送付スルヲ要シ、脱退セル家畜ニ關スル保險料ハ當該保險期ノ滿了迄ニ拂込ムヘキモノトス

保險契約者ニ屬スル土地ノ附屬物ニ對スル所有權カ土地ノ所有權又ハ占有權ト俱ニ他人ニ移轉スルトキハ讓受人ハ附屬物タル家畜ニ關シ保險契約者ノ保險關係ヨリ生スル權利、義務ヲ踏襲シ、此ノ承繼當時ニ於ケル當該保險期ノ保險料ニ就テハ讓受人モ讓受人モ連帶債務者トシテ其ノ責ニ任ス、會社ハ讓受人ニ對シ一ヶ月ノ豫告期間ヲ附シ書面ヲ以テ保險關係解除ノ告知ヲ爲シ得ヘク會社カ其ノ讓渡ノ事實ヲ知りタル時期ヨリ一ヶ月以内ニ此ノ告知ヲ爲ササルトキハ解約權ハ消滅ス、讓受人モ書面ニテ保險關係解除ノ告知ヲ發シ而カモ期間ヲ附セサルコトヲ得ヘク、讓受後一ヶ月以内ニ解約告知ヲ爲ササルトキハ解約權ハ消滅ス、但讓受人カ保險關係ノ存在ヲ知ラサリシトキハ之ヲ知り得タル時期ヨリ一ヶ月以内ニ限リ此ノ解約告知權ハ消滅セス、此ノ規定ニ基キ保險關係ノ解除ヲ告知スルトキハ前保險契約者ハ會社ニ對シ尙當該保險期ノ保險料ヲ拂込マサルヲ得ス、讓受人ハ此ノ場合ニ於テ何等責任ナキモノトス

被保險家畜ノ集團ヲ悉皆他ニ讓渡シタル場合ニハ此ノ旨ヲ遲滞ナク書面ニテ會社ニ通知スルヲ要シ、讓受人並前保險契約者カ此ノ通知ヲ爲ササルトキハ會社ハ通知義務カ此ノ通知ヲ爲スヘキ時期ヨリ一ヶ月ヲ經過シタル後ニ於テ保險事故發生スルモ保險金ヲ支拂フノ義務ナシ、若シ其ノ讓渡カ前記ノ時期ニ於テ他ノ方法ニ依リ會社ニ知レタルトキ又ハ保險事故發生當時會社側ニ於テ解約期間カ既ニ經過シタル爲メ解約告知ヲ爲スニ至ラサリシ場合ニハ保險金支拂義務ハ依然トシテ嚴存スルモノト云フヘシ

#### 第四節 家畜生命保險ノ技術的原則

家畜生命保險ニ於テハ此ノ保險契約ノ實質カ獨特ノモノタルコト並保險事故ノ發生、損害ノ調査ニ關スル一切ノ事情ヲ統計的ニ査定スルコト並組織的保險技術ノ主要條件ハ未タ實現スルニ至ラサリシヲ以テ他ノ多數保險ト同一程度ニ於ケル組織的ノ保險技術ヲ述フルコト能ハス、又事實上獨逸ノ家畜現在高ノ疾病件數及死亡件數ノ常態ハ年齡及種屬ニ關係アルハ勿論ナルモ尙其ノ外使用方法勞働程度飼料及收容ノ如何ニモ關係スルモノアルヲ以テ斯カル統計調査ハ實行上多大ノ難關ニ逢着シ到底其ノ減退狀況ヲ觀察スルニ足ルヘキ一般的ニ信シ得ヘキ數字ヲ統計スルコトハ困難ナリ、加之多數ノ家畜保險會社ハ畜産國民ノ當然タル利害ニ相應スヘキ技術的原則ヲ定ムルニ往々冷淡ナリシコトアリ、家畜保險ニ於テ今日應用セララルル技術ハ若干會社ノ經驗ニ依リテ漸次發達シタルモノ多シ

比較的小規模ノ組合ニ依リテ經營セララルル家畜生命保險ノ法律的基础ハ大會社ニ比シ適ニ簡單ナルカ如ク技術方面ニ於テモ幾多ノ規定ハ初メヨリ組合ニ適用セラレサルコトアリ、即待期制度ノ如キモ組合ニトリテ無用ノ長物タル場合多カルヘク、獸醫診斷書ノ提出モ最小限度ニ限ラルヘク、又營業ノ危險ニ關スル區別モ同様ナル状態ニアルモノト云フヘシ

合理的ナル家畜保險ト爲スニ就キ第一ニ必要ナル事項ハ保險ノ裡ニ潜メル危險ノ反映タル保險料率ヲ算出スルコトナリ、各會社ハ概ネ被保險家畜利用方法ヲ基礎トシテ危險等級ヲ設ケ居リ、馬ノ危險等級ハ大體ニ於テ左ノ三種ニ分タル

一、娛樂用ノ馬(乘馬、馬車馬)

二、農耕用及輕易ナル營業用ノ馬  
三、荷駄馬

更ニ保險料率ヲ保險契約額ト比較シテ見ルニ即左ノ如シ

- 第一級 2 $\frac{1}{2}$  / 3 $\frac{1}{2}$ %
- 第二級 4 / 5%
- 第三級 6 / 8%

斃死又ハ緊急屠殺ノ外ニ尙永續的廢用(即廢疾)ノ場合ヲモ保險スルトキハ前記ノ料率ハ尙保險契約額ノ  $\frac{1}{100}$  /  $\frac{1.5}{100}$ ノ割増トナル

牛ノ危險等級ハ屢々次ノ如ク區分セラル

- 一、犢及普通ノ牛ハ保險契約高ノ 2 $\frac{1}{2}$  / 3 $\frac{1}{2}$ %
- 二、乳牛保險料ハ保險契約高ノ 4 / 6%

豚及山羊ハ危險等級ヲ設ケサルヲ常トシ其ノ保險料ハ保險契約高ノ八一〇%トス

多年繼續セル保險契約ナルトキハ保險料ヲ割引スル會社モ尠カラス、而シテ此ノ割引額ハ契約期間ノ長短ニ依リテ異ナルモノトス、「中央家畜保險組合」ニテハ保險料徴收ニ關スル特別制度ヲ設ケタリ、即家畜保險ヲ比較的有力ナル家畜飼養者ニモ利用セシメンカ爲メ保險契約總額九千「マルク」以上ノモノハ定率ノ半額、三萬「マルク」以上ノモノハ同四分ノ一ノミヲ拂込ミ其ノ殘額ハ孰モ損害事故發生ノ場合ニ會社ヘ拂込メハ足り而シテ此ノ分ハ保險金中ヨリ控除セラルヘク保險契約者ハ斯

ク通算セラルル保險金カ保險料ノ殘額ヲ超過スル場合ニ限り現金ニテ保險金ヲ受クルモノト爲シタリ、比較的小規模ナル組合ニアリテハ保險契約ノ内容皆相類似スルヲ以テ等級別ニ分類スルコトハ極メテ罕ニシテ、若シ等級制ヲ設ケルトキハ其ノ等級ハ皆保險金査定上ニ付テノミ設ケラレタルモノトス、又等級別ハ被保險家畜ノ使用方法ヲ標準ト爲スニ非スシテ寧ロ其ノ年齢又ハ價値ヲ標準ト爲ス、而シテ此ノ最後ノ意味ニ於ケル分類ハ豚専門ノ保險組合ニ行ハルコト最モ多シ之レ蓋シ肥育ヲ唯一ノ目的ト定メラレタル家畜ノ價額ハ短日月ノ間ニ甚シク變動スルヲ以テナリ、此ノ理由ニヨリ豚保險組合ニテハ屢々頭數ニ應シテ保險料ヲ徴收スル主義ヲ採リ斯クシテ保險契約額ヲ屢々改定スル煩累ヲ免カレントセリ

- 一 牛、 1 / 2%
- 二 馬、 2 / 3%
- 三 豚、 3 / 4%
- 四 山羊、 4 / 5%

會社ノ保險金支拂義務發生前ニ待期制度ヲ設ケルコトハ組合ヨリモ有力ナル會社ニ於ケル恒例ナリ、既ニ發病ノ兆アリ若ハ死亡ノ期ニ切迫セル家畜ヲ保險ニ附シテ保險金ヲ得ントスルカ如キ奸策ヲ避クルニハ待期制ニ依ルヲ可トスヘシ然レトモ斯カル制度ハ小規模ナル組合ニ適當セス、蓋シ保險契約者ノ範圍ハ狹キヲ常トスルニヨリ各人ノ飼養スル家畜ノ頭數等ハ直接關係者ニ克ク知ラレ居ルノミナラス家畜ヲ保險ニ附スルニ當リ他ノ組合員ノ監視ヲ免カレス、他ノ組合員等ハ損害防止上ニノ利害ヲ有スル結果自ラ監査ノ限ヲ輝スヲ以テナリ



損害ヲ填補スルニ當リ損害全部ヲ填補セシテ寧ロ其ノ或一部分ノミヲ填補スルニ過キサルハ家畜生命保險ニ於ケル一般ノ原則ニシテ保險契約者カ保險事故ヲ防止スル爲メ及其ノ飼養スル家畜ヲ愛護シ苟且ニモ待遇上ニ遺憾ナカラシメントスル爲ニハ此ノ原則ニ依ルテ上乘ノ策トス、被保險家畜ノ斃死又ハ緊急屠殺ノ場合ニ對スル保險金額ヲ大概ノ保險者ハ賠償價額査定額ノ七十五又ハ八十%ト定メ居リ賠償額カ之ヲ超過スル如キ場合ハ極メテ稀ニ見ル現象ナリ、被保險家畜カ永續的ニ廢用ニ歸スル場合ニハ之カ保險金ハ尙尠ク、多クノ場合ニ於テ賠償價額ノ五十乃至六十%ナリ、

家畜生命保險ニ依リテ填補セラレサル損害部分ニ付テハ「自家保險部分」ナル名稱アリ、而シテ保險契約者ハ被保險家畜ノ價值ノ一部分ノミヲ填補セラレルニ安シ殘餘ノ保險ナキ部分ヲ其儘ニ放置スルニ非スシテ此ノ部分ハ自己保險ヲ爲スヘク損害ノ發生シタル場合ニ於テハ賠償價額ノ二〇%又ハ二五%ヲ控除シタル殘額ヲ受クルモノニシテ、結局自家保險部分ト稱スル損害部分ハ一種ノ損害控除ヲ意味スルニ過キサルナリ、若干ノ小組合ニ於テモ自家保險主義ヲ採用シ家畜ノ價額ノ七十五%ヲ保險ニ附シ之ヲ保險契約高ト爲セリ、而シテ此ノ場合ニ保險料ハ保險契約高即價額ノ七十五%ヲ基準トシテ算出シ事故發生ノ際拂渡サルル保險金ハ保險契約高ノ全額ナリ

大多數ノ會社ニテハ賠償價額ハ賠償セラレヘキ家畜カ保險事故ノ發生直前ニ有シタリシ價值ヲ專門的ニ評價シテ査定セラレヘキモノトシ此ノ賠償價額ハ保險契約高ヲ超過スルコトヲ得サルモノトス、家畜ノ評價ハ保險事故發生當時迄家畜ヲ診察シタル獸醫ニ依リテ行ハルル原則トシ小規模ナル組合ニテハ組合員ノ選出シタル委員カ其衝ニ當ル、保險事故發生後ニ於ケル價額ノ評價ヲ避クル方法ハ「一般保險約款」ニ依リ保險契約高ヲ賠償價額トシテ決定スルコトニシテ組合ヨリ規模ノ大ナル會社ニ於テハ實際極メテ罕ナリト雖保險契約高ヲ尠クトモ毎年更正スルコトハ保險契約者ニ不當ノ利得ヲ得セシメサル豫

防策トシテ必要ナルコトナリ、規模ノ小ナル組合ニテハ被保險家畜ノ實價三ヶ月若ハ六ヶ月毎ニ行ハルル検査ニ依リテ査定ン得ヘキヲ以テ保險契約高ニ依リテ保險金ヲ定ムルコトハ到底想像シ得サル所ナリ

保險金交付ノ目的タル家畜ヲ利用シテ得タル賣上代金ハ家畜保險ニテハ重大ナル關係アリ、保險契約者ニ對シテ損害ヲ填補スルニ當リテハ唯實際ノ損害ノミニ限ラレ此ノ實際ノ損害モ亦唯或一定部分ノミ賠償セラレルル原則トスルヲ以テ保險契約者ノ得タル賣上代金ヲ賠償價額査定額中ヨリ控除スルノ必要アリ、而シテ約款規定ノ給付率ニ從ヒ保險金ヲ算出スルハ此ノ手續ヲ了シタル以後ノコトニ屬スルモノトス

今茲ニ保險金ヲ算出スル爲ニ一例ヲ擧クヘシ、下肢骨折カ原因トナリテ死亡シタル馬ノ賠償價額ハ一千「マルク」保險契約者カ屠畜業者ニ死馬ヲ賣却シテ得タル代金ハ一百「マルク」ナリトシ、而シテ死亡若ハ緊急屠殺ノ場合ニ於ケル保險金支給率ハ賠償價額ノ七十五%ナリトスレハ此ノ場合會社カ尙支給スヘキ保險金ハ六百七十五「マルク」トナルヘシ

$$(1000 - 100) \times 75\% = 675M$$

然レトモ私營ナル家畜保險會社ハ孰モ斯カル方法ニ依ツテ保險金ヲ算出セス、各社ハ賠償價額中ヨリ賣上代金ヲ控除シテ損害ヲ調査スルコトナク、寧ロ賠償價額ヨリ直接ニ保險金ヲ算出シ此ノ内ヨリ賣上代金ヲ控除スルモノトス、故ニ前掲ノ例ニ依リテ計算スルトキハ左記ノ額ヲ保險金トシテ支給スルコトニナルヘシ

一千「マルク」ノ七十五%ハ七百五十「マルク」ナリ此ノ中ヨリ一百「マルク」ヲ減ス。即六百五十「マルク」ヲ保險金支給額トス

此ノ算法ニ依レハ保險契約者ニトリテ頗ル割ノ惡キコトニナルハ疑ヲ容レズ、若シ夫レ癡疾ノ例ニ從スレハ會社側ノ算法ノ

不當ナルコトカ一層明白ニ露骨ニナルヘシ蓋シ癩疾ノ場合ニハ死亡ノ場合ヨリモ一層高價ニ賣却セララルヲ以テナリ  
又爰ニ保險證券中ニ運送用ノ車輛ニ使用スル馬ト明示シタル馬アリ偶々其ノ馬癩疾トナツテ此ノ目的ニ使用スルコト能ハサ  
ルニ至レルトキ之カ賠償價額ヲ一千「マルク」ト査定シテ此ノ家畜ヲ比較的輕易ナル農業上ノ作業用ニ使役スル爲ニ買  
取ル者アリ之ニ依リ飼養者ハ五百「マルク」ヲ得タリトセンカ此ノ癩疾ニ對スル賠償率（即賠償價額ノ五十%）ニ照ラシ果  
シテ如何ナル保險金トナルヘキカ、想フニ各社慣用ノ算法ニ依レハ保險契約者ニ尙拂渡スヘキ保險金（即一千「マルク」  
ノ半額）中ヨリ五百「マルク」ヲ減スレハ零トナルヘシ、故ニ保險契約者ハ縱ヒ癩疾保險ニ家畜ヲ附シテモ保險事故發生ノ  
場合ニハ保險金ヲ得サルコトニナルヘク然カモ本來ハ（1000—500）ノ五十%タル二百五十「マルク」ヲ支給サルヘキ筈ナラ  
スヤ

以上ノ諸點ヨリ考フレハ死亡又ハ緊急屠殺或ハ癩疾ニ因由スル損害ハ家畜保險ノ目的物ナリト規定セル保險契約法第一一六  
條ニ照ラシ此ノ損害ハ先ツ賠償價額ヨリ賣上代金ヲ控除シテ査定セラルヘキモノニシテ保險金ノ計算ハ其ノ後ノ手續ニ屬ス  
ルモノナリト云フ結論ヲ生スヘシ、保險費用ハ此ノ損害調査手續ヲ行フニ當リテ今日行ハルル手續ヨリモ稍膨脹スヘキハ疑  
ヲ容レズ、然レトモ此ノ事ハ家畜保險ヲシテ保險契約者ノ正當利益ニ副フモノタラシメントスル主義ヲ遂行スルニ當リテハ  
核心ニ觸レサル問題ナリト謂フヘク、損害發生ノ場合ニ保險契約者ヲ無保險狀態ニ在ルノ感ヲ懷カシムヘキ家畜保險ハ之レ  
家畜保險トシテノ本領ヲ盡クスモノニ非ス、保險事故カ發生シ會社側ニ賠償義務ノ存スルニ拘ハラズ保險契約者カ賠償額即  
保險金ヲ貰ハサル如キ奇現象ヲ呈シ得ル損害填補法ハ誤レル基礎ノ上ニ立テルモノト云ハサルヘカラサルナリ

## 第四章 屠畜保險

### 第一節 屠畜保險ノ沿革

屠畜保險ノ組織上ニ於ケル二大要素ハ（一）公設屠場ヲ設クルコト及（二）法規整然タル検肉制度ノ存在ナリ、縱シ獨逸ニハ所  
謂 Kutelhofe ナルモノカ中古時代ニ起リテ屠殺ノ外向屠殺セララル家畜ノ健康状態ニ付或程度ノ監視ヲ行ヒタリトハ云ヘソ  
ハ固ヨリ原始的ノモノニ過キス、一定原則ニ依リ經營セラルル公設屠場ノ施設ヲ賅ルニ至リタルハ漸ク十八世紀以後ノ事ニ  
屬ス、南獨逸ノ諸邦ハ這般施設ヲ他ニ率先シテ實現シ同時ニ検肉制度ノ基ヲ啓キタリ、此ノ検肉制度ハ其ノ後歲月ヲ累スルニ  
伴ヒ益々發展セリ、北獨逸ニテ公設屠場設置ノ風潮ヲ生スルニ至レルハ迥ニ後年ノ事ニ屬ス、蓋シ十九世紀ノ初頭ニ於テハ  
營業ノ絕對自由ヲ認ムル主義ガ勃發シタル結果一定地域ニテ警察ノ監視ノ下ニ屠殺ヲ行フカ如キハ之レ肉屋ノ自由ヲ束縛ス  
ルモノナレハ營業自由ヲ妨害スルモノナリト看做サレ公設屠場ノ設置ハ一時頓挫シ之カ爲メ「プロイセン」ノ各地ニ散在セ  
ル幾多ノ公設屠場ハ次第ニ閉鎖セラレ遂ニ最後迄殘リタル伯林屠場モ一八四二年ニハ閉業スルニ至レリ、斯クシテ折角發展  
ノ道程ニ在リタル検肉制度モ權花一朝ノ凋落ヲ見ルニ至レリ、而シテ其ノ後六十年代ノ初メニ西北獨逸ノ住民屢々旋毛蟲ニ  
襲ハレ此ノ患者ハ全ク地方病ノ如クニ續出シタルノミナラス一面ニハ又腐肉中毒ニ罹ル者頻發シ人心恟々タルモノアリ、識  
者ハ再ヒ公設屠場復興ノ要求ヲ叫ビ同時ニ營業ノ自由モ或ル程度マテ制限ヲ加フヘシト運動スル者モ生シ其ノ勢力大ニ侮リ  
難キニ至リ、此ノ要求ハ遂ニ「プロイセン」ニ於テ一八六八年三月十八日附法律「公設專用屠場設置ニ關スル件」ノ施行ニ依  
リテ貫徹ヒラレ又検肉ノ件モ最初ハ旋毛蟲ノ有無ヲ検査スル形式ニ依リテ行ハルルニ至ツテ漸次復興ノ緒ニ就ケリ

想ノニ獨逸ニ於テハ檢肉ニ付最初唯穩健ナル取締ヲ爲スニ止マリ單ニ刑法第三百六十七條第七號並一八七九年五月十四日附獨逸國法律「食料、嗜好料及使用用品ノ取引ニ關スル件」ヲ設ケタルニ過キサシテ以テ十九世紀ノ末葉ニ於テハ未タ毫モ統一ノ域ニ達セス從テ獨逸ノ立法上ニ於ケル不備缺陷ヲ補足スヘキ事務ハ之ヲ擧ケテ各聯邦ニ一任シタリ、然ルニ各邦ノ法規ハ區々様々ナリシカハ一面ニハ屠畜ノ國內賣買ノ發展上ニ又一面ニハ外國ヨリノ輸入スル上ニ多大ノ難關ヲ設ケ結局立法ノ統一ハ益々其ノ必要ヲ痛感セラレ、遂ニ一九〇〇年六月三日附獨逸國法律「屠畜及肉ノ檢査ニ關スル件」ノ施行ニ依リテ達セラレタリ、此ノ立法ハ獨逸全國ニ涉リ一定ノ最小限要求ヲ爲シタルモノニシテ而シテ此ノ基礎ノ上ニ於テ特別ノ取締ヲ爲スコトハ各邦ニ一任シタリ、同法實施期タル一九〇三年四月一日以來後人ノ食糧トシテ市場ニ賣買セラルル肉ノ供給者タル家畜ハ總ヘテ屠殺セラルル前後ニ於テ必ス専門家ノ檢査ヲ經ヘク、而シテ賣買シテモ差支ナシト認定サレタル肉ハ固ヨリ問題ナケレトモ食用ニ堪ヘスト宜明セラレタル肉ハ廢棄セラルヘク、條件附ニテ食用ニ堪ユルモノト認メラレタル肉若ハ價值賤キモノト看做サレタル肉ハ唯或一定條件ノ下ニ於テ賣買セラレ得ルコトナレリ、人ノ食用肉ノ性質ニ對スル衛生上ノ要求カ此ノ如ク發達スルニ伴ヒ官憲側ニテ肉ノ販賣上ニ制限ヲ加フル結果屢々屠畜ノ飼養者ニ經濟上ノ損害ヲ生スル場合ヲ睹ルニ至レルハ自明ノ理ニシテ此ノ損害ヲ保險ナル手段ニ依リテ緩和、調節スルノ策ニ出テタルハ蓋シ異シムニ足ラス、檢肉制度ノ施行ニ伴ヒ同時ニ屠畜保險ニ關スル相當施設ヲ爲スニ至レリ、最初成立シタル此ノ保險事業カ利害關係者ノ團結ニ外ナラザリシコトハ家畜生命保險ニ於ケル場合ト異ナラス、利害關係者ノ團體ハ相互協力シテ損害ヲ填補シタリ、損害トハ其ノ屠殺シタル又ハ屠殺ノ目的ヲ以テ賣却シタル家畜ニ對スル官憲側ノ異議ニ依リ直接又ハ間接ニ利害關係者ノ蒙リタル損害ヲ云フ、市營屠場ヲ有セル各市中ニハ後年此ノ事業ト聯絡ヲ取り市營「屠畜保險」ヲ設ケタルモノ尠カラズ、村落ニ散在セル利害關

係者ニモ屠畜保險ヲ普及センカ爲ニ流以上ノ家畜保險會社ニシテ既ニ家畜生命保險ヲ經營セルモノハ屠畜保險ニ關スル特別部ヲ設ケ又個人タル事業主並ニ各種ノ商會社モ營利ノ目的ヨリシテ此ノ新事業ニ着手シタレハ其ノ結果屠畜保險ノ活動ノ野ハ忽チニ千紫萬紅ノ壯觀ヲ呈スルニ至レリ

獨逸ノ中央政府カ檢肉法ヲ未タ施行セザリシ頃聯邦中ニハ既ニ強制的ニ檢肉ヲ行フ制度ヲ設ケタルモノ尠カラズ、故ニ之ト關聯シテ又屠畜保險ノ加入強制ヲ宣明スルノ必要ヲ認ムルニ至レリ、然ルニ此ノ強制タルヤ矢張り國家ノ手ニテ之ニ關スル法規ヲ設ケルノ必要アルハ言ヲ待タサレハ獨逸聯邦「サククセン」王國ニテハ一八九八年六月二日附法律ニ依リ、又「シユワルツブルヒ、ゾンダースハウゼン」公領ニ於テハ一八九九年七月三十日附法律ニ依リ孰モ強制檢肉制度ヲ實施スルト同時ニ官營屠畜保險所ヲ設ケタリ、此ノ官立保險所ノ設置ニ就テハ又獨逸議會ニ於テ一九〇〇年五月二十二日附法律「檢肉法」通過ノ際、獨逸國會ハ「屠畜及其ノ肉ノ檢査ニ關スル法律」ノ不備ヲ補フ爲ニ聯邦ヲシテ法律ヲ制定セシメ各邦ノ國庫ノ援助ノ下ニ「屠畜保險」ヲ設ケシメ併セテ屠畜ノ肉ニシテ廢棄スヘキ部分アラハ之ヲ適當ニ利用スルノ方法ヲ講セシムルハ至當ノ措當ナリト認ムトノ決議ヲ爲シ之カ必要ヲ認メタリ

官營「屠畜保險」ノ問題ハ之カ爲メ其ノ後各邦政府及各邦立法部ノ着目スル所トナリ新舊「ロイス」兩公國ノ如キハ一九〇三年三月十二日及十日ノ法律ニ基キ、獨逸國法律「檢肉法」ノ實施サルルト同時ニ官營「屠畜保險所」ヲ設ケ直チニ其ノ事業ヲ開始シ、又「ヘッセン」大公國ニテモ一九〇五年四月十二日附法律ニ依リ亦官立「屠畜保險所」ノ設置ニ關スル計畫ヲ發表シタルカ之ハ今日迄未タ實現ヲ見ルニ至ラス、「バーデン」、「バイエルン」ノ兩邦ニテハ官立「家畜保險所」ヲ設ケ限定的ナル「屠畜保險」ヲ行ヘリ即此ノ保險所ハ地方組合ノ聯合團體ニシテ地方組合トハ所謂親子關係ヲ保有シ地方組合ノ保險セ

ル牛カ一定ノ場所ニ於テ一定時日内ニ販賣後屠殺セラレ且「屠畜及其ノ生肉検査」ノ際ニ官憲制ノ異議アルトキ保險金即一種ノ賠償金ヲ給付スルナリ、「プロイセン」王國ニテハ農界ノ利害關係者ノ代表機關「特ニ地方經濟會議」ハ屢々強制的「屠畜保險」ノ問題ヲ攻究シタル結果遂ニ一九〇一年ヨリ一九〇三年ニ至ル間ニ於テ一種ノ法案ヲ設ケタリ、該法案ハ州ヲ保險擔當者ニスル豫定ニシテ屢々同邦下院ニ上程サレタレトモ結局未タ法律トナラスニ毎回否決セラレタリ

### 第二節 屠畜保險ノ企業形態及其ノ組織

#### 第一 地方的「屠畜保險」

屠畜保險ノ地方的組織ノ最大部分ヲ占ムルモノハ肉屋同業組合ノ經營スル「屠畜保險組合」ナリ、之等ハ概ネ相互保險組合ニシテ孰モ皆同業組合所屬ノ屠場ニ事務所ヲ置キ其ノ業務ヲ營メリ而シテ組合員ハ孰モ其ノ屠殺セントスル家畜ヲ此ノ組合ノ保險ニ附スヘキ義務アルモノトス、此ノ地方的「屠畜保險組合」ノ管理ハ組合員ノ互選ニ係ル理事者ニ依リテ行ハレ、理事者ハ屢々一名ノ會計係ヲ組合ノ有給職員トシテ採用ス、保險組合費ノ財源ハ保險料ニシテ之レハ組合員ヨリ前納セシムルモ組合員ハ尙場合ニ依リ追納スヘキ責任ヲ免カレ難キモノトス、保險金ハ購入代金ヲ基準トスルコトアリ、又其ノ地方通有ノ市價ヲ標準トスルコトアリ、組合ハ獨逸國中央政府ノ監督ヲ受クル明文アル場合ノ外ハ總ヘテ各邦政府ノ監督ヲ受クルモノナルヲ以テ各組合ノ扱ヘル保險ノ件數及範圍ニ於テハ統一的ノ統計ハ存在セス、各保險組合ノ事業ハ整然トシテ經營セラレ保險事務亦簡單ニ整理セラルル爲メ各方面ノ多大ノ歡迎ヲ受ケ從テ其ノ取扱件數ハ年々増加ノ傾向ヲ帶ヒツツアリ、獨逸全國ヲ通シ這般組合事業トシテ現ニ經營セラレツツアルモノハ無慮六百乃至八百アリ

地方的屠畜保險ノ一種ト看做サルヘキモノハ若干都市ノ條例ヲ以テ施設セルモノナリ、此ノ規定ニ依レハ市營家畜市場ニ送付セラルル若ハ市營屠場ニテ屠殺セラルル一切ノ家畜ハ孰モ市營「屠畜保險所」ニ於テ保險ニ附シ得ヘク若ハ附セサルヘカラサルナリ、公共團體經營ノ「屠畜保險」ハ獨逸ニ其ノ例尠シ、「プロイセン」邦ニテハ僅ニ「ボツダム」「フランクフルト」、アン、デル、オーデル、「ケスリン」、「カツセル」「ウキースバイン」及「アーヘン」ニ這般施設ヲ見ルニ過キス、「ザツクセン」王國ニ於ケル公共團體經營ノ保險中、一八九〇年ニ設ケラレタル「ライプチヒ」市立「屠畜保險所」ハ最モ古キ歴史ヲ有スルモノナリ、要スルニ同國ニ於ケル這般保險ハ一九〇〇年ニ於ケル官立保險所實現以來其ノ營業範圍ヲ縮小シテ「ザツクセン」外ノ家畜及官立保險所ノ取扱ハサル家畜ノミヲ取扱フノ餘儀ナキニ至レリ

#### 第二 營業範圍ノ汎キ私營「屠畜保險」

地方的組織ノ「屠畜保險」ハ多數ノ屠殺ヲ定期ニ反覆スル場所所換言スレハ大都市又ハ中位ノ都市ノ屠場ノ如キモノニ於テ可能性アルニシテ農村ニ於ケル保險需要ハ或ル特別ノ組織體ニ依ラサレハ満足ヲ受クルヲ得ス、而シテ後者ハ農村ニ於ケル散在的危險ノ合同ニ因リテ調節ヲ圖ル必要アルヲ以テ營業範圍ノ廣大ノモノタラサルヘカラス

營業範圍ノ汎キ私立「屠畜保險」業ヲ以テ論スヘキ事業ハ殆ト皆營利ヲ目的トセサルハナシ、而シテ營業中ニハ個人經營ノモノ合名會社、有限責任會社、比較的廣大ナル家畜保險會社等アリ、就中後者ニシテ相互主義ニ立脚スルモノニ於テハ「屠畜保險」ヲ所謂「社員外保險」トシテ特別保險部ニ於テ經營ス、地域的ニ廣キ營業範圍ヲ有スル「屠畜保險」ハ一定ノ屠場ニハ關係ナク農家、家畜商人又ハ肉屋ノ家畜ニ對シテ保險スルモノナルヲ以テ屠殺地ノ如何ヲ論セス保險代理人ノ援助ヲ得テ其ノ業務ヲ營ミ得ルヲ通常トス、保險代理人ハ保險業者ノ代理者トシテ指定セラレタル屠場ニ立會ヒ又保險契約者ト保險

業者トノ取引ヲ媒介スルモノナリ

當該保險業ノ營業區域カ一聯邦内ニ限ラルル場合ニハ其ノ邦ノ監督ヲ受ケ其ノ他ノ場合ニハ獨逸國ノ監督ヲ受ケ、前者ノ營業狀態ニ關シテハ徵スヘキ統計報告ナシ然レトモ獨逸政府ノ監督ヲ受クルモノノ統計ハ之ヲ得ルニ難カラス、千九百十一年ニ於テハ家畜生命保險會社タル八社ハ「屠畜保險」ヲ營ミ又此ノ保險ヲ専門ニ營ムモノハアリ後者ノ中ニハ單獨ノ商人、四ハ合名會社、一ハ有限責任會社、一ハ相互保險組合ナリ、家畜生命保險會社タル八社ニ於テ保險シタル家畜ノ頭數ハ同年中一、九八〇、一九三頭ニシテ之カ保險契約額ハ「三六二、九九八、一七五」マルクニ達セリ、又其ノ保險料ハ「三、一六五、〇〇〇」マルク、賣上代金「〇、一五、六七六」マルクニシテ此ノ收入ニ對スル支出總額ハ「四、五五七、八七八」マルクナリ、其他ノ八保險業者ノ保險シタル家畜ノ頭數ハ「一、一六一、二三〇」頭ニシテ之カ保險契約額ハ「一四二、一一七、八二五」マルクニ上レリ、又其ノ保險料ハ「一、二〇二、四八六」マルク、賣上代金「一、〇二六、五八〇」マルクニシテ損害支出ハ「一、九五八、五五三」マルクヲ算セラル

### 第三 官立屠畜保險所

獨逸ニ於テ初メテ官立「屠畜保險所」ヲ設ケタルハ「サツクセン」王國ニシテ一八九八年六月二日附法律「官立屠畜保險所ニ關スル件」ニ依レリ、此ノ法律ノ施行期ハ一九〇〇年六月一日ニシテ掛金徵收ニ關スル根本的改正ヲ見ルニ至リタルハ一九〇六年四月二十四日附改正法ノ實施後ニ屬ス、此ノ保險所ハ王國保險局ノ特別課トシテ設ケラレタルモノニシテ屠畜保險ノ問題ニ就キ處理スル爲、十四名ノ委員ヨリ組織サレタル管理委員會ヲ設ケタリ  
此ノ保險所ハ絶對的ノ保險強制ヲ伴ヘル強制保險ヲ行フモノニシテ此ノ官立保險所カ法規ノ定ムル所ニ依リ保險シ能ハサル

家畜ノミテ私立保險所ニ於テ保險シ得ルモノトス、即國內ニ於ケル牛豚ニシテ年齢三ヶ月ヲ超ユルモノハ此ノ官立保險所ニ就キ保險ニ附スルモノトシ、此ノ保險ハ家畜ノ屠殺後（但緊急屠殺ノ場合モ含ム）檢肉ノ結果、其ノ筋ヨリ販賣差止等ヲ命セラレタル爲ニ生スル損害ヲ補填スルモノナリ、此ノ保險ハ「サツクセン」國外ノ家畜ハ取扱ハス、即屠殺前一ヶ月以内ニ「サツクセン」ノ領内ヘ移入セラレタル家畜ヲ保險セス但屠殺前六週間以内ニ「サツクセン」邦ヨリ他國ヘ輸出シ而テ外國ニ滞在セル日數カ二週間ヲ超ヘサルモノハ此ノ限ニアラス

保險ニ加入義務アル家畜ナルトキハ孰モ屠殺前ニ、又緊急屠殺ヲ行フ場合ニハ離斷前ニ保險料ヲ納入シ各公共團體毎ニ定メラレタル料金拂込所ニ之ヲ申告セサルヘカラス、若シ此ノ加入者申告者カ保險加入義務ナシト信シテ當局者ト争フトキハ異議ノ申立承認書用紙ヲ本人ニ交付ス、本人ハ是ニ由テ掛金拂込額ノ拂戻ヲ保險所ニ申請スルコトヲ得ルナリ、若シ保險加入申込ノ際保險加入義務ナキコトヲ證明スルトキハ免除承認書ヲ本人ニ交付ス此ノ交付ヲ受ケタル者ハ掛金ノ拂込ヲ爲スノ要ナシ

掛金ノ額ハ毎年牡牛、牝牛、豚ノ三種ニ區分シ内務省ニ於テ之ヲ定ム、若ス牛ニ關スル此ノ掛金ヲ以テ、非營業的ナル屠殺ノ場合ニ於ケル保險金支出ヲ償フニ足ラサルトキハ毎年所要不足額ヲ國庫ニテ立替ヘ置キ翌年ニ至リ各飼牛者ヨリ其ノ飼牛頭數（但生後三ヶ月以上ノ）ノ多寡ニ應シ回收ス、掛金徵收額ハ保險所ノ創業以來高低常ナラス大體牡牛一頭ハ二乃至四馬克、牝牛一頭ハ三乃至十四馬克、豚一頭ハ〇、四〇乃至〇、八〇馬克ニ該當ス

肉ヲ檢査スル際當局ノ苦情アルトキハ飼養者ハ屠殺地ノ市町村ニ保險金ノ請求ヲ爲スヘシ、損害ノ評價ハ各市町村毎ニ任期三年ノ地方評價委員ヨリ成ル地方評價委員會ニ依テ行ハル、此ノ委員ハ三名トシ市町村ノ代表者一名、開業免狀ヲ有スル獸醫

一名、家畜所有者一名ヲ以テ之ニ充ツ、地方評價委員會ノ決定ニ服セサル場合ニハ家畜所有者ハ抗告ヲ爲シ得ヘク、而カモ法定ノ理由ニヨリ保險金ノ支給ヲ拒ミ若ハ支給額ヲ削減スル場合ニハ管理委員會ニ又其ノ他ノ場合ニハ地區評價委員會ニ抗告スルコトヲ得ルナリ、地區評價委員會ハ其ノ行政區ノ獸醫(例ヘハ郡獸醫ノ如キ)一名、市町村ノ選出シタル其ノ行政區内ノ家畜所有者二名ヨリ成ルモノトス

家畜ノ平均市價ヲ基準トシテ査定シタル價額中ヨリ利用シ得ヘキ部分ヲ賣拂ヒテ得タル金額ヲ控除シタルモノヲ以テ損害程度ノ査定額トス、牛ニ付テハ「一〇キログラム」以下、豚ニ付テハ「六キログラム」以下ノ肉ノ部分ニ對シ其ノ筋ヨリ賣止メヲ命セラレタル爲ニ生スル損害ハ之ヲ賠償セス、牛ニ付テハ屠殺前最近九箇月間、豚ニ付テハ最近六箇月間又幼齡ノモノニアリテハ出生ノ日ヨリ孰モ連續シテ「サツクセン」邦内ニ在ラサリシ場合ニハ結核ニ罹サレタルノ故ヲ以テ肉ノ販賣方ヲ差止メラレタルトキモ亦保險金ヲ請求シ得サルモノトス、以上ノ規定ニ依リ査定セラレタル損害ノ八〇%ヲ屠殺當時、問題ノ家畜ヲ飼養セル者ニ對シ保險金トシテ給與ス、國庫ハ所要保險金ニ對シ其ノ拂渡サルヘキ額ノ四分ノ一ニ相當スル補助金ヲ交付ス、一九〇三年乃至一九一二年ノ十年間ニ於ケル該保險所ノ事業成績ハ左記統計ノ示スカ如シ

年次	被保險家畜ノ頭數			保險料收入	保險金ヲ交付セラレタル家畜ノ頭數			損害填補額	國庫補助金
	牛	牝牛	豚		牛	牝牛	豚		
一九〇三年	三三、一五七	一〇三、三三三	七、五九九	一、三六三、三三三	三、五	一一、〇九九	一、三九二	一、五七三、二九五	三、〇、六四八
一九〇四年	三三、四三二	一〇八、五七七	七、五四六	一、四〇八、〇三三	一、六四	一一、八五八	一、一五五	一、七三三、七四三	四、三、八三三
一九〇五年	二九、六六四	一〇三、九二四	六、四〇九	一、三三三、七三七	一、三三三	一一、三七七	一、一五八	一、九八五、八三三	四、九、八三〇

年次	被保險家畜ノ頭數			保險料收入	保險金ヲ交付セラレタル家畜ノ頭數			損害填補額	國庫補助金
	牛	牝牛	豚		牛	牝牛	豚		
一九〇六年	三三、七三九	一〇六、五九八	六、八四四	一、四〇一、八四四	一、三九九	一一、六七七	一、三六八	二、一六三、五三三	五、四〇、七三三
一九〇七年	三三、九八一	一〇八、〇六七	七、三二六	一、四〇一、七三三	一、四一五	一一、五六一	一、四九〇	二、三二八、六八一	五、七九、三八三
一九〇八年	三三、一七八	一〇六、一七九	七、一八〇	一、三六三、〇三三	一、五三六	一一、四四四	一、一〇〇	二、〇〇一、一三三	五、〇五、三三三
一九〇九年	三九、七七七	一一五、一七九	七、〇九八	一、四一三、〇三三	一、八七六	一一、三五八	一、〇九九	二、〇九九、一七八	五、三三、七九八
一九一〇年	三八、四四四	一一五、五七七	七、〇一五	一、四〇七、八三三	一、六六九	一一、一〇〇	一、一〇〇	二、二九五、六三三	五、七三、九〇八
一九一一年	三三、四六九	一一三、六六七	七、五五三	一、三三三、七三三	一、四九三	一一、一〇〇	一、一〇〇	二、四四四、三三三	六、一一、〇三〇
一九一二年	三三、三三三	一〇三、七三三	六、八三三	一、三三三、三三三	一、五〇〇	一一、一〇〇	一、一〇〇	二、六〇九、三三三	六、五、一三三

註 非營業的屠殺ニ對スル掛金ヲ控除ス但此ノ掛金ハ一九〇七年以來常ニ翌年ニ至リテ回收サレタリ

「シユワルツブルヒ、ゾンデルスハウゼン」公國ニテ一八九九年七月三十日附法律ヲ以テ設置シ一九〇〇年十月一日ヨリ實施スルニ至リタル官立「屠畜保險所」ハ「サツクセン」邦ノ官立保險所ト大ニ異ナルモノアリ、此保險所ノ主ナル目的ハ内地ノ家畜所有者ヲ保護スルコトニシテ保險加入義務ノ範圍ハ内地ニテ屠殺セラルル家畜ノミナラス、屠殺ノ目的ヲ以テ國外ヘ賣却シタル家畜ニ對シテモ及フモノトス「ゾンデルハウゼン」ノ制度ハ「ザクセン」ノ制度ト損害ノ全部ヲ填補スル保險ニ屬セサルコト竝ニ管理費ヲ政府カ總ヘテ負擔スル外ニハ保險金ニ對シ毎年補助金ノ下附ナキコト等ニ於テ異レリ當邦ノ保險ハ最初牛及豚ヲ取扱ヘルモ生後二週間ニ滿タサル犢並仔豚ハ之ヲ除外セラレ一九〇四年五月六日附ノ政正法ニ依リ犢ニ關スル保險加入義務ハ法文中ヨリ除カレタルヨリ今ヤ此ノ保險ヲ受クヘキモノハ單ニ生後三箇月以上ノ牛豚ノミニ限ラルコトトナリ、而カモ尠クモ九十日前ヨリ内地ニ在リ就中此ノ公國內ノ住民ニ飼養サレタルモノニ限レリ

牛豚ハ孰モ一頭毎ニ屠殺前若ハ屠殺ノ爲ニ賣却セラルル前其ノ價值又ハ賣買價值ヲ明示シ保險ヲ受クル目的ニテ市町村長ニ加入ヲ申告スルモノトシ保險加入ノ資格アルモノハ保險料ノ納入ト同時ニ保險證券ヲ交付セラル、保險料ノ額ハ牝牛、牝牛及豚ノ三種ニ分レ其ノ價額ニ應シテ等級ヲ附シ任意ノ期間ニ對スル分ヲ理事者ニ於テ一定シ公表スルナリ、此ノ保險所創立以來保險料ハ左ノ率ヲ上下セリ

- 一、牝牛 (價格三百馬克以内)……………四一五馬克
- 一、同 (價格三百馬克ヲ超ユルモノ)……………五一六馬克
- 一、牝牛 (價格三百馬克以内)……………五十七馬克
- 一、同 (價格三百馬克)……………六十八馬克
- 一、豚 (價格百馬克以内)……………三〇一〇、四〇馬克
- 一、同 (價格超百馬克)……………〇、四〇〇、六〇馬克

生肉検査ノ際屠殺家畜ニ對シ其ノ筋ヨリ販賣差止ノ命令アリタル場合ニハ損害ノ全額相當ノ保險金ヲ交付セラル但保險契約者ノ利用スヘキ一部ノ肉ニ對スル賣上代金ヲ控除スルモノトス、損害ハ「サツクセン」邦ニ於ケル制度ト同様ニ平均市價ヲ基準トスル單位率ニ依リテ之ヲ算出スルナリ、當局者ノ異議アル身體機關及一部ノ肉ニシテ其ノ價額五馬克未滿ノモノニハ保險金ヲ交付セス

一九〇三年ヨリ一九一二年ノ十年間ニ於ケル此ノ保險所ノ事業成績左ノ如シ

年次	被保險家畜頭數			保險料	保險金ヲ支拂ハレタル家畜ノ頭數			損害填補額
	牝牛	牝牛	豚		牝牛	牝牛	豚	
一九〇三年	五二二	二、七六一	四〇、〇六五	三三、八九〇	三二	二七〇	一一五	一六、七五四
一九〇四年	五七八	二、九三五	四三、六六七	三五、四七三	四四	三九四	一八七	二八、七五八
一九〇五年	六七一	三、〇二五	三八、二七六	四一、二〇七	五一	四五八	一八〇	三〇、六二五
一九〇六年	五六〇	二、九三八	三七、四〇七	四一、三一五	五五	五二一	一三八	二七、二〇二
一九〇七年	六二四	二、八三二	四〇、三七一	三八、七八一	四六	四一三	二〇七	二六、一七五
一九〇八年	六九二	二、八三九	四二、七三九	三七、六六〇	四七	四一一	二五六	二九、三六五
一九〇九年	六二〇	三、四五〇	三九、二二五	四一、七五五	五六	五一六	二一六	三一、五八八
一九一〇年	六二八	三、一四〇	四一、〇八九	四一、二九六	六六	五一八	二八五	三七、六〇一
一九一一年	五三九	三、〇八四	四〇、六六四	四二、八七二	五七	四〇八	二三五	三一、六〇九
一九一二年	五七八	二、七六一	三六、七八六	四〇、四〇六	四五	四五五	二五二	三三、一六六

「ロイス」新舊兩公國ニテハ一九〇三年三月十日附及一九〇三年三月十二日附ノ法律ヲ以テ官立屠畜保險所ヲ設置シタリ此ノ保險所ハ主義ノ上ニテハ全ク「ゾンデルハウゼン」ノ保險所ヲ模倣シタルモノナルカ生後三ヶ月以下ノ犢及仔豚モ亦保險加入義務アリトシタル點ハ彼此相違セリ、此ノ「ロイス」新舊兩公國ノ官立保險所ハ一九〇三年七月一日及一九〇三年四月一日ニ業務ヲ開始セリ、一九〇三年乃至一九一二年ノ十年間ニ於ケル其ノ事業成績左ノ如シ

一、舊「ロイス」公國官立屠畜保險所

年次	被保險家畜ノ頭數			保險料	保險金ヲ受ケタル家畜ノ頭數			損害填補額
	牝牛	牝牛	豚		牝牛	牝牛	豚	
一九〇三年	七二五	一、一〇八	二、二五七	一〇、〇八四	一六、二三四	一六	八〇	八、八二八
一九〇四年	一、一〇一	一、六七九	三、三一〇	一五、三九五	二四、八三三	二七	一四六	一五、四六九
一九〇五年	九八五	一、五四一	三、一三八	一一、五〇八	二一、五三九	二二	七	一五、〇八〇
一九〇六年	一、二三五	一、七九五	三、一七五	一二、八八四	二六、四八四	三六	八	一七、六六一
一九〇七年	一、一四二	一、六四三	三、三五八	一四、六五九	二五、三五六	二〇	一四	一七、六六一
一九〇八年	一、一七三	一、六二九	三、四〇〇	一四、七六八	二四、八一五	二一	二二	一六、六二一
一九〇九年	一、四一六	一、八九五	三、七五二	一四、一七七	二七、四三六	四〇	一五	一四、二九七
一九一〇年	一、二三五	一、九二〇	三、三九一	一四、〇九六	二五、八四五	七一	二六	二〇、〇五三
一九一一年	一、二四六	一、八二七	三、二二八	一三、五六〇	二六、三八三	六八	二八	二五、七九一
一九一二年	一、六三三	二、二三七	三、九二〇	一六、四一二	三三、八一二	七七	三九	三四、八二一

註 事業年度ヲ四月一日ヨリ三月三十一日迄ト變更シタル爲メ千九百十二年一月一日ヨリ千九百十三年三月三十一日迄トナレリ

一、新「ロイス」公國官立屠畜保險所

年次	被保險家畜ノ頭數			保險料	保險金ヲ受ケタル家畜ノ頭數			損害填補額
	牝牛	牝牛	豚		牝牛	牝牛	豚	
一九〇三年	八四四	一、九六五	二、六九五	一九、一三三	二八、〇一二	一七	一八	一一、九四八
一九〇四年	一、三六七	三、七九六	五、一五九	三七、三三六	五〇、九三六	三一	二六	二八、三三一
一九〇五年	一、三六八	三、二二〇	四、六五八	二七、七〇九	四一、二三三	四三	三〇	二二、五六五
一九〇六年	二、〇四三	四、三一七	五、四九三	三二、二七四	三九、六二五	五四	二一	二五、四〇五
一九〇七年	二、〇二〇	三、八六四	五、七八六	三六、一五四	二七、四一五	五〇	二七	二六、六七〇
一九〇八年	二、一一八	三、九七〇	五、九一四	三七、〇五三	二四、六二〇	五六	三六	二三、九三二
一九〇九年	二、五四六	四、五九八	六、六五八	三五、七四六	二六、一〇五	五四	二七	二四、四五〇
一九一〇年	二、二六四	四、三七三	六、〇二五	三四、六九四	二四、八〇〇	七〇	四一	二四、四二六
一九一一年	二、二四九	四、四一七	五、七一一	三三、三〇一	二四、六二〇	六六	四二	三一、二四八
一九一二年	二、一五一	四、〇四六	五、五四一	三〇、八三九	二三、〇二七	四一	五九	三〇、八三〇

### 第三節 屠畜保險ノ法律上ノ基礎

保險契約法第一一六條ノ文意ニ徴スレハ「屠畜保險」ハ同法ノ意義ニ於ケル家畜保險トハ認メラレス從テ第一一六條ハ「屠畜保險」ニ適用セラレサルナリ、保險契約法ハ又「屠畜保險」ニ關スル特別規定ヲ含マサルヲ以テ屠畜保險ノ法律上ノ基礎ハ一般保險及特ニ財產保險ニ適用セラルル保險契約法ノ條規並ニ當該事業ノ一般保險約款ニ淵源ス

#### 第一 屠畜保險ノ目的及損害填補方法

屠畜保險ノ目的即客體ハ屠殺セラレタル家畜ニ對スル其ノ筋ノ異議ニ因リテ發生スル損害ナリ、但家畜ノ肉體ノ全部若ハ一



部カ人ノ食用ニ堪ヘサル場合モ條件附ニテ堪ユル場合モ或ハ價值尠キモノト申渡サル場合モ皆同一ニ看做サレ其間何等ノ差別ナキモノトス、而シテ如何ナル形式ヲ以テ人ノ食用ニ供スルニシテモ肉ヲ公然賣買シ難キ場合ニハ之ヲ指シテ其肉ハ人ノ食用ニ堪ヘスト云ヒ又一定ノ加工ヲ施セハ(煮沸鹽漬冷凍)食用ニ堪ユル場合ニハ之ヲ指シテ條件附ニ堪ユルト云ヒ肉ハ食用ニ堪ユルモ其ノ榮養價及嗜好價ノ甚シク減退シタル場合ニハ之ヲ指シテ價值尠シト云フ

檢肉上ノ異議ニ因リテ生スル損害ハ屠殺セラレタル家畜ノ體內ニ潜在スル一定ノ缺陷ニ之ヲ歸納スヘク、屠殺ノ目的ニテ家畜ヲ賣却シタルニ非ルトキハ此ノ損害ハ全然飼養者ノ負擔ニ歸ス、之レ固ヨリ自明ノ理ニシテ此ノ理ハ自家屠殺ノ場合ヲ考フレハ疑ヲ容レサル所ナリ、然レトモ殆ト總テノ營業的屠殺ノ場合ニ賭ル如ク屠殺ノ目的ヲ以テ家畜ヲ購買シタルトキ肉ノ販賣上ニ對スル當局者ノ故障ニ基クル損害ヲ負擔スヘキ者ノ誰ナルカハ民法第四八二條ノ規定及一八九九年三月二十七日附獨國勅令ノ定ムル所ニ依ル

此法規ニ依レハ家畜ヲ賣却スル者ハ一定ノ缺陷(主ナル瑕疵)ノミヲ負擔スヘク而カモ一定期間内(保障期間)ニ現ハルル場合ニ限り其ノ責任スヘキモノトス、即時屠殺セラレヘク且人ノ食用ト定メラレタル家畜(屠殺用家畜)ヲ賣却スル場合ニハ左記各號ノ缺陷ヲ指シテ主ナル瑕疵ト看做ス而カモ孰モ皆十四日ノ保障期間内ニ限ララルナリ

- 一、馬、驢(但牡馬ト牝驢ノ雜種) 驢(但牡驢ト牝馬ノ雜種) ニアリテハ鼻疽(馬ノ淋巴腺ニ於ケル皮疽)
- 二、牛ニアリテハ結核病但之カ爲メ體量ノ半ハ以上若ハ或制限ヲ附スルモ肉ノ一部分カ人ノ食用ニ適セサルトキ
- 三、羊ニアリテハ一般水腫換言スレハ内疾患ニ因リ又ハ榮養不足ニ因リ肉ノ水腫病的症狀ヲ呈スルトキ
- 四、豚ニアリテハ第二號ニ掲ケタル制限ヲ附セル結核病、竝ニ旋毛蟲及包蟲症

以上述ヘタル規定ニ依レハ隱レタル瑕疵ニ對スル責任ヲ屠畜者ノ賣主ガ負擔スルハ僅ニ一部分ニ過キサレト買主ハ其ノ他ノ部分ヲ悉ク負擔セサルヘカラサルナリ、故ニ屠畜者ノ賣主カ所謂瑕疵保障保險ヲ契約シ得ル施設ヲ爲セル屠畜保險業者尠カラス、此ノ瑕疵保障保險ニ依レハ賣主ハ其責任タル瑕疵ニ對スル損害ノ填補ヲ受クルモ肉屋同志ノ組織セル多クノ組合ハ唯其ノ組合員ノ責任ニ屬スル缺陷ニ關シテノミ損害ノ填補ヲ爲スニ過キス、而シテ屠畜取引ノ圓滑ヲ圖ル爲ニ範圍ノ廣汎ナル完全保險ヲ要求シ且之ヲ實現スルヲ原則トス

此ノ保險ハ屠殺前診察ノ際ニ既ニ病畜ト認メラルル家畜ヲ取扱ハス又傳染病ニ歸スヘキ損害モ或程度マテハ填補セス即保險契約者カ法規ノ定ムル所ニ依リ國庫ニ對シ賠償ヲ求メ得ルトキ又ハ防疫警察上ノ規定ヲ犯シテ失効スルカ如キコト無キ限りハ賠償請求ヲ爲シ得ヘキトキハ填補ヲナサス、割増保險料ヲ支拂フ時ハ屠殺前、例ヘハ屠場ヘ輸送中又ハ畜舎ニ收容中、傷病ニ因リ受クル損失ニ對シテモ此ノ保險ノ恩惠ニ浴シ得ヘシ、尙一步進シテ如何ナル種類ノ家畜ヲ此ノ保險ニ附シ得ルカノ問題ハ一般保險約款ニ定ムルニ依リ自ラ解決セラレヘシ

保險契約者ハ保險ヲ利用シテ不當ノ利益ヲ得ル能ハス、故ニ屠殺ノ目的ヲ以テ賣却セラレタル家畜ナラハ賣値ニ依リ、又屠殺者カ自ラ得タル家畜ナラハ其ノ實價ヲ標準トシテ損害填補ノ最高限ヲ定ムヘキナリ、家畜生命保險ニ行ハルル慣例ト異ナリ民營ノ屠畜保險業者ハ損害額ノ全部ヲ填補スルヲ常トス、屠畜保險ニテ損害ノ全部ヲ填補スルハ合理的ノ措置ナリ、其ノ理由ハ此ノ場合ニ保險契約者ハ極メテ少數ノ例外ヲ除キ孰モ(一)保險事件ノ發生(二)損害ノ發生(三)保險金ノ範圍ニ對シ没交渉ノ立場ニ在ルヲ以テナリ

第二 屠畜保險契約ノ本質

此ノ保險ニ於テハ保險契約ハ二様ニ行ハル、第一ハ各家畜一頭毎ニ一々契約ヲ結フ方式ニシテ之ヲ單獨保險ト云ヒ第二ハ特  
 定數ノ屠畜ヲ保險スルカ又ハ一定期間内ニ保險契約者ノ屠殺セル若ハ屠殺ノ目的ニテ保險契約者ノ賣却シタル家畜ニシテ所  
 定ノ種類ニ屬スルモノヲ保險スル方式ニシテ之ヲ團體保險ト云フ單獨保險ハ保險契約者カ家畜屠殺前其ノ家畜ノ價值又ハ買  
 入値段ヲ明示シ保險申込書ヲ提出シ且合意上ノ保險料ヲ拂込ミ保險證券ヲ領收シテ成立ス  
 團體保險ニハ契約ニ二種、即契約締結ヲ意味スル豫約ト眞ノ保險契約トアリ、豫約ハ契約期間内ニ於テ明細ニ示セル多數ノ  
 單獨契約ヲ一定ノ條件ノ下ニ取結ハントスル契約當事者ノ交互的義務ノミヲ内容トシ眞ノ保險契約ハ屠殺セラレタル若ハ屠  
 殺スル爲ニ賣却シタル個々ノ家畜ヲ保險スルモノナリ

何レノ方式ニ屬スル保險契約ニシテモ同一種類ノ屠畜ニシテ同一日ニ屠殺セララルモノハ總ヘテ保險ニ附スル爲ニ之ヲ申告  
 スヘク、同一ノ危險ニ關シ他方面ニテ既ニ保險ニ附シタル家畜ナラハ之レ亦同様ニ申告セサルヘカラス、然レトモ前ノ保險  
 カ尙有効期間内ニ在ル限リハ重複シテ保險ニ附スルコトヲ得ス、保險期間ハ保險料ノ拂込ト同時ニ進行ヲ開始シ其ノ筋ノ檢  
 肉ニ依リ被保險家畜ヲ抛棄スルト同時ニ消滅ス即遲クトモ保險ノ有効期ニ入りテヨリ二週間ノ期間滿了後ニ消滅スルナリ、  
 保險ノ開始ハ往々耳ニ記號ヲ附シ若ハ烙印ヲ爲シテ被保險家畜ニ特徴ヲ附スルコトト關聯スル場合モアリ  
 團體保險ノ場合ニ於テ保險契約者ハ保險申込ノ希望カ達セララルレハ保險證券ヲ交付セララル、保險證券ハ多クノ場合屠殺セラ  
 ルル家畜又ハ屠殺スル爲ニ賣却シタル家畜ヲ記入スル用紙ヲ添附シテ、被保險者ハ屠殺前又ハ賣渡前ニ該用紙ハ毎回記入  
 シ場合ニ依リテハ特徴モ書キ入レ尙相當ノ申告ヲ保險者又ハ保險代理人ニ爲スヘク保險者ハ此ノ申告ヲ受ケタルトキハ直チ  
 ニ申告ニ接シタルコトノ證明書ヲ交付スルモノトス此ノ申告ハ本來ノ保險申込ニ外ナラス之ニ對スル證明書ハ本來ノ保險證

券ニ外ナラス、屠殺セララルル家畜又ハ屠殺スル爲ニ賣却シタル家畜ヲ當該用紙ニ記入セス又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ保險加入  
 ヲ免カルルトキハ保險業者ハ此ノ放漫ニ對スル制裁トシテ一件毎ニ契約過怠金ヲ請求スル權利アリ、過怠金ノ額ハ個々ノ家  
 畜種類毎ニ差別アリ大家畜ナラハ概シテ一頭三十馬克、小家畜ナラハ一頭十馬克ヲ通常トス、家畜ノ記入ヲ強要セサル保險業  
 者モ亦無キニアラス、彼等ハ唯屠殺セララルル家畜又ハ屠殺スル爲ニ賣却シタル家畜ヲ一頭毎ニ保險ニ附スル目的ヲ以テ申告  
 スヘキ義務ヲ保險契約者ニ負ハシムルノミニシテ敢テ過怠金ヲ徵收スル制度ヲ採ラサルナリ、單獨保險ニアリテモ又團體保  
 險ニアリテモ、保險契約者ハ危險ヲ保險者カ引受クルニ就テ重大ナル而カモ保險契約者ノ知レル一切ノ事情ヲ報告スルヲ要  
 ス、若シ此報告ヲ爲サス若ハ不實ノ申告ヲ爲シタルトキハ保險者ハ保險契約者ノ不都合ナル態度ヲ知りタル日ヨリ一ヶ月以  
 内ニ限り解約權ヲ有スルモノトス、但報告スヘキ事情又ハ誤レル事實ヲ保險者カ知りタルトキ又ハ保險契約者ノ過失ナクシ  
 テ申告ヲ怠リ若ハ不當ノ申告ヲ爲シタルトキハ解約權ナシ

保險業者カ相互主義ニ立脚スル家畜生命保險會社タル場合ニハ團體的屠畜保險ニ關スル契約ヲ締結スルニ當リ其ノ契約期間  
 ヲ一ヶ年以上ニ及ホスコトヲ得ス、此ノ期間滿了前一ヶ月以内ニ書面ニテ契約延期ヲ爲ササルトキハ當然從來ノ保險契約期  
 間タケ延長スルモノト看做サレ其ノ期間ノ最大ハ向フ一ヶ年トセラレ

第三 保險費用ノ徵收

保險費用ノ財源トナルモノハ相互主義ニ立脚セル屠畜保險ノミヲ營ム保險者ニ於テハ追納金ヲ徵收スル場合モアルヘシトノ  
 條件付ノ前納保險料ニシテ其ノ他ノ保險業就中相互主義ノ家畜生命保險會社ニアリテハ一定保險料ナリ、抑々保險料ノ拂込  
 期ハ保險關係ノ開始ト同時ニ到達シ保險證券ノ交付ト引替ニ支拂フヘキモノナリ、團體保險ニアリテハ保險料ノ「拂込延期」

及「保險料支拂ニ關スル後日ノ通算」ハ屢々行ハレ易ク、且保險者ハ隨時通知書ヲ發シ保險料ヲ引上クルコトヲ得ヘク、保險契約者カ此ノ引上ニ應セサルトキハ通知書接受ノ日ヨリ一週間以内ニ書面ヲ以テ解約通知ヲ發スルコトヲ得ヘシ、而シテ此ノ通知ハ即時効力ヲ生スルモノトシ、此期間内ニ通知ヲ發セサルトキハ保險料ヲ引上ケタルママ契約ハ依然存続スルモノト看做サル、保險料ノ支拂ハ保險契約者ニ於テ其ノ任ニ當ル、然レトモ購買者タル肉屋若ハ家畜商人ハ其ノ納入スヘキ屠畜者保險料ヲ買入値段ヨリ控除スルコト從テ此ノ方法ニ依リ畜産者ニ此ノ負擔ヲ轉嫁スルコトヲ原則トシテ試ムヘキヲ以テ保險契約者カ保險料ノ負擔者タラサル場合モ尠シトセス、而シテ屠畜者ノ賣主ハ唯隠レタル瑕疵ニ對シテノミ責任アルヲ考慮セラレコノ方法ハ農界ノ諸團體ヨリ屢々不合理トシテ排斥セラレタリ、農界ニテハ屠畜保險上ノ諸費ヲ適當ニ分配シタシトノ希望アリ、固ヨリ正當ノ希望タルコトハ疑ヲ容レザレトモ此ノ點ニ付最後ノ斷案ヲ下シ得ルモノハ經濟上ノ實力ニ外ナラサルヲ以テ法律上又ハ官憲側ノ施設、對策ニ依リ現狀ヲ打破スルコトハ容易ノ業ニアラス、例ヘハ農業者甲屠畜者取引ニ於テ供給寡少需要多大ノ情勢ニアルトキハ經濟上ノ強者タルヘク、家畜商人又ハ肉屋ノ保險料轉嫁策ヲ妨害シ得ヘケンモ、然ラサル時ハ善惡ニ拘ハラス或形式ニ依ルヘキ保險料控除ニ盲從セサルヲ得サルヘシ

農業者ハ概シテ屠畜者保險料ノ負擔者ニ外ナラストノ見地ヨリシテ從來屢々特ニ肉小賣商組合ヲ以テ組織シタル屠畜者保險業（但其ノ大部分ハ營利ヲ目的トスルモノ）者ノ定ムル頗ル高率ナル保險料ニ對シ監督官廳ハ須ラク取締ルヘシトノ希望ヲ耳ニシタルコトアリ、然レトモ監督官廳ハ保險契約者即此ノ場合ニ於テハ肉屋カ他日追納金ヲ徵スルニ至ル惧アル程ノ低率ニ失スル保險料ヲ定ムルヨリハ初メヨリ充分多ク見積リタル保險料ヲ定ムルヲ適ニ得策ナリト信スヘク此ノ見解ハ結局肉屋ヲ利スルニ至ルヘキヲ以テ監督官廳ノ取締ハ尙適當ナル措置ニアラス

第四 保險事故ト其ノ法律上ノ効果

一九〇〇年六月三日附獨逸國法律「屠畜及其ノ肉ノ検査ニ關スル件」及之ニ伴ヒ制定セラレタル各聯邦ノ施行細則ニ依リ被保險家畜ヲ全部又ハ一部拒ムカ如キ場合ニ際會スレハ爰ニ屠畜保險ニ於ケル保險事故ハ發生スルナリ、保險契約者ハ保險者又ハ其ノ指定代理人ニ保險事故ノ發生ヲ報告シ且其ノ身体又ハ肉ノ瑕疵ノ種類及範圍ニ關シ官廳ノ任命シタル検肉官ノ作成セル證明書ヲ添ヘ之ニ依リ當該家畜ハ保險ニ附シタル家畜ニ相違ナキ旨ノ證明ヲ爲スヲ要ス、保險者ノ代理人カ其ノ家畜ヲ檢閱スル迄ハ如上ノ事實ノ確認ヲ困難ナラシムヘキ諸般ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス、檢閱了リ保險者自身カ廢肉ノ利用ヲ爲ササル場合ニハ保險契約者ハ其ノ故障アル部分ノ肉ノ利用ニ極力努メ且賣上代金ノ額ヲ相當證據書類ニ依リ證明セサルヘカラス、當局ノ宣明セル異議ノ爲ニ生シタル損害額ハ利用ニ基ケル賣上代金ヲ保險金即損害填補額中ヨリ控除シテ之ヲ査定ス、此ノ填補額即賠償額ト認ムヘキモノニニアリ一ハ保險契約高即飼養者自身ノ所有セル家畜ニアリテハ申込書ニ計上セル價格、買取リタル家畜ニアリテハ買入價格、他ハ屠殺斤量及其土地ニ於ケル市價ヲ標準トシテ算出シタル價格ナリ、而シテ其筋ノ異議ヲ受クルニ至リタル部分ノ生肉ニ對スル賠償額ハ概ネ斤量ト市價ニ從ヒ、一定率ニ依リテ査定セラル、但局部若ハ一部ノ肉ノ賠償問題ニ付斤量カ餘リニ少キ爲メ殆ト保險金ト目シ難キ場合ニ於テハ固ヨリ之ヲ除外例トシテ取扱フヘキモノトス

左記各號ノ一二該當スルトキハ保險業者ハ保險金給付ノ義務ナシ

- 一、屠殺前ニ保險料ヲ拂込マサリシトキ但別段ノ規定アル場合（例ヘハ延期）ハ此限ニアラス
- 二、保險契約者カ其日ニ屠殺シタル若ハ屠殺ノ目的ニテ賣却シタル當該種屬ノ家畜ヲ悉皆保險ニ附セサリシトキ但此ノ規

定ヲ犯スニ至リタルコトカ保險契約者ノ責ニ歸スヘカラサル場合ハ此ノ限ニアラス

三、保險契約者カ損害申告ヲ爲ササリシトキ適當ノ時期迄ニ申告セサリシトキ、損害査定ノ際ニ不實ノ申告ヲ爲シタルトキ又ハ檢肉ノ際ニ的確ナル判斷ヲ下タスコトヲ妨害シタル行動ニ出テタルトキ但故意又ハ重大ナル過失ナクシテ前掲諸規定ニ違背シタル場合ハ此限ニアラス

保險業者側ニテ保險金ノ給付ヲ拒絶セントセハ文書ニ依ラサルヘカラス、保險者ハ此場合保險契約者カ決定書送達ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ裁判所ヘ出訴セサルトキハ給付義務ヲ免カル、此出訴期間ハ決定書ニ明示サレ且其進行ニ伴フヘキ法定ノ効果ヲ豫告シタリシトキニ初メテ其ノ進行ヲ開始スルモノトス

#### 第五 屠畜保險契約ニ及ホス占有異動ノ影響

屠畜保險ト家畜生命保險トニ於テハ占有ノ異動カ保險契約上ニ及ホス影響ニ大ナル差異アリ、保險契約法第一一六條ノ規定ハ屠畜保險ニ適用セラレサル爲家畜保險専用ノ規定タル同第一二八條第一項ノ條文モ又適用セラレス、此規定ニ依レハ被保險家畜ヲ讓渡シタル場合ニハ此家畜ニ關スル保險ハ消滅スルモ屠畜保險ニ於テ占有者ノ異動ノルトキハ寧ろ損害保險ニ對スル一般規定タル保險契約法第六九條ノ規定ヲ適用スヘク、從テ保險ニ附シタル家畜ヲ讓渡シタル場合ニハ保險ハ讓受人ニ移ルコトトナル

屠畜保險契約ノ大多數ハ保險關係開始後二週間ヲ以テ滿期トスル短期ナルコトヲ顧慮セハ保險契約法第七十條ノ解約豫告期間カ實際ニ於テ何ノ意義モナキコトハ大ニ注意ヲ拂フヘキコトナリ、蓋シ第七十條第一項ノ規定ニ依レハ保險者ハ保險關係ヲ解除スル爲ニ一ヶ月ノ期間ヲ附シ讓受人ニ解約ノ豫告ヲ爲シ得ヘシト雖、屠殺保險ニアリテハ契約期間ノ滿了ニ依ルト被

保險家畜ノ屠殺ニ因ルトヲ問ハス保險ハ此ノ期間内ニ當然消滅スヘキヲ常トシ、又第七十條第二項ニハ保險ニ附シタル家畜ノ讓受人モ亦即時効果ヲ發スル解約通知ヲ爲シ得トアレトモ屠畜保險ニテハ此讓受人ハ讓受ケタル家畜ニ對スル保險料ヲ最早拂込ムノ必要ナキニヨリ保險ノ解約通知ニ就テハ概ネ痛痒ヲ感セサルナリ

故ニ屠畜保險ニアリテハ占有異動ノ場合ニハ保險カ當然移動スルコトヲ原則トスヘク、保險者モ讓受人モ解約通知權ヲ行使セス、多クノ保險者中ニハ保險契約法第七一條第一項ニ依リ讓渡人若ハ讓受人ノ爲スヘキ讓渡申告スラ無用ナリトシテ拋棄シ保險ハ被保險家畜及記號ヲ附セラレタル家畜ヲ賣渡スト同時ニ保險業者ノ同意ヲ要セスニ當然買主ニ移ルモノナリト定メタル者アリ、又保險ニ附シタル家畜ヲ屠殺以外ノ目的ニテ他ニ讓渡スルトキハ保險ハ家畜ノ讓渡ト同時ニ消滅スト規定スル保險者モ頗ル多シ

### 第四節 屠畜保險ニ關スル技術上ノ原則

家畜生命保險ニアリテハ保險契約ニ關スル統計調査ノ基礎カ皆無ナルコトアリ若ハ不備缺陷多キヲ免カレサルモ屠畜保險ニアリテハ經營ニ關スル技術ノ原則ヲ集成スルニ就テ充分ナル標準アリ、即獨逸ニ強制檢肉制度ヲ設ケタル以來毎年檢肉ヲ受ケタルモノ家畜種類毎ニ何頭アリヤ又檢肉ノ結果其ノ家畜ノ全身若ハ一部分ニシテ食用ニ堪ヘサルモノ條件附ニテ食用ニ堪ユルモノ、又ハ少額價値アルニ過キササルモノ果シテ幾何ナリヤノ統計ヲ作成シツツアリ、又屠場制及切實制ノ嚴々タル發達ニ伴ヒ異議ヲ受ケタル家畜及其ノ一部ノ肉ノ利用程度ニ關スル統計モ亦調査セラレツツアリ

獨逸衛生局ノ發表ニ依レハ屠殺後檢査ヲ經タル家畜ノ頭數並ニ異議ヲ受ケタル家畜ノ量及其ノ一部分ノ量ハ一九一一年ニ於

テ左ノ如キ數字ヲ示セリ

種別	屠殺後検査チ		異議チ受ケタル		屠殺セラレタル		屠殺セラレタル		屠殺セラレタル均ニ對スル異議チ受ケタル家畜ノ頭數
	經タル家畜	食用ニ堪ヘス	屠殺セラレタル家畜ノ百分率	條件付ニテ食用ニ堪ユルモ	屠殺セラレタル家畜ノ百分率	價値ノ低キモノ	屠殺セラレタル家畜ノ百分率		
牝牛	五六一、〇四九	一、五八六	〇、二八	二、一七九	〇、三九	六、五五一	一、一七	一、八四	
種牛	四二六、〇一九	七〇四	〇、一六	一、六二四	〇、三八	二、八三四	〇、六七	一、二一	
牝牛	一、七七七、〇〇〇	二七、九七〇	一、五七	八、五一四	〇、四八	七、七八二	四、〇四	六、〇九	
牝牛	九八三、六〇〇	四、一七七	〇、四三	二、五九九	〇、二六	一〇、五六〇	一、〇七	一、七六	
計	三、七四七、六六八	三三、四三七	〇、九二	一四、九一六	〇、四〇	九一、七二七	二、四五	三、七七	
生後三ヶ月未滿	四、五九六、一六三	一一、八四三	〇、二六	一、三六二	〇、〇三	二一、〇七四	〇、四六	〇、七五	
生後三ヶ月未滿	一八、六一六、四三四	一八、二九一	〇、一〇	四三、九一二	〇、二四	五九、八一	〇、三二	〇、六六	
計	二二、二四〇、四五二	二、二七九	〇、一〇	七	一	五、四三四	〇、二五	〇、三五	
山羊	四九六、七九〇	一、〇七〇	〇、二二	二六	一	一、九八七	〇、四〇	〇、六二	

異議ヲ唱ヘラルル率ノ最高キ家畜ハ此ノ表ノ示ス如ク牛ナリ牛ノ中ニモ率ニ高低アリ、食用肉トシテ牛肉中一般市場ニ最も多ク歡迎セララルルハ牝牛ノ肉ナレハ牝牛ハ牝牛及犏牛ニ比シ異議ヲ唱ヘラルル危険率多シ、之レ畢竟異議ノ主因タル結核ハ牝牛ニ最も多ケレハナリ

結核アルカ爲ニ異議ヲ唱ヘラレタル牛ノ狀況ハ左ニ示ス如シ、但肉ハ通算シテ一頭分ニ換算シタルモノニシテ時代ハ前表ニ

同シ

種別	食用ニ堪ヘサルモノ		屠殺ニ付テ食用ニ堪ユルモノ		屠殺ニ付キモ		屠殺ニ付チ受ケタルモノ	
	頭數	價額ノ低キモノ	頭數	價額ノ低キモノ	頭數	價額ノ低キモノ	頭數	價額ノ低キモノ
牝牛	三三〇	〇、五八	一、三三六	二、八七四	五、一二	八、〇八	二七、一三	六、〇三
種牛	一七五	〇、四一	七二一	一、〇九六	二、五七	四、六七	四、六七	四、六七
牝牛	八、一四九	四、五九	七、二五五	四、〇八	三、二、七九六	一八、四六	二七、一三	二七、一三
牝牛	一、二〇四	一、二三	一、二一五	一、二四	三、五〇六	三、五六	六、〇三	六、〇三

屠畜保險業ノ保険料率ハ本表ノ示ス如キ各種別家畜ノ異議ヲ受クル危険率ノ反映ナリ、保険料ハ屠畜保險ニテハ概テ家畜ノ頭數ヲ基準トシテ往々價格又ハ斤量ニ依リテ等級別ヲ設クルコトアリ、料率ノ額ハ保險業者毎ニ差別ヲ生スルハ論ヲ待タス、肉屋組合ニテ組織セル地方的ノ屠畜保險組合ニテハ成丈健康ナル家畜ヲ屠殺スルヲ利益トスルモ又他面監督ヲ爲スコト寛ナル其他ノ保險業者モアリ前者ノミヲ統計スル場合ト後者モ加フル場合トニ依リテ觀察上ノ基礎ニ相違アルハ論ヲ待タス、要スルニ保険料ノ額ハ一頭ニ付左ノ中間ニ在リト認ム(單位、馬克)

- 一、牝牛 三一六
- 一、牝牛 五一二二
- 一、犏牛 〇、五〇一一
- 一、豚 〇、五〇一一

屠畜保險ノ特徴ハ保險ニ附シタル家畜ニ標號ヲ附スルコトナリ、屠畜ノ取引ハ其ノ範圍頗ル廣ク同種類ノ家畜ハ外部ヨリ觀テ其ノ區別ノ標準明瞭ヲ缺クモノアリ異議ヲ唱ヘラレタル場合眞正ノモノタルコトヲ證明スルニ頗ル容易ナラサルモノアル爲特ニ一種ノ標號ヲ附スルコトハ保險契約者ニモ保險者ニモ有利ナル事項ナリ、標號ヲ附スル方法ニ特ニ之カ爲ニ作ラレタル鉗子ヲ用ヒテ耳ニ記號ヲ附スル方法、烙印若ハ打込印ヲ使用スル方法等アリ

耳輪ニハ押釦式ノ裝置ヲ加ヘタレハ一旦之ヲ耳ニ附シタル以上耳輪ヲ日立ツ程ニ破壊スルカ若ハ耳ヲ傷クルニ非レハ之ヲ除去シ難ク耳輪ノ兩部ニハ記號ト番號トアリ、此ノ標記ハ保險原簿ニ其ノ家畜ヲ登録スルニ必要ナルモノニシテ且一面眞正ノモノタルコトヲ確認スルニ便多シ

保險金ヲ査定シ算出スル場合ニモ屠畜保險ト家畜生命保險トハ同一ニ論スヘカラス、前者ニ於テ保險契約者ヲシテ或程度マテ損害ヲ顧慮セシムルハ其ノ家畜ヲ周到ニ愛撫保育シ損害ヲ未然ニ防遏セシムル所以ナルヲ以テ固ヨリ正當ナリト雖此ノ理由ハ後者ニ援用シ難シ、蓋シ虐待スレハ局部ニ鬱血ヲ現ハシ又特種ノ藥劑ヲ内服セシムレハ肉ニ惡臭ヲ生スヘキ結果肉檢査ノ際異議ヲ唱ヘラレルヲ通常トスルヲ以テ此ノ場合ハ姑ラク論外トスルモ要スルニ保險契約者ハ保險事故ノ發生ニ毫モ關係セサル爲保險契約者ニ對シ唯其損害ノ一部ノミヲ賠償スルモノトセハ甚タ不合理タルヲ免カレサルナリ、此ノ理由ニヨリ總ヘテノ民營屠畜保險業者及官營保險所(但「サツクセン」邦立保險所ヲ除ク)ハ損害ノ全部ヲ填補スル制度ヲ採ル、唯一ノ例外タル「サツクセン」ニテモ全部補填ヲ爲スノ必要ヲ認メツツアルコトハ疑ヲ容レズ、公共團體並個人經營ノ屠畜保險者ノ兼營タル所謂追加保險ヲ利用スルモノ頗ル多キハ之カ歴然タル證據ナリ、而シテ追加保險ハ損害ノ二割ハ政府ニ於テ之ヲ賠償

セサル爲此ノ二割ヲ填補スル目的ヲ以テ生シタルモノトス

異議ヲ蒙リタル肉ヲ適當ニ利用スルコトカ差支ナク且充分ニ爲シ得ヘキナラハ肉檢査ノ結果當局者ヨリ異議ヲ唱ヘラレタル家畜又ハ其ノ肉ノ部分ニ付蒙リタル損害ヲ著シク減退シ得ヘシ、故ニ條件附ニテ食用ニ堪ユヘシト宣明セラレタル肉ヲ煮沸シ又ハ鹽漬ニスル設備、主ニ牛肉中ニ潜メル原蟲ヲ死滅セシムル爲ノ冷凍室又ハ食用ニコソ堪ユレ價値ノ減退セル肉ヲ利用スル爲ノ小賣場等ヲ各屠場ニ作ルコトニ努力セシムルハアラス、這般施設ヲ全然缺如スルカ若ハ有リトスルモ充分ナラザルトキハ故障付ノ肉ハ屢々廢棄セラレルコトトナリ、爲ニ屠畜保險ノ保險料ヲ徒ラニ昂騰セシムルノミナラス、併セテ又一般屠用額中ヨリ夫レタケノ肉ヲ除ク事トナリ、低廉ナル國民榮養ヲ期セントスルノ目的ニ背馳スル結果トナルヘシ、此點ニ於テ特ニ意義アルモノハ小賣場ナリ、小賣場ハ檢肉強制制度ノ實施ト同時ニ各市町村へ屠場強制ヲ命シ之ニ伴ヒテ設ケラレタルモノナルカ未タ尙所要數ニ満たサルナリ、故障付ノ肉ヲ適當ニ利用シ易クシ以テ當事者ヲシテ官憲側ヨリ蒙リタル異議ニ基ケル損害ヲ痛感セシメサラントスル屠畜保險ノ目的ニ益々接近スル如キ施設ヲ農村ニ爲スコトハ吾人ノ切ニ希望スル所ナリ、

## 第五章 外國ニ於ケル家畜保險

### 第一節 奧太利洪牙利ニ於ケル家畜保險

奧洪國ニテハ一定ノ家畜傳染病ニ基ケル損害ニ對シ公金ヲ以テ賠償金ヲ交付ス、此ノ賠償金査定標準トナルモノハ一八八〇年二月二十九日附及一八九二年八月十七日附法律ニシテ此ノ法律ハ同國一般ニ施行セラレタリ、二三ノ直轄領ニ予ハ今尙特別規定ノ存スルアリ例ヘハ「チロール」フオーラールベルヒ」ノ如キハ一八九五年六月三十日附法律「鼻疽ニ關スル損害填

補ノ件」ヲ設ケテ今尙之ヲ施行シツツアリ

眞正ノ家畜生命保險ハ埃洪國ニテハ獨逸ニ於ケル程ノ發達ヲ睹ルニ至ラス、之レ蓋シ獨逸ノ會社ノ如キ比較的大ナル家畜保險會社カ埃太利ニ絶無ナルト又洪牙利ニハ營業範圍ノ比較的大ナル家畜保險會社カ唯一アルノミニ過キサレハナリ、埃太利ノ家畜保險界ハ獨逸ト全然異ナレル發展ノ經路ヲ取レリ、即埃太利ニテハ國家及公共團體カ旺シニ家畜保險ヲ獎勵シタルコトカ此ノ差異ヲ生シタル主因ニシテ同國ノ九邦中六邦以上ニ於テ獨逸ノ一邦「バイエルン」ノ官立保險所ヲ模倣シタル邦立家畜保險所ヲ設ケ現ニ牛馬ノ保險ヲ營ミツツアリ

此等邦立保險所ハ孰モ獨占的保險所ニ非ス又保險強制モ行ハス、皆相互主義ニ立脚セル地方組合聯合會ニシテ、毎年國庫ヨリ若干ノ補助ヲ受ク、其ノ額ハ各地毎ニ同シカラス邦立保險所ノ外ニ尙任意主義ノ地方組合アリ其數ハ總計二百ニ達スヘシ、一八九八年ニ「低地埃國家畜保險所」設立セラレタルカ之レ同國ニ於ケル最初ノ官立保險所ニシテ此ノ施設ハ後年増設サレタル官立保險所ノ模範トナレリ、此ノ保險所ハ最初唯牛ノミヲ保險セルカ創立ノ翌年馬ノ保險モ開始シ之ニ關スル一部ヲ増設シタリ、牛ノ保險部ニ加入スル者ハ結合シテ所謂「地方組合」ヲ組織シ馬ノ保險部ニ加入スル者ハ結束シテ「地方及郡組合」ヲ組織シタリ、牛ノ保險ハ緊急屠殺セラレタル家畜ノ肉ニ付其筋ノ警告ヲ受ケタル爲ニ生シタル損害迄モ填補シ、馬ニ於テハ割増保險料ヲ拂込ムト同時ニ分曉ニ基ケル損害ヲモ填補ス、獸疫ニ原因スル損害モ現行法上國費ヲ以テ填補スルノ途ナキモノハ填補セラルヘク、此ノ點ハ注意ヲ拂フヘキナリ

保險料ハ牛ノ保險部ニテハ保險契約高ノ百分ノ一トシ此ノ外尙保險契約高ノ〇、二乃至〇、八%ニ相當スル各加入者ヨリ徵收スヘキ獸疫割増料ヲ加フ、馬ノ保險部ニテハ保險契約高ノ一、五乃至五、五%ニ相當スル保險料ヲ定メタル五種ノ危險等級ア

リ、之ニ對シテハ尙妊娠ニ基ケル損害ニ對スル割増トシテ「保險契約高ノ」一乃至二%及一般ノ獸疫割増トシテ保險契約高ノ〇、〇五%ニ相當スル割増料ヲ加フ、損害填補ハ「地方及郡組合」カ保險料ノ一半ヲ以テ損害ノ相當部分ヲ填補シ各保險所自己ニ振當テラレタル殘餘即他ノ一半ヲ以テ損害ノ殘リヲ填補スルニヨリテ爲サル、損害ヲ填補スルニ就テ資力乏シキ場合ニハ不足額ヲ一時地方費ニテ支辨シ翌年ニ至リ各組合ノ追納金ヲ以テ之ヲ償フナリ、保險金トシテ支拂ハルル額ハ損害發生ノ場合ニ委員ノ査定スル所ニ依リ廢肉利用ニ依ル賣上代金ヲ控除シタル價格ノ八割トス、事務費ハ其邦ノ負擔ニシテ、保險所ハ一般補助金トシテ年額十萬「クローネ」ヲ支給セラル、牛保險部ハ特別補助金四萬「クローネ」ヲ毎年交付セラレ又馬保險部ノ郡組合ハ各四千「クローネ」ノ特別補助金ヲ毎年交付セラル、此ノ點カラサル補助金ニ依リ保險所ハ非常ニ長足ノ發達ヲ爲シ得タリ、即牛保險部ノ保險契約高ハ去ル一八九九年ニ「二五、一八〇、六五〇」クローネナリシモ一九一一年ニハ「五〇、八六三、五八〇」クローネニ上リ又馬保險部ノ保險契約高ハ初年目（一九〇〇年）ニ「一一、六三三、二九〇」クローネナリシモ一九一一年ニハ「三三、一五九、〇四〇」クローネトナレリ

低地埃太利ノ例ニ倣ヒ高地埃太利「メーレン」、「ケルンテン」、「チロール」、「イストリン」等ニ於テモ亦之ニ類スル官立保險所ヲ設ケタリ、「ベーメン」ニハ地方畜牛保險組合ノ聯合團體タル再保險組合アリ此ノ再保險組合ハ約一百萬「クローネ」ノ保險契約高ヲ再保險トシテ引受ケタリ、洪牙利ニテハ一八九八年家畜保險營業ノ爲メ有限責任組合タル「相互家畜保險會社」ヲ「ブダペスト」市ニ設置セリ、コノ會社ハ資本金二十萬「クローネ」ニシテ國庫補助ナシ、保險料ハ之カ爲メ國ノ補助ヲ受クル埃國各地ノ官立保險所ノ保險料ヨリ高シ、然レトモ同社ノ發展頗ル目覺タマシキモノアリ其ノ契約高ハ一九〇一年當時「五、〇二五、七五〇」クローネナリシニ一九一一年ニハ「一四、五八一、一五〇」クローネトナレリ

番號	名 稱	保 險 契 約 高	保 險 料	賣 上 代 金	損 害 額	事 務 費
一	低 奧 地 方 家 畜 保 險 所	八九、〇九二、六二〇	一、八六五、六〇九	六三七、八五六、二四三、〇九八	一七七、七八三	一七七、七八三
二	高 奧 地 方 家 畜 保 險 所	八、〇一七、九二〇	一六三、八三九	五四、八九七	二一八、一四三	五二、三八九
三	メーレン地方家畜保險所	四五、一八六、四六〇	三五六、七三九	二〇一、六〇二	六〇九、一九八	六三、三三七
四	ケルンテン地方家畜保險所	七、六七〇、八〇〇	一〇〇、五三〇	五九、九三四	一五四、八一八	三二、七三五
五	チロール地方家畜保險所	二九、一六六、六九〇	三四五、七七九	一、四三三、一一〇	一、四三三、一一〇	六四、一七〇
六	イストリーア地方家畜保險所	一、一二九、四七〇	一四、〇六六	五、八九七	二七、七二九	?
七	フォアアールベルグ 家 畜 保 險 組 合	三、九九三、〇二〇	七六、九六三	—	六二、二九一	一〇、三六五
八	洪牙利相互家畜保險會社	一四、五八一、一五〇	二七五、一六五	六三、三三九	一七四、四七六	一三八、七四一

註 廢物利用ニ基ケル賣上代金ハ控除シタリ

### 第二節 瑞西ニ於ケル家畜保險

瑞西ノ諸州中ニハ十九世紀ノ初頭既ニ獸疫損害ニ對シ填補ヲ爲シタルモノアリ、又一八五三年六月二十七日ノ協約ニ依リ「チユーリヒ」、「ベルン」、「ルートツエルン」、「ツォグ」、「フライブルヒ」、「ゾーロツルン」、「アールガウ」、「ノイエンプルヒ」ノ八州ハ獸疫豫防對策ニ就キ結束ヲ爲シタリ、其ノ後一八七二年二月八日ノ同盟立法ニ依リ初メテ共通規定設ケラレ爾來家畜飼養者ハ獸

疫ニ罹レル家畜若ハ其ノ疑似症ノ家畜ノ屠殺及傳染病毒附着ノ疑アル器物ノ燒却ニ關スル警察令ニ因リテ蒙リタル損害ヲ填補セラルルコトナレリ、損害填補ハ原則トシテ各州ノ負擔ナレトモ州同盟ハ牛疫ノ場合ニ限り保險金支拂濟額ノ一半ヲ後日ニ至リ補助スルコトト爲セリ

此ノ法律ニ對スル施行規則ハ各州ニ於テ制定セラレタルカ此ノ規則ニ基キ各州ハ牛疫、肺結核、炭疽、氣腫疽、鼻疽、恐水病ニ因ル損害ヲ填補シ、又「グダールス」及「フライブルヒ」ノ兩州ニテハ流行性鵝口瘡ニ因ル損害モ填補シ「ルートツエルン」州ニテハ豚丹毒ニ因ル損害モ填補シタリ、屠殺後ニ至リ健全ナル家畜タルコトヲ證明セラレタル場合ニハ其ノ價格ノ全部ヲ賠償スルヲ原則トシ其他ノ場合ニハ損害填補ノ額ハ各州毎竝ニ獸疫ノ種類ヲ異ニスル毎ニ同シカラス

家畜生命保險ノ組織ヲ見ルニ瑞西ニテハ強制的家畜保險ヲ大々的ニ行ヒ大多數ノ州ハ牛ニ付而シテ若干ノ州ニ於テハ小家畜ニ付テモ保險強制ヲ實施シタリ、保險強制ニハ絕對的強制ト條件付強制トアリ、絕對的強制ナル場合ニハ各市町村毎ニ又ハ多數ノ市町村ヲ通シ一ノ地方組合ヲ設ケサルヲ得ス、條件付強制ナル場合ニハ當該家畜所有者ノ一團カ同意シタルトキニ限リ這般施設ヲ爲スコトヲ得ルモノトス、尙地方組合ハ州ヨリ毎年補助金ヲ受ケ其ノ額ハ保險料收入ノ二割乃至三割ノ間ニア

瑞西ノ地方的家畜保險ノ發展上ニ多大ノ關係アルモノハ一八九三年十二月二十二日附同國法律「農業獎勵ニ關スル件」ナリ、此ノ法律ハ各州カ其管内全般又ハ一部ニ對シ保險強制ヲ行フヘク宣明シタルトキハ絕對的強制タルト、條件付強制タルトヲ問ハス瑞西中央政府ハ州ニ對シ補助金ヲ爲スコトヲ規定シタルモノニシテ補助額ハ地方組合ニ對スル州ノ補助金ト同額以下トス、一九一一年ニ既ニ強制家畜保險ヲ實施シタル州十七、是ニ依テ保險セラレタル家畜數七六二、七三七頭、其ノ契約高ハ



「二六三、二二一、二四四」フランニ達セリ、保険金總額ハ「三、六五七、三〇四」フランニシテ州ノ補助金ハ「九四八、二二二」フランナリ、而シテ瑞西中央政府ノ補助金ハ全然之ト同額ナリ  
 瑞西ノ家畜保險界ハ地方組合及之ヨリモ大規模ナル家畜保險會社ニ二分セラル、會社ハ(一)「ラウザンネヒ」ニ本社ヲ有スル Mutuelle Chevaline Suisse (二)「カールスルーヘ」ニ本社ヲ有スル「バージツシエ」馬匹保險所(三)「巴里」ニ本社ヲ有スル Garantie Fédérale ノ三社ニシテ初ノ二社ハ唯馬ノミヲ保險シ後ノ一社ハ牛馬ヲ保險ス  
 而シテ三社何レモ相互會社ニシテ最初ノ二社ハ「前納保險料」ヲ徵シ尙「追納金」ヲ徵收スルコトアルヘキ條件付ナルモ最後ノ一社ハ保險料ヲ一定シ萬一收支不償ノ場合ニハ損害填補額即保險金ヲ相當引下ケ得ル權利ヲ保留セリ、此ノ三社カ瑞西ノ内地ニテ營業セル成績ハ一九一一年ニ於テ左ノ如シ

會社ノ名稱	保險契約高	保險料	損害填補額	差引損益	積立金
Mutuelle Chevaline Suisse	六、六八七、一七五	二一一、四二九	一六五、七五四	+	二三八、〇三五
Raifische Pferdeversicherung-Anstalt	二、七九七、七〇〇	一三五、五〇三	一二八、七三一	+	一一一、八〇一
Garantie fédérale	七、〇〇二、一一〇	二七二、七九四	一八四、五六四	+	九二、七七五
計	一六、四八六、九八五	六一九、七二六	四七九、〇四九	+	四四二、六一一

### 第三節 佛蘭西ニ於ケル家畜保險

佛國ニ於テモ或ル防疫ニ對スル防疫施設ヲ爲シ之ヨリ生スル損害ノ填補ヲ公費ニテ支辨セリ、即牛疫、鼻疽、肺疫及結核ニ

ル損害ニ對シテ保險金ヲ交付スルモノトス、

家畜生命保險ノ營業者ヲ大別シテ(一)營業地域ノ比較的廣キ相互會社及(二)地方的家畜保險組合ノ二種トス、前者ニ屬スルモノノ中最古ノ歴史ヲ有セシ Sociétés d'assurances réciprocques (本社「巴里」所在)ハ千八百三二年ニ設立セラレタルモノ千八百三十八年ニ解散シ其ノ他二三ノ會社モ創立後概シテ短命ヲ免レサリキ、今日迄殘存セル會社中最古ノモノハ千八百五十四年ノ設立ニ係ル Maternelle (本社「Dreux」所在)及 Union Beaucevonne (本社「Pithiviers」所在)ノ兩社ナルカ營業年數ノ古キニ比シ其ノ發展遲キトシテ振ハス佛國ニ於ケル數多ノ家畜保險會社ノ事業成績ヲ大觀シタル數ハ左表ニ示ス如シ  
 佛國ノ家畜ハ合計無慮六十億「フラン」ノ價値アル點ヨリ見レハ佛國ニテ大會社カ家畜保險ニ干與スル割合ハ獨逸ニ比シ尙劣レルモノアリ、佛國家畜保險ノ特色、ト思ハルルモノハ保險料ノ徵收方法ナリ、獨逸ニ於テ旺ニ行ハルル方法トハ異リ佛國ニテハ殆ト皆一定保險料ヲ徵シ他日場合ニ依リ保險金ヲ削減スルコトアルヘシトノ條件ヲ附セリ

番號	會社ノ名稱及所在地	加入者ノ數	保險契約高	保險料及附屬費	損害件數	損害填補額
一	Avenir, Paris	一四、二三〇	三七、〇六五、六八〇	一、三七二、三一五	一、九九二	一、二九三、一九五
二	Bénel, Paris	六七〇	五七二、〇九〇	一九、四二九	三二	一一、七二一
三	Bon Labeur, Dreux	三、二七八	六、〇〇七、四一五	二二九、四八五	三四五	二一五、六八九
四	Garantie fédérale, Paris	一、一三二	二、三三三、三八〇	九九六、三七一	一、七六二	七〇〇、三三六
五	Garantie mutuelle d'Ilhiers	九、八一五	一六、八七六、〇〇〇	七二九、六〇九	九〇八	五二二、一九四
六	Maternelle, Dreux	五二〇	九八二、一三五	三三、八七五	五四	三三、八七五

七	Cultivateurs, eurs Nantes	二、一三一	二、六六五、三六〇	四六、九三〇	二三四	五一、〇五六
八	Dréyante, Nemours	七三四	一、〇七一、九八五	五四、四七九	八〇	四三、七六〇
九	Union Beauceronne, Pithiviers	七二四	八八〇、〇五五	五五、二三一	一〇〇	五一、〇六三
一〇	Fédération des Agriculteurs	二、二一〇	五、五〇七、五六〇	一四八、〇〇二	二六五	一、二三、七七九
一一	Mutuelle Hippique, Paris	四、六一八	九、二四三、九五〇	三二二、八二四	二八八	二〇六、八二〇
計		五一、〇五二	一〇四、二一三、六〇〇	四、〇〇八、五五〇	六、〇六〇	三、二五五、四八八

保險ニ依リテ保護ヲ享クル範圍ハ大部分唯斃死若ハ緊急屠殺ニ基ケル損害ノミニ限ラレ價値減退マテモ保險スル例ハ極メテ罕ナリ、保險金ノ拂渡ハ營業年度ノ事業成績ノ確定ヲ待ツテ初メテ行ハルルヲ原則トスルモ多クノ會社中ニハ其ノ賠償義務ノ確認直後假支出ヲ爲シ居レルモノアリ、一般保險約款ハ概ネ獨逸ノ會社ト類似セリ

佛國ニテモ獨逸ト同シク家畜生命保險ノ核心ハ資力豊富ナル會社ニ非スシテ寧ロ地方的ナル組合ニ在リ、組合ノ數ハ佛國全國ニ亙リ約八千ニ達スヘク、而シテ此等保險組合ハ國家ヨリ多大ノ在護ヲ享ク保護ハ形式ハ補助金ノ交附ニ依ルコトアリ又一定ノ公課ヲ免除スルコトアリ、國庫補助ニハ二様ノ形式アリ、第一ハ新設組合ニ對シ創立補助費トシテ一回限りノ補助金ヲ下附スルモノニシテ第二ハ既設組合ニ對シ必要ト認ムル場合ニ保險金ノ補給ヲ爲スコトナリ、而シテ如上ノ補助金及補給金ノ程度ハ實情ニ照ラシ一件毎ニ之ヲ測定スルモノトス

地方組合ヲ結束シテ聯合會ヲ組織スルコトハ佛國ニ於テ大規模ニ行ハル、聯合會ノ管轄區域ハ一州或ハ數州ニ亙リ聯合會ノ目的ハ聯合會員タル組合ニ對シ補助金ヲ交付シ以テ保險金ヲ支出セシ爲組合カ非常ナル動搖ヲ蒙ルヲ避ケシメントスルニ在

リ、此ノ目的ヲ達スル手段トシテ聯合會ハ國家ヨリ補助金ヲ受ケ且管内ノ各地方組合ヨリ一定ノ掛金ヲ徵收ス聯合會ニ對スル各組合ノ掛金並組合ニ對スル聯合會ノ補助金ヲ算出スル基準ハ聯合會毎ニ同シカラス、全國内ニ於ケル聯合會ノ數ハ約四十ニシテ之ニ加入スル組合ハ約二千ニ達シ聯合會ノ取扱ヒタル契約額ノ總計ハ約一億「フラン」ニ及ヘリ此等ノ聯合會ヲ更ニ糾合シテ一大中央再保險金庫ヲ組織シ以テ此ノ保險界ヲ三分セントスル計畫アルモ此ノ計畫實施セラレハ(一)地方組合(二)聯合會(三)佛國中央金庫ヲ現出スルコトトナルヘク、斯クシテ各地方組合ニ給スヘキ補助金ヲ適當ニ分配シ尙不足ヲ生スルトキハ聯合會及中央金庫ノ取扱フ再保險ニ依リテ之ヲ補フコトトナリ調節ヲ圖ル上ニ於テ效果多カルヘキモノト云フヘシ

### 第四節 其他諸國ニ於ケル家畜保險

其他ノ歐洲諸國モ概ホ皆獸疫ニ因ル損害ニ對シ一定條件ノ下ニ國庫ヨリ賠償金ヲ交付スル制度ヲ採レリ、若シ家畜カ獸疫ニ罹レル疑アル爲ニ警察側ノ命令ニ依リ撲殺セラレ而シテ死後ニ至リ獸疫ニ罹リ居ラザリシコトヲ發見セラレタルトキニハ保險金ハ其ノ全額ヲ支給セララルルヲ原則トスルモ若シ家畜ノ死因カ傳染病ナルトキ又ハ屠殺後ニ至リ初メテ傳染病ニ罹レルモノタルコト發見セラレタルトキハ保險金ノ一部ノミヲ支給ス、然レトモ各國ハ獨逸國カ獸疫法ヲ定メ聯邦カ之カ施行法ヲ設ケテ實現シタル如キ公法上ノ獸疫保險ノ制度ハ之ヲ認メス

各國ニ於ケル家畜生命保險制度ヲ見ルニ各事情ヲ異ニスルモノアリ即左ノ如シ  
伊太利ニハ現ニ四大家畜保險會社アリ、Societa mutua, Mutua mantovana, L'Avenir, Societa Italiana, ニシテ前三者ハ相互會社

最後ノ者ハ株式會社ナリ、此ノ四社ハ孰モ近年ニ至リテ創設セラレタルモノナレハ、從テ契約件數等モ頗ル尠シ、要スルニ家畜生命保險ハ地方的ナル保險組合ニ依リテ經營セラルルニ過キス、而シテ此等ノ組合ハ一定ノ國稅其他ノ公課ヲ免除セラレ大ニ其ノ發達ヲ獎勵セラレツツアリ、組合ヲ結束シテ州聯合會トナシタル場合尠カラス、而シテ此等ノ州聯合會ハ一九一一年以來更ニ團結シテ全國ヲ統合スル所ノ中央再保險聯合本部ヲ組織シタリ

自耳義ニテハ「ウエストフランデルン」及「アントワープ」ノ兩州ニ獸疫ニ因ル損害及傷病ニ因ル損害ヲ填補スル爲メ家畜保險基金部ヲ設ケタリ、又全國ニ涉リ多數ノ地方的家畜保險組合アリ、此ノ組合ハ前記兩州内ニテモ州ノ基金部ヨリ保險金ヲ交付セラレサル場合ニ於テハ設立セラルルモノトス、千九百十年ノ現在調ニ依レハ牛ノ保險組合一二〇〇アリテ三〇四、六四〇頭ヲ保險シ其價格ハ「一一二、五五三、三四〇」「フラン」ト註セラル、又保險料ノ總額ハ「九八二、五四二」「フラン」癩肉利用ニ基ケル賣上金高ハ「五四六、五七〇」「フラン」、保險金拂渡濟額ハ「一、三八二、七一八」「フラン」ニ及ヘリ

瑞典ニテハ一九一〇年現在調ノ統計ニ依レハ營業範圍全國ニ亘レル大會社一二、二縣以上ニ亘レル二流會社三六、地方組合ニシテ聯合會ノ性質ヲ帶ヘルモノ一〇八及單ニ地方組合ニ相當スルモノ五四九アリ

以上ノ保險業者カ取扱ヒタル牛馬ノ保險契約高ハ馬一四一、六〇〇、〇〇〇「クローネ」牛七四、八〇〇、〇〇〇「クローネ」ナリ

丁抹ノ家畜保險ハ専ラ地方組合ニテ經營シツツアリ、千九百十年調ニ依レハ其ノ組合數約一千ニ達シ約三十萬頭ノ馬ト二十五萬頭ノ牛ヲ保險シ保險契約高ハ約二億「クローネ」ニ及ヘリ

芬蘭ハ一九一〇年ニ於テ四大會社アリテ各社トモ皆全國ニ涉リ營業シ其ノ外小規模ナル地方組合百アリ、四社ノ取扱ヘル家

畜頭數ハ馬二四、三八五頭、牛一六、三九三頭ニシテ契約高ノ總計ハ、「一一、七二九、四八〇」「マルク」但芬蘭「マルク」ナリ又地方組合ニテハ二九、四九五頭ノ馬ト四二、一〇七頭ノ牛ヲ保險シ其ノ總契約額「一四、四三三、八〇〇」「芬蘭「マルク」ニ達セリ

「ブルガリヤ」ニテハ電害保險ノ外ニ尙一九一二年ニ至リ家畜保險マテモ國營ニセリ、新設保險所ハ要スルニ地方的ナル家畜保險組合ノ聯合會ニ外ナラス、而シテ其ノ組織ハ大體ニ於テ「バイエルン」邦ノ官立保險所ヲ模倣シタルモノナリ、資本金五十萬「フラン」ノ利子ノ外年ニ額十萬「フラン」ノ國庫補助金アリ

## 第六章 結 論

家畜保險ト電害保險トハ歷史上ノ沿革ニ於テモ法律上及技術上ノ構造ニ於テモ相異ナルモノアルヲ以テ家畜保險ノ將來ニ於ケル發展モ亦電害保險ニ於ケル場合トハ全ク異ナレル徑路ヲ採ルヘク電害保險ニテハ一齊ニ統一セラレタル保險強制力行ハレ家畜保險ニテハ種々經營條件ヲ異ニスル而カモ相互間ニ劇然タル分界アル三種ノ經營者出現シ得ヘク、而シテ此點ハ將來ノ發展上兩者間ニ差別ヲ生スル原因トシテ有力ナルモノタルヘシ

一九〇九年六月二十六日附獨國法律ヲ以テ一切ノ重大ナル事情ニ對スル徹底的規定ヲ設ケタル爲防疫、獸疫、保險ノ方面ニ於テ近キ將來更ニ獨逸中央政府ヨリ法律上ノ取締規定ヲ發セラルヘシトハ豫想シ得サルニ至レルヲ以テ寧ロ現在ノ制度ノ儘防疫立法ノ缺陷ヲ補ヒ極力改善シ行クコトハ各聯邦ノ任務タルヘシ

想フニ改善改造ノ行ハルル毎ニ眞正ノ家畜生命保險ハ其ノ圈内ニ屬スル保險契約件數ヲ多少減少スヘキハ自明ノ理ナルヘシ

ト雖、傳染病ニ非ル疾病ノ爲ニ家畜ヲ脅威スル他ノ危險ヲ考慮スル時ハ決シテ保險加入ヲ減退スルニ非サルヲ以テ其經濟界ニ及ホス功績ハ之カ爲ニ毫モ減退スルコトナシ、家畜生命保險ノ過去ノ發達ヲ顧ミレハ各人ノ保險加入ノ要求ヲ満足セシメシトセハ結局地方組合ノ發展ヲ助長スルコトナルヘシト雖、何レノ文明國而カモ畜産國トシテ一流ニ位スル文明國ニテモ今日迄總テ地方組合ノミニ立脚シテ家畜保險問題ノ解決ヲ試ミタルモノハナク、皆大會社主義ヲ改造シテ家畜生命保險獎勵ノ目的ヲ達セント計畫セリ、而シテ近來此ノ傾向ニ變化ヲ生シ地方的ナル組合組織ノ諸般特長ヲ尊重シ組合組織ノ唯一ノ缺點タル局地的ナル點ヲ補フ爲ニ多數ヲ結束シテ聯合會ヲ組織スル趨勢ヲ生スルニ至レリ

獨逸ニ於テ聯合會ナル組織カ前世紀ノ九十年代以來或ハ國家ノ干渉ニヨリ或ハ民間ノ刺戟ニ依リ如何ナル進歩ヲ遂ケタルカハ前述セル所ノ如ク、「プロイセン」ニ起リタル歴然タル風潮ニ依レハ這般運動ノ益々旺盛ナルヘキハ逆睹スルニ難カラス、地方組合ノ結束ニヨリ一層良好ナル損害調節ノ目的ヲ達成スルト共ニ一面適當ナル簿記或ハ家畜ノ疾病豫防ニ關スル知識ノ普及ニ依リ各組合ノ保險技術の制度ノ向上發展ヲ期待シ得ヘシ

地方組合ヲ結合シテ聯合會ヲ組織スルコトカ果シテ家畜保險國有ノ實現ニ依リ克ク其目的ヲ達成シ得ヘキカハ疑問ナリトス、國營ノ場合ニ於ケル一大特長ハ必要ニ應ジ組合設置ノ際及組合ヲ聯合會ニ結束セシムル際ニ一定ノ強制ヲ施シ得ルコトナルヘク斯クスレハ損害調節ノ目的ハ最モ速ニ達シ得ヘシト雖、一面任意ニ組合ヲ結合セシメテモ尙同一目的ヲ達シ得ヘキモノト云フヘク即國庫補助金ヲ交付スルコトニ依リテ聯合會ニ加入シ易ラシメハ此目的ヲ達スルニ難カラザルヘシ、何レノ國ニ於テモ小規模獨立團體ヲ新ニ設立セシメ之ヲ保護スルコトハ必要ノ事項ナルヲ以テ國家ハ公共利益ノ見地ヨリ農業上ノ零碎ナル資本ノ集積ヲ意味スル地方的家畜保險組合ヲ堅實ニシ優勢ナラシムル爲適當ナル手段ヲ講スルニ躊躇セサルナリ

多數ノ地方組合ノ任意の結合ニ對シ國家ハ法規ヲ制定スルノ必要ナク、國家ニシテ斯カル結合ヲ自ラ爲ササルトキハ國庫補助金ノ客觀的利用ヲ保障スル爲ニ半官的ノ管理機關ヲ如上ノ結合ニ依リ設クレハ可ナルヘシ、例ヘハ普魯西ニ於テハ郡及州ヲ基礎トシ郡内ニ於ケル各組合聯合シテ郡聯合會ヲ組織シ郡聯合會ハ更ニ聯合シテ州聯合會ヲ組織セハ可ナルヘシ、而シテ農業會議所ハ個々ノ組合ノ加入者ト密接ナル關係アルヲ以テ各聯合會ヲ農業會議所ノ管理ニ參與セシムルコトハ利益アルコトト云フヘシ、

地方的家畜保險組合ニ對スル公費補助ヲ如何ニスルカハ考慮ノ餘地アリ、補助金交付ハ佛國或ハ「エルザース」ロートリンゲン州ノ公立家畜保險組合聯合會ニ於ケル如ク實際ニ臨ンテ一件毎ニ必要ノ額ヲ交付スル方法ニ依ルコトアリ、此ノ方法ニ依レハ補助ヲ要スルコト最モ切實ナル組合ノミヲ保護スルコトナルヘク且一定標準ヲ缺ク場合ニ補助金分布ノ不條理ニ傾クヲ防ク爲ニ一件毎ニ慎重ナル調査ヲ行フノ要アリ、補助金ノ交付ハ又「バイデン」<sup>1)</sup>「バイエルン」<sup>2)</sup>ノ官立保險所カ實施シ居リ且プロシヤノ州立保險所カ計畫シ居ル如ク聯合會ノ經營スル再保險ニ對シ一定或ハ増減性アル額ヲ交付スル方法ニヨリ行ハルコトアリ、此ノ方法ニ依レハ保險金支出ノ衡平ヲ期スルコトヲ得ヘシ

年々歳々増加ノ傾向アル地方的家畜保險組合ハ大々的ニ行ハルル國庫補助ニ依リテ尙一層増設ヲ促進セラルヘキハ當然ナルヘク、其結果大資本ヲ擁スル家畜保險會社ノ取扱ヘル農業上ノ家畜保險契約の件數カ益々減退シ地方組合ニ移動シ行キ會社ノ有スル保險契約現在高中、眞正ノ家畜生命保險ニ關スル分ハ概ネ地方組合ノ取扱ハサル部分即工業上ニ涉ルモノ種用ニ供セララル高價ノモノ或ハ奢侈性ヲ帶ヘル愛玩動物ニ限ララルコトニ事實上歸着スルニ至ルヘシ、家畜保險界ニ於ケル契約件數ノ分布カ斯カル傾向ヲ帶フル場合ニハ大會社ハ益々短期ノ家畜生命保險ノ業務ニ全力ヲ傾注スルニ至ルヘク、此ノ短期家

畜生命保險ハ會社ノ責任期間短キ爲メ被保險家畜ノ監視ヲ重大視スルノ要ナキヲ以テ營業區域ノ廣汎ナル會社ニ於テ營ミ易キコトハ明白ナリ、然レトモ相互會社ニ付テハ監督官廳ニ於テ短期家畜生命保險ト一般ノ加入者ニ係ル保險トノ比例ヲシテ或一定限度ヲ超過セサル様監督スルコト加入者全體ノ利益ヲ害スル原因ヲ避クル爲頗ル肝要ナリ

大會社ヲ背景トスル家畜生命保險ニ就テ述ヘタル所ハ大體ニ於テ之ヲ屠畜保險ニ準用シ得ヘク、縱令地方的ナル機關ニテ營業スルコトカ概シテ簡易單純ナリト云ヘ、屠畜保險ハ營業範圍ノ廣キ保險業者ニ依リテモ營ミ難キ譯ニ非サルナリ然レトモ被保險家畜ヲ適當ナル方法ニ依リテ標識スヘク努力スルコトハ尙必要ナルヘク、斯クセハ其ノ家畜カ真正ノモノナルコトヲ立證スルニ格別ノ困難ヲ見ルヘシ

要スルニ屠畜保險國有論ハ從來主ニ農界ノ利害ヲ代表スル諸機關ニ於テ提唱セラレタル所ニシテ、將來モ尙唱セラレヘク、國營ナル屠畜保險カ強制保險タル場合ニハ現行制度ノ或ル缺陷ヲ實際除キ得ルニ相違ナカルヘシト雖、即種々ノ重大缺陷ニ基ケル求償權ハ全ク其跡ヲ絶ツニ至ルヘク且刻下個々ノ屠場ニ於テ甚シク變動ヲ免カレサル屠畜保險ハ現在ヨリ廣キ區域内ニテ平均セラレル結果、拂込額ハ常ニ平衡ヲ保チ得ルニ至ルヘシト雖、「ブロイゼン」ニ於テ一九〇三年ニ再ヒ撤回セラレタル「官立屠畜保險所設立法案」ヲ他日更ニ提出セザラキ恐ラク其他ノ聯邦ニテモ此ノ問題ニ接近スルコトナカルヘシ、況ヤ強制加入ヲ主義トスル屠畜保險ノ實現ハ自家屠殺ノ場合ニモ檢肉強制ノ範圍ヲ擴大スルコトト關聯スルモノアルニ於テハ其ノ實現ハ甚タ困難ト云フヘク、而シテ法案ノ裡面ニ以上ノ如キ事情ノ伏在スル限り、議會ニ於テ同案カ多數ノ賛成ヲ得難キハ云フヲ待タサルナリ (完)

大正十五年六月六日印刷  
大正十五年六月八日發行

農 林 省 畜 産 局

東京市京橋區南鍛冶町九番地

印刷人 小 張 才 三 郎

東京市京橋區南大工町五番地

印刷所 小 張 印 刷 所



終

